

科目名	ポルトガル語		
科目コード	31206	科目ナンバリング	B312062
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	選択		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	久保原 信司		
実務経験	在名古屋ブラジル総領事館、サンパウロ新聞社、(株)インターナショナルプレス(ポルトガル語新聞社)に勤務		
オフィスアワー	授業後10分間(非常勤講師控室)		
科目概要	ポルトガル語は、主として日本の東海地方で生活する外国人の多くが母国語として使用する言語であり、通常は、居住地域内では母国語で意思疎通を行っているが、医療を必要とする場合には近隣の医療機関等を受診する。そのため、医療機関におけるポルトガル語の通訳へのニーズは高い状況にある。本科目では、ポルトガル語によって基本的な日常会話や意思疎通ができることを目標に、ポルトガル語の基本的な文法や単語、会話表現を学修する。ポルトガル語を使用する国々の歴史や文化、価値観についても親しみを持って理解する。		
到達目標	基本的なポルトガル語文法が理解できる。 ポルトガル語で簡単な会話ができる。 地域のブラジル人を身近な存在として感じられるようになる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		ブラジル社会やポルトガル語、日本のブラジル・コミュニティについての概説。 事後学修：以下の動画の視聴(本シラバス内で指定するすべての動画は久保原自身による制作物です) https://youtu.be/WH65-gCDB_Q	久保原
2		ポルトガル語の文字や発音記号、発音の規則、アクセントなどを学ぶ。 事前学修：以下の動画の視聴 https://youtu.be/ZTZXFgsdYZM https://youtu.be/Hz7BfmqjDUg 事後学修：次回の小テスト準備。出題の形式は授業内で伝える。	久保原
3		発音練習の仕上げにボサノバの名曲「イパネマの娘」を歌えるようにする。数字の学修。 事前学修：以下の動画の視聴 https://youtu.be/vR5o9D0m4t8 https://youtu.be/804pauuGLUw https://youtu.be/-N1sMbFxm2s https://youtu.be/ye0G0RyX0cg https://youtu.be/NSa0gk0tvs4 事後学修：次回の小テスト準備。出題の形式は授業内で伝える。	久保原
4		ポルトガル語のbe動詞に当たるser動詞の活用と名前、出身地、国籍、職業、既婚・未婚の別などの聞き方と答え方を学修する。 事前学修：以下の動画の視聴 https://youtu.be/83r1a--jN6w https://youtu.be/f5GDwUJ6L4c https://youtu.be/Wl1eiJosJx8 https://youtu.be/9aUmR8Yd9jM https://youtu.be/5iXzdbX-JAo 事後学修：次回の小テスト準備。出題の形式は授業内で伝える。	久保原
5		ser動詞を使ったあいさつ、自己紹介のダイアログを暗唱、発表。 事前学修：以下の動画の視聴 https://youtu.be/jNwvriJV8AA https://youtu.be/xQcV05h5Hh8 事後学修：次回の小テスト準備。出題の形式は授業内で伝える。	久保原

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
6		ビデオ学習：ブラジルに日本人が移民した歴史経緯を概観し、ブラジルの多民族社会や今日の「出稼ぎ」ブラジル人問題につながる背景について考える。 事前・事後学修はその都度指示する。	久保原
7		所有詞：「私の」「あなたの」「私たちの」の使い方を学修する。 事前学修：以下の動画の視聴 https://youtu.be/cjZ_crVbaSM 事後学修：次回の小テスト準備。出題の形式は授業内で伝える。	久保原
8		所有詞：「彼の」「彼らの」の使い方を学ぶ。 事前学修：以下の動画の視聴 https://youtu.be/HbSt90KDaJo 事後学修：次回の小テスト準備。出題の形式は授業内で伝える。	久保原
9		ポルトガル語のbe動詞に当たるestar動詞の活用と用法を学修する。 事前学修：以下の動画の視聴 https://youtu.be/D6Hpdstfdq8 事後学修：次回の小テスト準備。出題の形式は授業内で伝える。	久保原
10		estar動詞を使った体調、感情の表現を学修する。 事前学修：以下の動画の視聴 https://youtu.be/HwdfTef9VDk 事後学修：次回の小テスト準備。出題の形式は授業内で伝える。	久保原
11		ビデオ学習：日本におけるブラジル人たちの生活を学び、世代別に直面する様々な問題について考える。 事前・事後学修はその都度指示する。	久保原
12		規則動詞の活用と用法を学修する。 事前学修：以下の動画の視聴 https://youtu.be/92VVJGFzDio 事後学修：次回の小テスト準備。出題の形式は授業内で伝える。	久保原
13		前置詞と疑問詞の用法を学修する。 事前学修：以下の動画の視聴 https://youtu.be/hX9CrNdFWdc https://youtu.be/M6KWxKFKxig https://youtu.be/iUC8_GvW2U8 事後学修：次回の小テスト準備。出題の形式は授業内で伝える。	久保原
14		医療現場での通訳アシスタントを想定した会話の暗唱と発表。 事前学修：以下の動画の視聴 事後学修：次回の定期試験準備。	久保原
試験		定期試験	久保原
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分	
評価方法		小テスト40%、定期試験60%、計100%	
課題に対するフィードバック		レポート等はコメント等を付して返却する。	
教科書		『ブラジル人による生きたブラジルポルトガル語・初級』同学社	
参考書		無	
履修上の注意点及び取扱い		1. 事前学修は授業の補助教材として久保原が制作・公開している動画を視聴し、予習とする。 2. 前回の授業内容を確認する小テストを授業の最初に行うので、事後学修をしっかりと行うこと。	

科目名	性と生殖の科学		
科目コード	31307	科目ナンバリング	B313072
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	助産師課程必修科目		
教員名	小島 徳子・中北 武男		
実務経験	助産師として病院勤務（小島） 専門医・指導医、母体保護法指定医として病院勤務（中北）		
オフィスアワー	小島：t.kojima.t@ikc.ac.jp 中北：講義時間の前後		
科目概要	生命の誕生以来、途切れることなく続いてきたヒトの生殖細胞系列の形成メカニズム、性決定/分化/転換、「性」と「生殖」の発達と特徴を理解する。また、生殖補助医療に関わる医学的、倫理的な課題、今日増加している性感染症の問題など、さまざまなライフサイクルおよび健康レベルにある人々の一生を通じた性と生殖に関する健康問題について学修し、性と生殖の発達における健康問題について、問題解決のための援助方法を看護の視点で考える。		
到達目標	ヒトの生殖細胞系列の形成メカニズム、性決定/分化/転換、「性」と「生殖」の発達と特徴を理解する。 生殖補助医療（体外受精や卵管内移植など）に関わる医学的、倫理的な課題を理解する。 さまざまなライフサイクルおよび健康レベルにある人々の一生を通じた性と生殖に関する健康問題を理解する。 性と生殖の発達における健康問題について、看護の役割を理解し、問題解決のための支援を考える。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		科目ガイダンス、不妊と生殖補助医療の実際 事前学修「母性看護学各論」pp.27-47、事後学修 配付資料参照	小島
2		人間の性と生殖の概念、生殖器の形態と機能、生殖機能 事前学修「母性看護学概論」pp.98-125、事後学修 配付資料参照	中北
3		ヒトの生殖細胞系列の形成メカニズム、性決定/分化/転換 事前学修「母性看護学概論」pp.98-125、事後学修 配付資料参照	中北
4		性感染症とその予防 事前学修「母性看護学概論」pp.258-282、事後学修 配付資料参照	小島
5		性暴力 事前学修「母性看護学概論」pp.282-302、事後学修 配付資料参照	小島
6		生殖補助医療と法的側面 事後学修 配付資料参照	小島
7		生殖器の腫瘍 事後学修 配付資料参照	小島
試験		定期試験	小島
事前・事後学修	事前学修：教科書該当ページを精読する。各回120分 事後学修：事前学修で作成したノートに授業内容を追記し、学修内容を整理する。各回120分		
評価方法	定期試験：100%		
課題に対するフィードバック	課題レポート等は、コメント等を付して返却する。		

教 科 書	1. 森恵美編：「系統看護学講座専門分野 母性看護学概論」（第15版）、医学書院、2026 2. 森恵美編：「系統看護学講座専門分野 母性看護学各論」（第15版）、医学書院、2026
参 考 書	1. 益田早苗：「ヒューマン・セクシュアリティ論ノート」、大空社、2015 2. 関口久志：「改訂性の“幸せ”ガイド 若者たちのリアルストーリー」、エイデル研究所、2021 3. 橋本紀子他、編：「ハタチまでに知っておきたい性のこと」（第3版）、大月書店、2025
履修上の注意点 及び取扱い	1. 事前（教科書該当ページを精読する。各120分）事後（事前学修で作成したノートに授業内容を追記し、学修内容を整理する。各120分）の学修を怠らないこと。 2. 講義中の飲食、メールのやり取り、写メ、私語は禁止する。 3. 積極的に授業に参加すること。 4. 授業の振り返りシート（ミニツツペーパー）は、提出期限を厳守すること。必須振り返りシートが提出されない場合、当該授業日は欠席の扱いになる。

科目名	教養ゼミナール		
科目コード	32101	科目ナンバリング	B321011
授業形態	演習	開講時期	1年通年
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	肥田 武・安藤 祥子・石井 成郎・大谷 恵・鈴江 智恵・西谷 直子・野村 千文・東野 督子・松井 優子・小島 徳子・小平 由美子・滝沢 美世志・伊東 裕康・岩井 美世子・大瀬 恵子・小澤 直樹・河村 江里子・後藤 美恵・佐々木 久美子・高島 孝晃・松山 旭・村岡 大志・川井 伸恵・中山 八重・野々山 英里・平野 友美		
実務経験	助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野・中山) 保健師として行政等勤務(西谷) 看護師として病院勤務(安藤・大谷・鈴江・野村・東野・松井・小平・滝沢・岩井・小澤・河村・後藤・佐々木・村岡・高島・松山・川井)		
オフィスアワー	授業日・授業終了後から17時まで・担当教員メールアドレス宛てに連絡		
科目概要	<p>本科目では、プロジェクト活動を通して、大学生に求められる主体的な学びの基盤となる知識・技能・態度を修得する。プロジェクト活動では、今年度は大学の立地する一宮市を"地元"と捉え、"地元"固有の課題を把握・検討し、その課題の改善策を計画・提案する。</p> <p>前半はプロジェクト活動を効果的に進めるために必要な基礎を一斉講義で学び、"地元"の課題に関する調査を行う。後半は議論と提案資料作成を少人数のゼミナールで協働実施する。</p> <p>作成された資料は学年全員でオンライン共有し、印象に残った提案に対する意見と協働活動をとおして学んだことを各自で簡易レポートにまとめる。</p>		
到達目標	<p>"地元"の課題を識別し分かりやすく説明できる(知識)。 課題の分析に基づき改善策を計画・立案できる(知識)。 少人数での協働を計画的に首尾よく実施できる(技能)。 自発的言動と協働の重要性を認めようとする(態度)。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			○
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		前半：地域に根ざしたプロジェクト活動について 後半：グループでの協働について	肥田・野村
2		一宮市のまちづくりについて	肥田・野村
3		一宮市の子育て・教育について	肥田・野村
4		一宮市の健康・福祉について	肥田・野村
5		一宮市の防災について	肥田・野村
6		"地元"の課題の調査1	肥田・野村
7		"地元"の課題の調査2	肥田・野村・大谷
8		一宮市のボランティアについて 課題解決に向けて	肥田・野村・大谷
9		課題の検討と改善策の立案1	各教員
10		課題の検討と改善策の立案2	各教員
11		提案資料の作成1	各教員
12		提案資料の作成2	各教員

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
13		簡易レポートの作成	各教員
14		簡易レポートへのフィードバックと推敲	各教員
事前・事後学修		事前学修：グループを担当する教員が指示する。各回120分 事後学修：グループを担当する教員が指示する。各回120分	
評価方法		コメントカード25%、提案資料25%、少人数協働への貢献25%、簡易レポート25% 詳細はグループを担当する教員が指定する。	
課題に対するフィードバック		簡易レポート等に対しては適宜コメントを付す。	
教科書		必要に応じて、担当する教員が提示する。	
参考書		佐藤望他：「アカデミック・スキルズ 第3版 大学生のための知的技法入門」、慶応義塾大学出版会、2020年	
履修上の注意点及び取扱い		必要に応じて、担当する教員が提示する。	

科目名	看護研究法		
科目コード	32102	科目ナンバリング	B321022
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	肥田 武・西谷 直子		
実務経験	西谷：保健師として行政等勤務		
オフィスアワー	講義時間前後、これ以外はアポイントメントを取ることに		
科目概要	臨床において看護実践を行う中で、多岐にわたる問題が生じる。その解決のためには、科学的に根拠をもって対応する必要がある。それには研究という手法を用いる。この科目では、看護実践に必要な研究の基礎となる知識を修得することを目的としている。看護研究の必要性を理解し、研究疑問から研究の目的、デザイン、倫理など、研究計画立案のためのプロセスを学修する。		
到達目標	看護研究の意義と役割を理解する。 看護研究方法とプロセスを理解する。 研究における倫理的配慮と研究者の倫理的姿勢を理解する。 文献検索および文献検討の方法を理解する。 量的研究・質的研究それぞれの方法を理解する。 研究疑問から研究計画書作成までのプロセスを理解する。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		看護研究の意義と役割：看護研究とは？	西谷
2		看護研究課程の概観：研究デザイン、研究方法	西谷
3		看護研究における倫理的配慮：研究における倫理、倫理的姿勢とは事後学修と次回の事前学修を指示する。	肥田
4		文献レビュー：文献とは、文献クリティーク事後学修と次回の事前学修を指示する。	肥田
5		質的研究：質的研究とは？質的研究のすすめ方とまとめ方事後学修と次回の事前学修を指示する。	肥田
6		量的研究：量的研究とは？量的研究のすすめ方とまとめ方	西谷
7		研究計画書について：作成してみよう！	西谷
事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分		
評価方法	研究計画書100%		
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。		
教科書	特になし。		
参考書	担当教員の指示による。		
履修上の注意点及び取扱い	日々の生活の中で生じる問題や課題、疑問を大切にしてください。		

科目名	解剖生理学概論		
科目コード	33102	科目ナンバリング	B331021
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	櫻井 武		
実務経験	医師として病院勤務		
オフィスアワー	講義のある日の夕方。それ以外はメール等にてアポイントメントを取ってください。		
科目概要	<p>細胞の構造と機能、それを支えるエネルギー等の基本的な化学、脊椎動物の発生と分化、個体を構成する各臓器、組織の形態と働き、生命・生存の維持に必要な機能とホメオスタシス（恒常性）などの全身の機能と解剖生理学の基本的な用語について学習する。具体的には、真核細胞の形態と機能、臓器の組織とその由来、DNA、RNA、タンパク質、エネルギーの産生と消費、恒常性の維持、体温調節と生体リズム、について解説する。</p> <p>さらに、新生児期から高齢期に至るまでの人体の構造と機能について発達段階の順序に応じて学習する。具体的には、生殖器について構造と機能を学び、人の発生から小児期・思春期・成人期・老年期までの成長発達（発育）と性発達の特徴及び、妊娠期と出産後の変化について解説する。</p>		
到達目標	<p>生物がどういう構造になっているか、それぞれのレベルで大まかに説明できる。 生物を構成する物質の構造と機能を説明できる。 遺伝という現象を例を挙げて説明できる。 体の恒常性という概念を説明できる。 ヒトの一生（受精から死ぬまで）を生物学的に説明できる。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画（回数）	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		細胞、組織、器官 教科書p2-6,p9-13	櫻井
2		代謝とエネルギー 教科書p202-213	櫻井
3		遺伝子 教科書p5-9	櫻井
4		発生と生殖器 1 教科書p238-252	櫻井
5		発生と生殖器 2 教科書p238-252	櫻井
6		成長と老化 教科書p253-258	櫻井
7		恒常性、体温調節、生体のリズム 教科書p14-15,p231-237	櫻井
試験		定期試験	櫻井
事前・事後学修	<p>事前学修：事前に穴埋め要約を配布するので、その該当部位を教科書を参考にしてできるだけ埋めて完成させること。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。講義ビデオを視聴し講義内容を復習する。配布された問題を解いてみる。穴埋め要約を完成させる。各回120分</p>		
評価方法	定期試験（100%）		
課題に対するフィードバック	問題、穴埋めは教科書を参照し、さらに関連部位を読むこと。質問等は講義中、講義後、あるいはメールを通じて受け付け、適宜回答する。		
教科書	内田さえ編「人体の構造と機能第6版」医歯薬出版 2023年		

参 考 書	<p>様々なレベルに合わせているいろいろなものがあるので必要な場合は尋ねること。 例えば、白戸亮吉ら「ていねいな生物学」羊土社（生物学を高校でとっていない人たち向け）とか。最初の講義時にいろいろ紹介する。</p>
履修上の注意点 及び取扱い	<p>資料を配布するので、それに基づいて予習、復習をおこなうこと。また資料はすべてPDF としてお知らせにあげるの、タブレットなどを持っている人はダウンロード可能。 講義はすべてビデオにし視聴可能とするので適宜利用すること。講義を聴きながら講義資料にメモを取る習慣をつけること。 練習問題を講義中にも行うが、それ以外にも自分で練習問題で知識を定着させること。 概念を理解して言葉の定義をしっかりと定着させること。</p>

科目名	解剖生理学		
科目コード	33103	科目ナンバリング	B331031
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	櫻井 武		
実務経験	医師として病院勤務		
オフィスアワー	講義のある日の夕方。それ以外はメール等にてアポイントメントを取って下さい。		
科目概要	人体の構造と機能、および発達各期の解剖学的、生理学的な特徴と身体機能の変化について学修する。では循環器、血液、呼吸器、生体防御、消化器、泌尿器、内分泌の解剖と生理について各時期の特徴や変化も含めて学修する。		
到達目標	<p>人体を構成する各器官の基本的な形態と機能を説明できる。</p> <p>人体各部位、器官の構造を専門用語で説明できる。</p> <p>人体各器官の機能を専門用語で説明できる。</p> <p>人体の構造と機能がどのように異常になると病気になることを理解する。</p> <p>臨床で行うフィジカルアセスメントの基礎となる知識を理解する。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		循環、体液 1 教科書p95-117 体液とは、体液の調節、循環器系、心臓、心電図、心周期	櫻井
2		循環、体液 2 教科書p95-117 血管系、血圧、脈拍、血圧の調節、リンパ系	櫻井
3		血液 1 教科書p118-129 血液の成分と機能	櫻井
4		血液 2 神経系 教科書p118-129 止血機構、血液型	櫻井
5		生体防御系 1 教科書p129-141 生体防御系概論、非特異的防御機構にかかわる分子、細胞、炎症、特異的防御機構に関わる分子と細胞、アレルギー、リンパ系組織	櫻井
6		呼吸器 1 教科書p142-161 呼吸器系の解剖、構造	櫻井
7		中間試験（1 - 5の範囲に概論の4, 5の生殖器の内容も含む）	櫻井
8		呼吸器 2 教科書p142-161 呼吸器の生理と調節	櫻井
9		消化器 1 教科書p179-202 消化器概論、咀嚼と嚥下、消化吸収、分泌の調節	櫻井
10		消化器 2 教科書p179-202 消化と吸収、物質代謝、栄養素、排便、肝臓、膵臓、胆嚢	櫻井
11		内分泌 1 教科書p214-231 ホルモンとは、分泌調節、視床下部、下垂体	櫻井
12		内分泌 2 教科書p214-231 甲状腺、上皮小体、膵島、副腎皮質、副腎髄質、その他のホルモン	櫻井
13		泌尿器 1 教科書p162-178 尿の生成、泌尿器系の解剖、腎臓の構造と機能	櫻井
14		泌尿器 2 教科書p162-178 排尿、体液の調節	櫻井
試験		筆記試験（6 - 14の範囲、中間試験の範囲は除く）	櫻井

事前・事後学修	事前学修：講義の前に配布資料のあらかじめ調べてほしいことについて教科書等を参考にまとめてみる。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。講義ビデオを視聴し講義内容を復習する。まとめてほしいことリストのまとめを完成させる。各回120分
評価方法	中間試験（50%）+ 期末試験（50%）
課題に対するフィードバック	教科書なりの関連部位を読むこと。質問等は講義中、講義後、あるいはメールを通じて受け、適宜回答する。
教科書	内田さえ編「人体の構造と機能第6版」医歯薬出版 2023年
参考書	理解度に応じて様々なものがあるので必要な場合は尋ねること。例えば「からだが見える」（メディックメディア）、イメカラシリーズ（メディックメディア）。
履修上の注意点及び取扱い	資料を配布するので、それに基づいて予習、復習をおこなうこと。また資料はすべてPDFとしてお知らせにあげるの、タブレットなどを持っている人たちはダウンロード可能。 講義はすべてビデオにして視聴可能とするので適宜利用すること。講義を聴きながら講義資料にメモを取る習慣をつけること。 練習問題を講義中にも行うが、それ以外にも自分で練習問題で知識を定着させること。 進度が早いので知識をきっちりつつんでいくこと。疑問があればその場で解決すること。そうしないと次の知識が入らなくなりオーバーフローしてしまう。 この範囲は特に覚える事が沢山あるので自分で様々な工夫をしながら整理していくこと。

科目名	解剖生理学		
科目コード	33104	科目ナンバリング	B331041
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	櫻井 武		
実務経験	医師として病院勤務		
オフィスアワー	講義のある日の夕方。それ以外はメール等にアポイントメントを取って下さい。		
科目概要	<p>人体の構造と機能、及び発達各期の解剖学的・生理学的な特徴と身体機能の変化について学修する。筋、骨格総論、骨格系について解説し、体幹（体軸）と体肢の骨格の区別やそれぞれの骨の名称と形態、骨の機能について解説する。筋系では筋組織の概要、形態、機能、骨格筋における運動機能との関係について解説する。神経系（中枢神経、末梢神経）では神経系の仕組み、機能と構造、神経系の発達と老化、感覚系（視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚など）と神経支配との関係について解説する。</p>		
到達目標	<p>人体を構成する各器官の基本的な形態と機能を説明できる。 人体各部位、器官の構造を専門用語で説明できる。 人体各器官の機能を専門用語で説明できる。 人体の構造と機能がどのように異常になると病気になることを理解する。 臨床で行うフィジカルアセスメントの基礎となる知識を理解する。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画（回数）	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		運動器 1 教科書p51-67 骨	櫻井
2		運動器 2 教科書p51-67 骨、関節、筋肉	櫻井
3		運動器 3 教科書p51-67 筋肉、運動の調節	櫻井
4		神経系 1 教科書p19-50 神経系、中枢神経系	櫻井
5		神経系 2 教科書p19-50 末梢神経系、自律神経系	櫻井
6		感覚器 1 教科書p68-94 感覚、視覚、聴覚、平衡覚	櫻井
7		感覚器 2 教科書p68-94 味覚、嗅覚、皮膚感覚、内臓感覚、痛覚、皮膚、粘膜、漿膜	櫻井
試験		定期試験	櫻井
事前・事後学修	<p>事前学修：講義の前に配布資料のあらかじめ調べてほしいことについて教科書等を参考にまとめてみる。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。講義ビデオを視聴し講義内容を復習する。まとめてほしいことリストのまとめを完成させる。各回120分</p>		
評価方法	定期試験（100％）		
課題に対するフィードバック	教科書なりの関連部位を読むこと。質問等は講義中、講義後、あるいはメールを通じて受け、適宜回答する。		
教科書	内田さえ編「人体の構造と機能第6版」医歯薬出版 2023年		
参考書	理解度に応じて様々なものがあるので必要な場合は尋ねること。たとえば「ステイアナトミー」（羊土社）、「脳神経科学がわかるすきになる」（羊土社）、からだが見える（メディックメディア）		

<p>履修上の注意点 及び取扱い</p>	<p>資料を配布するので、それに基づいて予習、復習をおこなうこと。また資料はすべてPDFとしてお知らせにあげるの、タブレットなどを持っている人たちはダウンロード可能。 講義はすべてビデオにして視聴可能にするので適宜利用すること。講義を聴きながら講義資料にメモを取る習慣をつけること。 練習問題を講義中にも行うが、それ以外にも自分で練習問題で知識を定着させること。 。進度が早いので知識をきっちりとつんでいくこと。疑問があればその場で解決すること。そうしないと次の知識が入らなくなりオーバーフローしてしまう。この範囲は名称がたくさん出てきて覚えるのも一苦労なので、自分で様々な工夫をしながら整理していくこと。</p>
--------------------------	---

科目名	解剖生理学		
科目コード	33105	科目ナンバリング	B331052
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	櫻井 武・伊東 裕康・江角 重行		
実務経験	櫻井：医師として病院勤務		
オフィスアワー	講義のある日の夕方。それ以外はメール等にてアポイントメントを取って下さい。		
科目概要	人体を直接観察する解剖場面の見学と、循環系、呼吸器系、神経系、感覚系、腎泌尿器系の解剖生理の復習を行い、同時並行中のフィジカルアセスメントや薬理学につながる知識の整理を行う。科学的な根拠に基づく臨床判断の基礎を身につけるとともに、医学・医療や看護において、人の身体を扱うことに対する生命の尊厳と倫理的な態度についても学修する。双方向性の講義と解剖見学からなる。		
到達目標	フィジカルアセスメントの基礎となる解剖と生理の知識を理解する。 人体の構造と機能がどのように異常になると病気になるかを理解する。 実際の人体に触れて解剖と生理を専門用語で説明できる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		循環系の診断と評価 教科書の循環器系のところ 心電図、心臓の解剖生理、循環動態、動脈系、静脈系、胸の写真	櫻井
2		呼吸器系の診断と評価 教科書の呼吸器系のところ 胸の写真、肺の解剖生理、呼吸機能検査、パルスオキシメーター	櫻井
3		神経感覚系の診断と評価 教科書の神経系と感覚器のところ 脳神経の解剖と生理と評価、脊髄神経の解剖と評価、意識、筋肉	櫻井
4		腎泌尿器系の診断と評価 教科書の腎泌尿器のところ 腎臓の解剖と生理と評価、泌尿器系の解剖と生理、体液管理	櫻井
5		解剖見学事前説明・講義 教科書の「医療系学生のための解剖見学実習ノート」を使用、12色程度の色鉛筆を持ってくること	江角、伊東
6		解剖見学実習（岐阜大学医学部で）	江角、櫻井、伊東
7		解剖見学振り返り、解剖生理の総まとめ、振り返り	櫻井
試験		定期試験	櫻井
事前・事後学修	事前学修：解剖生理学概論、 を復習しておくこと。まとめてほしいことのリストを配布するので自分でまとめておくこと。実習見学の前に必ず自分の見たいことをまとめておくこと。各回120分 事後学修：講義内容も参考にさらに自分で解剖生理の知識をまとめておくこと。レポートを完成させること（3回分）。各回120分。 事前講義で説明・指示された「解剖見学実習ノート」の着色と名称記入を解剖見学実習までに完成させて、持ってくること。		
評価方法	定期試験（50％）＋レポート3回分（30％）＋見学参加と見学課題の提出（20％）		
課題に対するフィードバック	教科書なりの関連部位を読むこと。質問等は講義中、講義後、あるいはメールやメッセージを通じて受け、適宜回答する。		
教科書	内田さえ編「人体の構造と機能第6版」医歯薬出版 2023年 千田隆夫・小村一也著「医療系学生のための解剖見学実習ノート」アドスリー 2020年 フィジカルアセスメント(基礎看護学)で指定された教科書		
参考書	熊谷たまき「看護がみえる3、フィジカルアセスメント」メディックメディア、 「からだがみえる」メディックメディア		

履修上の注意点
及び取扱い

解剖見学は土曜日に実施される。やむをえない事由以外で欠席した場合は成績評価の対象としない。
資料を配付するので予習、復習をおこなうこと。
講義はすべてビデオにしてアップロードするので適宜利用すること。
フィジカルアセスメントの講義演習と合わせながら知識を整理していくこと。
配布する「まとめてほしいこと」リストを参考に、一生使えるような解剖生理のまとめ資料として作成すること。

科目名	臨床栄養学		
科目コード	33106	科目ナンバリング	B331062
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	小田 雅嗣		
実務経験	管理栄養士として、総合病院 7年・愛知県職員 30年（衛生・健康福祉部）勤務		
オフィスアワー	講義終了後10分間（非常勤講師控室）		
科目概要	<p>栄養と栄養素、食品の機能について学習し、ライフステージと栄養の関係を理解する。生命維持や日常生活の活動に必要な栄養と消化・吸収など栄養摂取の仕組みについて学ぶ。食事摂取基準、栄養評価・判定の方法と、健康状態に対応した栄養管理の基本と栄養管理の実際について学修する。また、入院患者に対する栄養サポートチーム（NST）による栄養管理について学び、看護に必要な臨床栄養学の知識と看護師の役割について理解する。さらに、最近増加傾向の健康食品と医薬品や食品との相互作用についても学ぶ。</p>		
到達目標	<p>人の健康と栄養の関係が理解でき、栄養摂取の仕組みについて説明できる。 栄養状態の評価の基本と栄養補給の方法を示すことができる。 食事摂取基準や各疾患のガイドラインを調べ、栄養管理を実施することが理解できる。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画（回数）	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		<p>栄養素（五大栄養素について理解する。） 事前学修：配布資料の栄養素について読む。 事後学修：栄養素についてレポートを作成する 前後各120分</p>	小田
2		<p>臨床栄養管理（栄養治療・栄養ケア・栄養アセスメントについて理解する。） 事前学修：配布資料の臨床栄養管理について読む。 事後学修：臨床栄養管理についてレポートを作成する 前後各120分</p>	小田
3		<p>メタボリックシンドローム・代謝疾患（糖尿病・脂質異常症・高尿酸血症・痛風・先天性代謝疾患）の食事療法を中心とした治療法等について理解する。 事前学修：配布資料のメタボリックシンドローム・代謝疾患の栄養管理について読む。 事後学修：適正エネルギーを計算する 前後各120分</p>	小田
4		<p>消化器疾患（胃・十二指腸潰瘍・クローン病・潰瘍性大腸炎・肝炎等）の食事療法を中心とした治療法等について理解する。 事前学修：配布資料の消化器疾患について読む 事後学修：消化器疾患の栄養管理についてレポートを作成する。 前後各120分</p>	小田
5		<p>循環器疾患（高血圧症・動脈硬化症等）、腎・尿路疾患・透析の食事療法を中心とした治療法等について理解する。 事前学修：配布資料の循環器疾患・腎・尿路疾患・透析について読む。 事後学修：循環器疾患（高血圧症・動脈硬化症等）、腎・尿路疾患・透析の栄養管理についてレポートを作成する 前後各120分</p>	小田

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
6		血液疾患・食物アレルギー・がん疾患・呼吸器疾患・摂食障害の食事療法を中心とした治療法について理解する。 事前学修：配布資料の血液疾患・食物アレルギー・がん疾患・呼吸器疾患・摂食障害を読む 事後学修：血液疾患・食物アレルギーの栄養管理についてレポートを作成する 前後各120分	小田
7		その他（術前・術後、骨粗鬆症、妊婦・授乳婦疾患等）、食品と医薬品の相互作用について理解する。 事前学修：配布資料のその他、食品と医薬品を読む 事後学修：ミニテストを実施し、解説を行う 前後各120分	小田
試験		定期試験	小田
事前・事後学修		事前学修：次回の内容・キーワードについて、配布資料を読んてくること。 事後学修：講義内容をノートにまとめたり課題レポートを作成する。	
評価方法		定期試験：80% レポート・ミニテスト・授業参加状況（発言の内容と回数）：20%	
課題に対するフィードバック		提出の翌週にレポートを返却する。	
教科書		なし	
参考書		各單元ごとの資料を配布する。	
履修上の注意点及び取扱い		1．事前学修として、次回の内容・キーワードについて、配布資料を読んてくること。 2．事後学修として、講義内容をノートにまとめたり課題レポートを作成する。	

科目名	病態治療学概論(病態生理学)		
科目コード	33201	科目ナンバリング	B332011
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	伊東 裕康・白木 之浩・安藤 良太		
実務経験	白木：医師として病院勤務 安藤：医師として病院勤務		
オフィスアワー	授業終了後10分間		
科目概要	疾病の成り立ちと回復の促進について理解するために、疾病とは何か、疾病の原因や要因、症候や病理学所見とともに、疾病が及ぼす生活への影響、看護のポイントについて学修する。また、現代医療において行われている主要な疾患の診断や治療の動向についても学修する。授業では、病気の原因と分類、細胞・組織の障害と修復、循環器障害、感染症、代謝障害、老化と死、先天異常と遺伝子異常、腫瘍について発症の機序や原因・要因について解説する。		
到達目標	病気および病的状態を分類して説明することができる。 病気の原因、発生の仕組みを説明することができる。 疾患に対する生体の反応や経過の特徴、転帰を説明することができる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		病気の原因と分類、細胞・組織損傷と修復、炎症 *事前/事後学修：テキスト付章、第1、2章：病理診断の実際、病理学で学ぶこと、細胞・組織の損傷と修復、炎症	白木
2		免疫、移植と再生医療 *事前/事後学修：テキスト第3章：免疫、移植と再生医療	白木
3		感染症 *事前/事後学修：テキスト第4章：感染症	白木
4		循環障害 *事前/事後学修：テキスト第5章：循環障害	白木
5		代謝障害(黄疸、糖尿病、脂質代謝障害など) 老化と死(老年期、死の三徴候、脳死) *事前/事後学修：テキスト第6章 代謝障害 および 第7章 老化と死	安藤
6		先天異常と遺伝性疾患(遺伝子・ゲノム・染色体、遺伝子異常) *事前/事後学修：テキスト第8章 先天異常と遺伝性疾患	安藤
7		腫瘍 良性腫瘍と悪性腫瘍、悪性腫瘍の発生・増殖・浸潤・転移 がんの診断・治療 *事前/事後学修：テキスト第9章 腫瘍	安藤
試験		定期試験	伊東
事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分		
評価方法	定期試験(100%)		
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。		
教科書	1. 大橋健一： 「疾病のなりたちと回復の促進(1)病理学(系統看護学講座・専門基礎分野)」 2021年 医学書院		
参考書	適宜紹介する		

履修上の注意点
及び取扱い

復習を必ずすること。
私語や音の出る機器で、他の受講者の視聴を妨げてはならない。

科目名	病態治療学A(内科学)		
科目コード	33202	科目ナンバリング	B332022
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	石井 成郎・岡澤 光芝・海川 和幸・妹尾 紀子・村瀬 寛・鈴木 大成・橋本 昌哉		
実務経験	村瀬：指導医・専門医・認定医(内分泌・糖尿病内科)として病院勤務 海川：指導医・専門医・認定医(循環器内科)として病院勤務 岡澤：医師(呼吸器内科)として病院勤務 妹尾：医師(血液内科)として病院勤務 鈴木：医師(腎臓内科)として病院勤務 鈴木：医師(内分泌・糖尿病内科)として病院勤務		
オフィスアワー	授業終了後10分間(非常勤講師控室)		
科目概要	成人及び高齢者において発生頻度が高い重要な疾患とその特徴(疫学、病態、予後、症状、診断・治療)について学修する。本科目では、成人期における呼吸・循環器系、消化器系、腎・泌尿器系、運動器系、代謝・内分泌系の主要な疾患及び悪性新生物の病態と治療を学び、疾病が及ぼす生活への影響や看護の必要性を理解する。		
到達目標	内科疾患の成り立ちの源流を理解する。 症状や症候をみて、各種の鑑別診断を思い巡らせる素養を養う。 全身のクロストークの元となる、免疫・内分泌・神経の関与を概念だけでなく、実学として理解する。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		代謝疾患(糖尿病)の疫学、病態、予後、症状、診断・治療について学修する。 *事前学修：教科書、事後学修：教科書、配布プリント	村瀬
2		代謝疾患(低血糖、脂質異常症、メタボリックシンドロームなど)、内分泌疾患(総論、下垂体疾患など)の疫学、病態、予後、症状、診断・治療について学修する。 *事前学修：教科書、事後学修：教科書、配布プリント	村瀬
3		内分泌疾患(甲状腺疾患、副腎疾患など)の疫学、病態、予後、症状、診断・治療について学修する。 *事前学修：教科書、事後学修：教科書、配布プリント	村瀬
4		循環器検査総論(心電図を中心に)、高血圧、大動脈解離 *事前/事後学習：テキスト	海川
5		狭心症、心筋梗塞 *事前/事後学習：テキスト	海川
6		尿管、膀胱、前立腺疾患 *事前/事後学修：テキスト	鈴木
7		心臓弁膜症、心筋症、先天性心疾患、心不全 *事前/事後学修：テキスト	海川
8		消化器の解剖と機能 食道逆流症、食道癌、胃十二指腸潰瘍、胃癌 *事前/事後学修：テキスト	橋本
9		気道と肺の構造、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患 *事前/事後学修：テキスト	岡澤
10		虫垂炎、腸閉塞、大腸疾患、肝・胆・膵疾患 *事前/事後学修：テキスト	橋本
11		間質性肺炎・肺線維症、肺癌、過敏性肺臓炎、気胸 *事前/事後学修：テキスト	岡澤
12		腎疾患構造と機能 急性腎障害、慢性腎障害、腎癌 *事前/事後学修：テキスト	橋本

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
13		呼吸器感染症(ウイルス感染症、細菌感染症、結核) *事前/事後学修:テキスト	岡澤
14		血液疾患(貧血、血友病、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄種)	妹尾
試験		定期試験	石井
事前・事後学修		事前学修:講義の前に前回までの内容を確認。各120分 事後学修:講義最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評価方法		定期試験(100%)	
課題に対する フィードバック		課題レポート等にコメント等を付して返却する。	
教科書		浅野嘉延、吉山直樹:看護のための臨床病態学 南山堂 2023年	
参考書		プリント配布あり(授業当日に配布し、プリントに基づいて授業を進行します)	
履修上の注意 点及び取扱い		1.講義はあくまでも自己学修を手助けするものである。講義前の予習を必ず行うこと。 2.定期試験で不合格の場合、当該年度で再試験を実施する。	

科目名	病態治療学B(外科学)		
科目コード	33203	科目ナンバリング	B332032
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	近藤 三隆		
実務経験	近藤：指導医・専門医・認定医(外科)として病院勤務		
オフィスアワー	授業終了後10分間(非常勤講師控室)		
科目概要	成人及び高齢者において発生頻度が高い重要な疾患とその特徴(疫学、病態、予後、診断・治療)について学修する。本科目では、悪性新生物、消化器系の主要な疾患および腹部外傷の特徴と診断・治療を学び、疾病が及ぼす生活への影響、看護の必要性を理解する。		
到達目標	成人期、及び高齢者における疾患のなり立ちを理解する 症状から各種の鑑別診断を考えることができる 循環・呼吸器系、消化器系疾患による症状発現を理解する		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		乳癌 事前/事後学修：臨床外科看護各論 第1章肺および胸部 D乳腺の疾患 乳がん その他の乳腺疾患	近藤
2		食道、胃・十二指腸の疾患 事前/事後学修：臨床外科看護各論 第3章消化器および腹部 A食道の疾患 B胃・十二指腸の疾患	近藤
3		腸・腹膜の疾患(消化管憩室、非特異性炎症性腸疾患、特異性炎症性腸疾患、虫垂炎、イレウス、腹膜炎) 事前/事後学修：臨床外科看護各論 第3章消化器および腹部 C腸・腹膜の疾患	近藤
4		腸・腹膜の疾患(大腸・直腸癌、急性腹症、腹部外傷) 事前/事後学修：臨床外科看護各論 第3章消化器および腹部 C腸・腹膜の疾患	近藤
5		肝臓・肝外胆道系の疾患 事前/事後学修：臨床外科看護各論 第3章消化器および腹部 D肝臓・肝外胆道系の疾患	近藤
6		門脈・膵臓の疾患 事前/事後学修：臨床外科看護各論 第3章消化器および腹部 F門脈の疾患 G膵臓の疾患	近藤
7		ヘルニア・副腎・肛門疾患 事前/事後学修：臨床外科看護各論 第3章消化器および腹部 Hヘルニア I副腎の疾患 C1 直腸・肛門の疾患 まとめと最終質問受け。演習問題。	近藤
試験		筆記試験	近藤
事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各120分 事後学修：講義最後に次回の学習内容を指示する。各120分		
評価方法	定期試験(100%)		
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等に付して返却する。		
教科書	1.北島政樹、江川幸二 編集：「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論」医学書院 2023年		
参考書	無		

履修上の注意点
及び取扱い

講義はあくまでも自己学修を手助けするものである。講義前の予習を必ず行うこと。
定期試験で不合格の場合、当該年度で再試験を実施する。

科目名	病態治療学C (整形外科学・脳神経外科学)		
科目コード	33204	科目ナンバリング	B332042
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	後藤 美恵・犬飼 智雄・加藤 貴之		
実務経験	犬飼：専門医・認定医(整形外科)として病院勤務 加藤：専門医・指導医(脳神経外科)として病院勤務 後藤：看護師として病院勤務		
オフィスアワー	講義終了後10分間(非常勤講師控室)		
科目概要	成人及び高齢者において発生頻度が高い重要な疾患とその特徴(疫学、病態、予後、診断・治療)について学修する。本科目では、脳・神経系、骨・運動器の主要な疾患の特徴と診断・治療を学び、疾病が及ぼす生活への影響、看護の必要性を理解する。		
到達目標	成人期、及び高齢者における疾患のなり立ちを理解する 症状から各種の鑑別診断を考えることができる 運動器系、脳神経系疾患による症状発現を理解する		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		脳・神経系疾患と診断・治療(1) 脳腫瘍 *事前/事後学修：ナーシンググラフィカ、健康の回復と看護、1章、2章-2	加藤
2		脳・神経系疾患と診断・治療(2) 脳血管障害 *事前/事後学修：ナーシンググラフィカ、健康の回復と看護、1章、2章-1	加藤
3		脳・神経系疾患と診断・治療(3) 頭部外傷、感染症、変性疾患 *事前/事後学修：ナーシンググラフィカ、健康の回復と看護、1章、2章-3-10	加藤
4		ガイダンス 整形外科の目的、運動器の基礎、治療原則 *事前/事後学修：ナーシンググラフィカ、健康の回復と看護、1-3章	犬飼
5		整形外科外傷(脱臼・骨折・捻挫) *事前/事後学修：ナーシンググラフィカ、健康の回復と看護、1章、4-5章	犬飼
6		運動器の加齢性変化(骨粗鬆症、ロコモ、関節症) *事前/事後学修：ナーシンググラフィカ、健康の回復と看護、4-6章	犬飼
7		骨軟部腫瘍、炎症性疾患 *事前/事後学修：ナーシンググラフィカ、健康の回復と看護、4章-4	犬飼
試験		筆記試験	後藤
事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各120分 事後学修：講義最後に次回の学習内容を指示する。各120分		
評価方法	定期試験(100%)		
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。		
教科書	1.永廣信治、高木康志、田村綾子：ナーシング・グラフィカEX 疾患と看護(5)：脳・神経 2020年 2.萩野 浩、山本 恵子：ナーシング・グラフィカEX 疾患と看護(7)：運動器 2020年メディカ出版		

参 考 書	無
履修上の注意点 及び取扱い	講義はあくまでも自己学修を手助けするものである。講義前の予習を必ず行うこと。

科目名	病態治療学D(精神科学)		
科目コード	33205	科目ナンバリング	B332051
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件			
教員名	丸井 友泰		
実務経験	専門医・指導医・産業医(精神科)として病院勤務		
オフィスアワー	授業終了後10分間(非常勤講師控室)		
科目概要	こころの健康問題は、人生のあらゆる時期や生活している人々の場で生じる最も注目すべき課題である。こころの健康問題が生じたときに、人はどのように対処するか、健康問題発生のメカニズムと発生を予防すること、こころの健康をどのように保っていくか、さらにはこころの健康問題を持つ人を援助することの意義について学修する。主要なこころの健康問題として、身体的愁訴、気分障害(うつ)、認知機能障害、統合失調症、パーソナリティ障害について取り上げ、理解を深める。		
到達目標	こころの健康問題の発生の機序を理解し、こころの健康をどのように保っていくかを理解できる。 こころの健康問題を持つ人への援助の必要性を理解できる。 人が人を援助することの意義について深く考える。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
各専門職の役割を理解した上で、多職種と協働し、保健医療福祉のチームの一員として、看護職の役割を果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
継続的に学ぶ姿勢を身につけている			○
自己を研ぎ自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		精神医学史・精神症状と面接	丸井
2		精神疾患の治療(総論)と不安障害	丸井
3		意識障害とせん妄	丸井
4		認知症	丸井
5		統合失調症	丸井
6		気分障害	丸井
7		パーソナリティ障害と精神作用物質使用による精神および行動の障害	丸井
レポート		レポート	丸井
事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各120分		
評価方法	レポート課題(100%)		
課題に対するフィードバック	無		
教科書	系統看護学講座 専門分野精神看護の基礎 精神看護学 医学書院 2021年 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学 医学書院 2021年		
参考書	無		
履修上の注意点及び取扱い	講義はあくまでも自己学修を手助けするものである。講義前の予習を必ず行うこと。		

科目名	病態治療学E (小児科学・産科婦人科学)		
科目コード	33206	科目ナンバリング	B332062
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	大谷 恵・北川 幸子・濱田 英五・日比 英志・藤澤 健一・三嶋 廣繁		
実務経験	北川：専門医・指導医(小児科)として病院勤務 濱田：専門医(小児科)として病院勤務 日比：専門医(小児科)として病院勤務 藤澤：医師(小児科)として病院勤務 三嶋：指導医・専門医・認定医(産婦人科・感染症科)として病院勤務 大谷：看護師として病院勤務		
オフィスアワー	授業終了後10分(非常勤講師控室)		
科目概要	小児(新生児・乳児・幼児・学童)と女性(思春期、妊娠、出産、更年期)に関連して起こる主要な疾患(疫学、病態、予後、病態、診断・治療)について学修する。また、新生児期と小児期、思春期の発育や発達と発達障害を学び、疾病が及ぼす生活や発達への影響、看護の必要性について理解する。		
到達目標	こどもの成長、発達を理解するとともに、こども特有の疾病について理解できる 女性の妊娠から出産に至る過程と、女性特有の疾病について理解できる 疾病が及ぼす生活や発達への影響と看護の必要性について理解できる		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		小児の特徴 *事前・事後学修：小児看護学(1)小児看護学概論(第1章 6章)	北川
2		小児の神経疾患 *事前・事後学修：小児看護学(2)小児臨床看護各論、第13章：神経疾患と看護	濱田
3		小児の感染症・呼吸器疾患 *事前・事後学修：小児看護学(2)小児臨床看護各論、第7章：呼吸器疾患と看護、第6章：感染症看護	北川
4		小児の腎疾患 *事前・事後学修：小児看護学(2)小児臨床看護各論、第12章：腎・泌尿器および生殖器疾患と看護	日比
5		小児の消化器疾患 *事前・事後学修：小児看護学(2)小児臨床看護各論、第9章：消化器疾患と看護	藤澤
6		小児の循環器疾患(川崎病) *事前・事後学修：小児看護学(2)小児臨床看護各論、第8章：循環器疾患と看護	日比
7		小児の内分泌疾患 *事前・事後学修：第3章：小児看護学(2)小児臨床看護各論、代謝疾患と看護、第4章：内分泌疾患と看護	北川
8		小児の血液・悪性疾患 *事前・事後学修：小児看護学(2)小児臨床看護各論、第10章：血液・造血疾患と看護、第11章：悪性新生物と看護	日比
9		小児のアレルギー疾患 *事前・事後学修：小児看護学(2)小児臨床看護各論、第5章：免疫疾患・アレルギー疾患、リウマチ性疾患と看護	藤澤
10		妊娠・分娩・新生児・小児科疾患について 女性における性周期(膣内細菌叢、基礎体温、ホルモン周期、子宮内膜周期、排卵) *事前・事後学修：母性看護学(1)母性看護学概論 p.100-120、母性看護学(2)母性看護学各論 p.178-199	三嶋

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
11		正常妊娠と正常分娩(妊娠のメカニズム、分娩のメカニズム) *事前・事後学修:母性看護学(1)母性看護学概論 p.113-127、母性看護学(2)母性看護学各論 p.62-81、184-226	三鴨
12		新生児・未熟児疾患、先天異常(染色体異常、TORCH症候群) *事前・事後学修:小児看護学(2)小児臨床看護各論、第2章:新生児の看護、第3章:代謝疾患と看護、第1章:染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護	濱田
13		妊娠・分娩中の異常(異所性妊娠、切迫流・早産、過期妊娠、児頭骨盤不均衡、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、回旋異常など) *事前・事後学修:母性看護学(2)母性看護学各論p.402-464	三鴨
14		更年期とその症状(更年期障害、ホルモン補充療法) *事前・事後学修:母性看護学(1)母性看護学概論 p.216-234	三鴨
試験		定期試験	大谷
事前・事後学修		事前・事後学修については、各回に記載。 時間は、各120分。	
評価方法		定期試験(100%)	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教科書		教科書1.奈良間美保他:「系統看護学講座 小児看護学(1)小児看護学概論・小児臨床看護論」医学書院 2025年 2.奈良間美保他:「系統看護学講座 小児看護学(2)小児臨床看護各論」医学書院 2025年 3.森恵美:「系統看護学講座専門分野I・母性看護学概論」(第13版)医学書院 2021年 4.森恵美:「系統看護学講座専門分野II・母性看護学各論」(第13版)医学書院 2021年	
参考書		無	
履修上の注意点及び取扱い		講義はあくまでも自己学修を手助けするものである。講義前の予習をかならず行うこと。	

科目名	臨床薬理学		
科目コード	33208	科目ナンバリング	B332082
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	吉見 陽		
実務経験	薬剤師として病院・調剤薬局勤務		
オフィスアワー	授業前10分間（非常勤講師室）、授業後10分間（講義室）、およびメールによる問い合わせは随時可能 メールアドレス 吉見 <ayoshimi@meijo-u.ac.jp >		
科目概要	種々の疾患に使用される主要な薬物を中心に、薬物の生態に対する作用（薬理作用）と生態の薬物に対する反応（吸収、分布、代謝、排泄等の薬物動態）、及び薬物間の相互作用、薬物と他の物質との相互作用について学修する。薬物処方、投与、管理の方法、留意事項についても学び、適切な薬物療法について理解を深める。		
到達目標	薬物の主作用と副作用、相互作用を理解し、説明できる。 法律に基づいて、薬物取り扱い上の留意点や適切に投与することの重要性を理解し、説明できる。 医師、薬剤師、その他の医療関係者との連携・協働の必要性を理解し、説明できる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			
授業計画（回数）	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		ガイドンス、薬理学とは？、薬事関連法規、薬理学の基礎知識 *事前・事後学修 テキスト：P3～14 薬理学を学ぶにあたって、P15～62 薬理学の基礎知識、P328～337 巻末資料：看護業務に必要な薬の知識	吉見
2		抗感染症薬・消毒薬：種類、作用と副作用、取り扱い、投与上の留意点、観察と記録 *事前・事後学修 テキスト：P65～94 抗感染症薬、P307～317 消毒薬	吉見
3		抗がん薬・免疫治療薬：種類、作用と副作用、取り扱い、投与上の留意点、観察と記録 *事前・事後学修 テキスト：P95～110 抗がん薬、P111～123 免疫治療薬	吉見
4		抗アレルギー薬・抗炎症薬：種類、作用と副作用、取り扱い、投与上の留意点、観察と記録 *事前・事後学修 テキスト：P125～137 抗アレルギー薬・抗炎症薬	吉見
5		末梢神経系用薬：種類、作用と副作用、取り扱い、投与上の留意点、観察と記録 *事前・事後学修 テキスト：P139～158 末梢での神経活動に作用する薬物	吉見
6		中枢神経系用薬：種類、作用と副作用、取り扱い、投与上の留意点、観察と記録 *事前・事後学修 テキスト：P159～190 中枢神経系に作用する薬物	吉見
7		循環器系用薬：種類、作用と副作用 *事前・事後学修 テキスト：P191～224 循環器系に作用する薬物	吉見
8		循環器系用薬：取り扱い、投与上の留意点、観察と記録 *事前・事後学修 テキスト：P191～224 循環器系に作用する薬物	吉見
9		呼吸器・消化器・生殖器系用薬：種類、作用と副作用 *事前・事後学修 テキスト：P225～249 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	吉見

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
10		呼吸器・消化器・生殖器系用薬：取り扱い、投与上の留意点、観察と記録 *事前・事後学修 テキスト：P225～249 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	吉見
11		物質代謝関連薬：種類、作用と副作用、取り扱い、投与上の留意点、観察と記録 *事前・事後学修 テキスト：P251～271 物質代謝に作用する薬物	吉見
12		皮膚科・眼科用薬・救急用薬：種類、作用と副作用、投与上の留意点、観察と記録 *事前・事後学修 テキスト：P273～285 皮膚科用薬・眼科用薬、P287～296 救急の際に使用される薬物	吉見
13		輸液製剤・輸血剤：種類、作用と副作用、投与上の留意点、観察と記録 *事前・事後学修 テキスト：P319～327 輸液製剤・輸血剤	吉見
14		授業の振り返り	吉見
試験		定期試験	吉見
事前・事後学修		全体の事前・事後学修は60時間とする。 事前：内容に対応する教科書の章を精読する（各回1時間） 事後：授業の内容を整理し、章末問題を解く（各回3時間）	
評価方法		小テスト（提出課題）30%、定期試験70%	
課題に対するフィードバック		小テスト（提出課題）などは、後日授業内で補足解説をする。	
教科書		吉川雄朗他、著：「系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学（第16版）」、医学書院2026年	
参考書		医療情報科学研究所、編：「薬がみえるvol.1～3」、株式会社メディックメディア 柳田俊彦、編：「薬の基本とはたらきがわかる薬理学」、株式会社羊土社 丸山敬、淡路健雄、編：「FLASH薬理学改訂版」、株式会社羊土社 講義内容のプリントを配付する。 その他、適宜紹介する。	
履修上の注意点及び取扱い		1．学修内容が多いので、事前/事後学修を行い知識を整理すること。 2．プリント等の資料がある場合には、講義開始前に講義室入り口に配置する。欠席した場合は、担当教員に連絡のうえ次回授業までに資料を事務室にて受け取ること。 3．講義時間中の離席、私語は厳禁である。授業を途中退出する場合は、授業開始までに理由書を担当教員に提出すること。 4．知識確認の小テストや課題提出を随時行う予定であり、提出については都度指示をする。	

科目名	医療概論		
科目コード	33301	科目ナンバリング	B333011
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	伊藤 伸一		
実務経験	理事長として病院経営 専門医・認定医として病院勤務		
オフィスアワー	授業終了後10分間(理事長室)		
科目概要	健康と疾病の概念、及び国民健康づくりの概要、医療の成立における社会資源（人的資源、医療施設や機器、薬剤、医療関連法規、医療保険制度、医療政策）、医療の提供に必要な病院の管理・運営とその組織について理解し、医療の質を向上するための評価の仕組みについて学修する。また、現代医療の動向や現状、及びその課題についても理解し、人々がより健康な生活を送るための医療の提供と医療者の役割、医療者に求められる倫理について学修する。		
到達目標	医療およびその周辺で起こる問題や環境の変化を深く理解し、実際に看護を行うための教養を身につける。 倫理を含めた医療の概念を学び、全人的な看護を提供できるよう広い視野を持つ。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
各専門職の役割を理解した上で、多職種と協働し、保健医療福祉のチームの一員として、看護職の役割を果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
継続的に学ぶ姿勢を身につけている			
自己を研ぎ自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画 (回数)	該当する 到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		医療と看護の原点：医療と看護の原点、命について考える、死を直視する、医療史と医療観 *事前学修：上記の内容について図書館で調べ、ノートにまとめる *事後学修：授業内容をノートにまとめる	伊藤
2		生活と健康：心肺蘇生法、医療の仕組み、予防と健康増進、少子高齢社会 *事前学修：上記の内容について図書館で調べ、ノートにまとめる *事後学修：授業内容をノートにまとめる	伊藤
3		科学技術の進歩と医療：先端医療の最前線、生命科学の進歩 *事前学修：上記の内容について図書館で調べ、ノートにまとめる *事後学修：授業内容をノートにまとめる	伊藤
4		現代医療の課題：生命倫理、医療倫理、QOL、死の判定、脳死 *事前学修：上記の内容について図書館で調べ、ノートにまとめる *事後学修：授業内容をノートにまとめる	伊藤
5		現代医療の課題：インフォームドコンセント、医療情報の開示 患者の安全：インシデント アクシデント、システムとしての医療のあり方 *事前学修：上記の内容について図書館で調べ、ノートにまとめる *事後学修：授業内容をノートにまとめる	伊藤
6		新しい潮流：プライマリーケア、緩和ケア 医療関連法規 *事前学修：上記の内容について図書館で調べ、ノートにまとめる *事後学修：授業内容をノートにまとめる	伊藤
7		まとめ *事前学修：上記の内容について図書館で調べ、ノートにまとめる *事後学修：授業内容をノートにまとめる	伊藤
試験		定期試験	伊藤
事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分		
評価方法	定期試験100%		

課題に対する フィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。
教科書	小泉俊三、他著「系統看護学講座 別巻 総合医療論」(第4版)、医学書院 2022年
参考書	無
履修上の注意点 及び取扱い	1. 学修内容が多いので、事前学修は必ず行うこと。 2. 疑問に思ったことをそのままにせず、積極的に質問し、自学自修の習慣をつけること。

科目名	看護援助的関係論		
科目コード	33302	科目ナンバリング	B333021
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	大谷 恵・高島 孝晃・村岡 大志		
実務経験	看護師として病院勤務（大谷・村岡・高島）		
オフィスアワー	授業日：授業終了後～17：30。 その他は、アポイントメントを取ってください。 メールによる問い合わせ先は以下の通りです。 大谷：m.otani.t@ikc.ac.jp、村岡：h.muraoka.t@ikc.ac.jp、 高島：t.takashima.t@ikc.ac.jp		
科目概要	看護実践の基礎となる援助的人間関係について理解し、その形成に関する理論と技法について学修する。また、対人関係における自己の傾向性や援助的関係形成のための基本的な態度やコミュニケーションについて、グループダイナミクスを活用した援助的関係に関するワークを通して体験的に学ぶ。		
到達目標	援助的対人関係の基本的な考え方を説明できる。 対人関係におけるこころの動き、相互作用や役割行動を説明できる。 援助的関係における自己理解と他者理解の必要性を説明できる。 援助的関係とコミュニケーションの関連を説明できる。 援助的関係における基本的な態度を説明できる。 かかわりの場面を振り返り、対人関係における自己の傾向性を考察できる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		ガイダンス、援助的対人関係とは：援助的対人関係の基本的意義、対人関係と援助的関係、対人関係を構成する要因 *事前学修：専門的援助的関係について調べる。 *事後学修：授業内容についてノートにまとめる。	大谷
2		対人関係とこころの動き：人間関係の個人的特徴、対人関係と役割行動 *事前学修：対人関係におけるこころの動きについて調べる。 *事後学修：授業内容についてノートにまとめる。	村岡
3		自己理解と他者理解；対人意識、対人感情、自己意識・自己分析、対人関係における基本的構え *事前学修：自己理解と他者理解について調べる。 *事後学修：授業内容についてノートにまとめる。	大谷
4		感情と自己：感情の特徴と意味、かかわりで生じる感情に目を向けること、自分の気持ちを伝える技法 *事前学修：対人関係におけるこころの動きについて調べる。 *事後学修：授業内容についてノートにまとめる。	大谷
5		【演習1】自己理解・他者理解・グループでのかかわりの理解：自己を「表現する」こと、相手を「わかる」こと、グループで「話すこと・聴くこと・起きたこと」を考える *事前学修：1～4回目の授業資料、演習資料を読む。 *事後学修：授業内容についてノートにまとめる。	大谷・村岡・高島
6		援助的関係におけるコミュニケーション過程：援助的関係のプロセス、援助的コミュニケーション、援助場面の再構成（分析・解釈・評価） *事前学修：プロセスレコードについて調べておく。 *事後学修：授業内容についてノートにまとめる。	高島
7		【演習2】援助的関係におけるコミュニケーション：基本姿勢、積極的傾聴と応答、コミュニケーション・プロセスの評価 *事前学修：6回目の授業資料を読んでおく。ロールプレイについて調べておく。 *事後学修：授業内容についてノートにまとめる。	高島・村岡・大谷

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
レポート		レポート	大谷・村岡・高島
事前・事後学修		事前学修：指定された事前課題を実施する。各回120分 事後学修：指定された事後課題を実施する。各回120分	
評価方法		レポート：60% 演習の課題（グループ演習（5回目）10%、ロールプレイ（7回目）10%）：20% 演習への参加状況：10% ミニッツノート：10%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教科書		指定しない。必要に応じて文献などを適宜紹介する。	
参考書		1．深井喜代子編（2017）「基礎看護学 基礎看護技術 第5版」、メヂカルフレンド社。 2．服部祥子（2003）「人を育む人間関係論－援助専門職者として個人として」、医学書院。 3．石川ひろの、他（2018）「系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 第3版」、医学書院。 4．宮本真巳（1995）「感性を磨く技法1 看護場面の再構成」、日本看護協会出版会。 5．岡堂哲雄編（2000）「ナースのための心理学 人間関係論入門」、金子書房。 6．武井麻子（2002）「グループという方法」、医学書院。	
履修上の注意点及び取扱い		1．事前学修：次回予定している授業内容を提示する。次回の授業までに提示された課題を実施する。予習を通しての次回の授業に関する疑問や問題意識をもって、授業に臨む。 2．ミニッツノート：授業終了直前、短時間でのミニッツノートの記載を課題とする。ミニッツノートには、授業を振り返り、学んだことや感想、疑問、今後の課題など自由に記載する。記載された内容は授業の中でフィードバックする。 3．事後学修：授業後は授業を振り返り、事前に抱いていた疑問や問題意識がどのように変化したか、何を学んだかを考えるとともに、事後学修課題に取り組む。 4．グループ学修では、主体的なリーダーシップやメンバーシップが求められる。したがって、個々がグループダイナミクスを意識し、学びを進めることができるよう、自己の役割を考えながら参加する。 5．疑問やわからないことがあれば、面談を受け付けているので、電子メールでアポイントをとる。 6．授業を欠席した場合は、担当教員に連絡のうえ、次回授業前までに資料を取りにくる。 7．授業を途中退出する場合は、授業開始までに理由書を担当教員に提出する。	

科目名	疫学		
科目コード	33303	科目ナンバリング	B333031
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	西谷 直子		
実務経験	保健師として行政等勤務		
オフィスアワー	n.nishitani.t@ikc.ac.jp		
科目概要	疫学概念、疫学研究の基本を学ぶ。疫学的方法を活用して、個人や集団における健康状態を、文化的要因、環境要因、職業要因、遺伝的要因、生活習慣や年齢要因などから総合的に把握し、健康の維持増進、疾病予防について考えていく。疾病予防・健康の維持・増進を図るために、集団の健康に関する事象の分布を明らかにし、病気の原因や危険因子を多方面から評価することを理解する。授業では、疫学の歴史と概念、疫学指標、疫学研究法、標本の妥当性と精度、疫学的因果関係、スクリーニングの方法、研究における誤差と偏りの制御、論文読解の留意点について解説する。		
到達目標	疫学概念・方法を説明できる。 各種統計資料（論文を含む）を正しく（批判的に）理解できる。 看護研究に疫学研究法を応用できるよう務める。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		疫学とは：疫学の歴史と概念	西谷
2		疫学研究法（1）：記述疫学、生態学研究、横断研究、有病率	西谷
3		疫学研究法（2）：症例対照研究、コホート研究、介入研究、疫学的因果関係	西谷
4		罹患率、相対危険、寄与危険、寄与危険割合、オッズ比	西谷
5		研究における誤差と制御法：選択バイアス、情報バイアス、交絡バイアス	西谷
6		疾病頻度の指標：有病率、罹患率、死亡率、致命率、死亡率の年齢調整	西谷
7		スクリーニングの信頼性と妥当性：感度と特異度	西谷
試験		定期試験	西谷
事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。 各120分		
評価方法	定期試験：80%、参加状況（課題に取り組む積極性）：20%		
課題に対するフィードバック			
教科書	浅野嘉延『看護学生のための疫学・保健統計（改訂4版）』（南山堂、2023）		
参考書	日本疫学会監修『はじめて学ぶやさしい疫学（改訂第4版）』（南江堂、2024） その他、適宜紹介する。		
履修上の注意点及び取扱い	教科書をもとに授業を進めるので、教科書を事前/事後学修して、疫学研究方法について理解すること。		

科目名	保健・医療・福祉システム論		
科目コード	33304	科目ナンバリング	B333042
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	西谷 直子・江本 厚子		
実務経験	西谷：保健師として行政等勤務 江本：看護師として病院勤務		
オフィスアワー	江本：a.emoto.t@ikc.ac.jp 西谷：n.nishitani.t@ikc.ac.jp		
科目概要	<p>社会保障の理念と制度について、我が国における保健・医療・福祉システムの特色と意義、システムの現状とその課題について理解する。また、健康課題の解決に必要な保健医療福祉行政のサービスや社会資源について学修する。授業では、社会保障の歴史と理念、社会保障の全体像、地域保健法と地域保健行政、健康増進法と健康日本21、母子保健法と健やか親子21、労働基準法、医療保険制度の概要、介護保険と介護サービス、社会福祉法とシステム、精神保健福祉法と精神福祉行政、生活保護法とサービス内容、感染症法と予防接種、医療法、保健医療分野における国際協力源、さらに企業や市民参加などの連携によって行われる具体的な活動について解説する。</p>		
到達目標	<p>社会保障の理念と意義について説明できる。 保健医療福祉制度の全体像について説明できる。 地域保健、産業保健、学校保健、高齢者保健、精神保健に関する法律や政策、サービス内容について述べるができる。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		社会保障制度の全体像と地域保健法・保健所と市町村保健センターの役割	西谷
2		健康増進法と健康日本21	西谷
3		高齢者医療確保法と特定健康診査	西谷
4		児童福祉法と児童相談所	西谷
5		出産・育児・介護に関する支援制度：労働基準法、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法	西谷
6		医療法と医療機関、医療計画	西谷
7		障害者基本法、障害者総合支援法と国際生活機能分類（ICF） 事前/事後学修：障害者支援の歴史的背景と概要は（配布資料）	西谷
8		精神保健福祉法と精神保健行政	西谷
9		生活保護法とサービス内容、生活困窮者自立支援対策	西谷
10		社会保険と年金制度 事前/事後学修：社会保険と年金制度の仕組みとは（配布資料）	江本
11		保健医療分野における国際協力と国際機関	西谷
12		介護保険法と介護保険サービスの概要、高齢者虐待防止法 事前/事後学修：介護保険のシステムとは（配布資料）	江本
13		医療保険制度の概要：健康保険と国民健康保険、後期高齢者医療保険 事前/事後学修：医療保険のシステムとは（配布資料）	江本
14		地域保健医療福祉と地域包括ケアシステム、認知症基本法 事前/事後学修：地域包括ケアシステムとは（配布資料）	江本

授業計画 (回数)	該当する 到達目標	内容・事前 / 事後学習	担当者
試験		定期試験	西谷・江本
事前・事後学修		事前・事後学修については、各回に記載。 時間は、各回120分。	
評価方法		定期試験：80%、参加状況（課題に取り組む積極性）：20%	
課題に対する フィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教科書		国民衛生の動向 2025/2026（厚生労働統計協会） 健康支援と社会保障制度 社会福祉（メヂカルフレンド社、2025）	
参考書		無し	
履修上の 注意点 及び取扱い		配布資料も使いながら講義をする。教科書も含めて事前/事後学習をして、我が国の保健医療福祉制度の概要を理解すること。	

科目名	公衆衛生学		
科目コード	33305	科目ナンバリング	B333052
授業形態	講義	開講時期	1年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	西谷 直子		
実務経験	保健師として行政等勤務		
オフィスアワー	n.nishitani.t@ikc.ac.jp		
科目概要	公衆衛生学とは、地域社会や産業現場などの公衆（集団）における、人々の健康の維持・増進を図る学問である。共同社会の組織的な努力を通して、地域住民の健康増進・維持、疾病の予防、早期発見に重点をおき、すべての生活者の健康の実現を追求する公衆衛生的考え方の基本を理解する。また、少子高齢社会の日本における出生から高齢までの各段階における健康課題とその対応策についても理解する。授業では、地域保健、産業保健、母子保健、高齢者保健、感染症の動向、我が国及び世界における環境問題について解説する。		
到達目標	人々の健康の保持増進について公衆衛生的な理解ができる。 少子高齢社会における人生の各段階における健康課題について説明できる。 現代の健康課題について公衆衛生的対応を述べることができる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		公衆衛生の意義と考え方、WHOの健康の定義、予防の3段階	西谷
2		保健統計：人口統計、疾病統計と人口・疾病動向の全体的動向	西谷
3		保健統計：国民生活基礎調査、患者調査の特徴	西谷
4		母子保健の現状と母子保健対策	西谷
5		成人保健：生活習慣病の課題と対応策	西谷
6		喫煙と健康影響	西谷
7		がんと生活習慣	西谷
8		産業保健と職場の衛生管理体制	西谷
9		職場環境と職業性疾患	西谷
10		高齢社会の健康課題と対策（1）	西谷
11		高齢社会の健康課題と対策（2）	西谷
12		感染症の動向と感染症対策	西谷
13		感染症法と予防接種法	西谷
14		その他の健康対策	西谷
レポート		レポート（現代の公衆衛生の課題と対策について）	西谷
事前・事後学修	事前・事後学修について時間は、各120分。		

評価方法	レポート：100%
課題に対する フィードバック	
教科書	公衆衛生がみえる 2024-2025 メディックメディア
参考書	1．財団法人厚生統計協会編：「国民衛生の動向2025/2026」厚生統計協会 2．平野かよ子、山田和子、他編：「ナースィング・グラフィカ 公衆衛生（第7版）」 メディカ出版 2025
履修上の注意点 及び取扱い	各自が現代の公衆衛生の課題への対応を意識して学修すること。

科目名	コミュニケーション支援論		
科目コード	33307	科目ナンバリング	B333072
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	大谷 恵・緒川 和代・金田 直之		
実務経験	大谷：看護師として病院勤務 緒川：公認心理師・臨床心理士として病院勤務 金田：公認心理師として病院勤務		
オフィスアワー	授業終了後10分間（非常勤講師控室）		
科目概要	発達障害・聴覚障害・高次機能障害（失語など）により意思伝達における障害を持つ人々のコミュニケーション上の課題を理解する。そのうえで、実際的な意思伝達の方法について学び、人々へのより良い支援の必要性と方法を学修する。授業では、高次機能障害である失語症患者、発達障害を持つ小児、聴覚障害者、及び高齢者との効果的なコミュニケーション方法を取り上げる。		
到達目標	意思伝達における障害を持つ人々のコミュニケーション上の課題を理解できる。 意思伝達の実践的な方法について学び、人々とのより良いコミュニケーションの基本的な方法と必要性を理解できる。 意思伝達における障害を持つ人々のコミュニケーション上の課題と支援の必要性を理解し、コミュニケーションの基本的な方法を理解する。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画（回数）	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		対人援助における聴くこと・伝えること 事前学修：対人援助場面におけるコミュニケーションについてイメージしてくる。 事後学修：授業内容を復習しておく。	金田
2		人の心への理解と支援におけるかかわり 事前学修：提示する資料を読んでおく。 事後学修：授業内容を復習しておく。	金田
3		障害をもつ人とのコミュニケーション 事前学修：提示する資料を読んでおく。 事後学修：授業内容を復習しておく。	金田
4		対人関係技術としてのコミュニケーション 事前学修：看護職に必要なコミュニケーション技術を調べる。 事後学修：資料をよく読み授業内容をノートにまとめる。	緒川
5		神経発達症の基礎知識 1 事前学修：神経発達症について調べる。 事後学修：資料をよく読み授業内容をノートにまとめる。	緒川
6		神経発達症の基礎知識 2 事前学修：神経発達症について調べる。 事後学修：資料をよく読み授業内容をノートにまとめる。	緒川
7		神経発達症を持つ人とのコミュニケーション 事前学修：自己にて文献を調べ知識を深める。 事後学修：授業から理解したことを最終レポートにまとめる。	緒川
事前・事後学修	事前・事後学修については、各回に記載。 時間は、各120分。		
評価方法	課題レポート100%（金田50%、緒川50%）		
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。		
教科書	必要に応じて、授業中に資料や文献を提示する。		
参考書	滝川一廣：「子どものための精神医学」医学書院		

履修上の注意点
及び取扱い

グループ学修では、主体的なリーダーシップやメンバーシップが求められる。したがって、個々がグループダイナミクスを意識し、学びを進めることができるよう、自己の役割を考えながら参加すること。
講義中の不必要な私語やスマートフォンの操作は他の受講生への影響を考えて控えること

科目名	基礎看護学（看護学概論）		
科目コード	34101	科目ナンバリング	B341011
授業形態	講義	開講時期	1年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	「基礎看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	鈴江 智恵・滝沢 美世志・佐々木 久美子		
実務経験	看護師として病院勤務（鈴江、滝沢、佐々木）		
オフィスアワー	講義後30分以内に直接または研究室の内線電話・メールでアポイントを取る。必要に応じて別途ゼミナール室等に対応する。 鈴江：内線 4333 t.suzue.t@ikc.ac.jp 滝沢：内線 4320 m.takizawa.t@ikc.ac.jp 佐々木：内線 4322 k.sasaki.t@ikc.ac.jp		
科目概要	看護学の導入となる科目である。本科目では看護とは何か、看護師とはどのような職業なのか、援助するとはどういうことなのかという基本的な「考え方」を身につける。そして、看護の歴史の変遷、代表的な看護理論の特徴を学習し、看護学の主要概念である「人間」「環境」「健康」「看護」及び基本的な看護の機能と役割とは何かを考察し理解を深める。また、看護における倫理的側面、法的側面の基礎知識、看護の役割の拡がりを学び視野を広げる。		
到達目標	看護の主要概念を説明できる。 看護の歴史の変遷を説明できる。 代表的な看護理論の概要を説明できる。 看護専門職の役割、機能を説明できる。 看護に関する法律、専門職としての責務や倫理の基礎知識を説明できる。 看護看護実践に必要な論理的思考をする姿勢を身につける。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			○
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画（回数）	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		い授業ガイダンス 教科書p.2～8 :授業の進め方、事前事後学修について、成績評価、看護の学び方を説明する。 【講義】教科書p.10～39 第1章「看護」とは ・看護の本質とは何かについて学ぶ 看護の歴史の変遷を概観し、看護の本質、看護の基本概念と看護理論家がとらえた看護の特徴を学ぶ 事前学修：教科書の所定ページを読み、分からない用語を調べ所定用紙に記入し、授業に臨む 事後学修：わからない用語、授業で配布するワークシートの内容を学修し完成後にポートフォリオを作成する	鈴江
2		【講義】教科書p.39～46 第1章 看護の役割と機能 ・ケアとは、そして看護におけるケアとは何かについて学ぶ 事前学修：教科書の所定ページを読み、分からない用語を調べ所定用紙に記入し、授業に臨む 事後学修：わからない用語、授業で配布するワークシートの内容を学修し完成後にポートフォリオを作成する	鈴江
3		【講義】教科書p.46 - 76 第1章 看護の実践とその質保証に必要な要件について ・看護実践に欠かせない要素や看護の質保証に欠かせない要件、看護の役割について学ぶ 事前学修：教科書の所定ページを読み、分からない用語を調べ所定用紙に記入し、授業に臨む 事後学修：わからない用語、授業で配布するワークシートの内容を学修し完成後にポートフォリオを作成する	鈴江

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
4		<p>【講義】教科書78-106 第2章 看護の対象の理解 人の「こころ」と「からだ」、人の生涯と暮らし、家族、社会集団、地域との関係から人間を多角的に理解することを学ぶ 事前学修：教科書の所定ページを読み、分からない用語を調べ所定用紙に記入し、授業に臨む 事後学修：わからない用語、授業で配布するワークシートの内容を学修し完成後にポートフォリオを作成する。</p>	滝沢
5		<p>【講義】教科書p.108 - 136 第3章 国民の健康状態と生活 ・健康と障害、生活の関係を把握し、主要な公的統計から、国民全体の健康と生活の全体像のついて学ぶ。 事前学修：教科書の所定ページを読み、分からない用語を調べ所定用紙に記入し、授業に臨む 事後学修：わからぬ用語、授業で配布するワークシートの内容を学修し完成後にポートフォリオを作成する ポートフォリオの中間提出</p>	鈴江
6		<p>【講義】教科書p.138-162 第4章 看護の提供者 日本における看護職の現在までの発展の経緯と、看護職の資格・養成制度について学ぶ 事前学修：教科書の所定ページを読み、分からない用語を調べ所定用紙に記入し、授業に臨む 事後学修：わからない用語、授業で配布するワークシートの内容を学修し完成後にポートフォリオを作成する</p>	鈴江
7		<p>【講義】p.162-184 第4章 看護職の継続教育、キャリア開発 日本の看護職の継続教育を概観し、看護職としてのキャリア開発をどのように館得るのかを学ぶ。 事前学修：教科書の所定ページを読み、分からない用語を調べ所定用紙に記入し、授業に臨む 事後学修：わからぬ用語、授業で配布するワークシートの内容を学修し完成後にポートフォリオを作成する</p>	鈴江
8		<p>【講義】p.186-217 第5章 看護における倫理 倫理とはなにか、なぜ倫理を学ぶのか、看護・医療をめぐる倫理問題について考え、医療・看護をめぐる倫理規定・原則を学ぶ。 事前学修：教科書の所定ページを読み、分からない用語を調べ所定用紙に記入し、授業に臨む 事後学修：わからない用語、授業で配布するワークシートの内容を学修し完成後にポートフォリオを作成する</p>	滝沢
9		<p>【講義】p.220-246 第6章 看護の提供のしくみ 看護のサービスというものの考え方について理解し、看護サービス提供の場と、その特徴について学ぶ。 事前学修：教科書の所定ページを読み、分からない用語を調べ所定用紙に記入し、授業に臨む 事後学修：わからない用語、授業で配布するワークシートの内容を学修し完成後にポートフォリオを作成する</p>	鈴江
10		<p>【講義】教科書p.247-271 第6章 看護をめぐる制度と政策 ・看護にかかわる法制度とその成立過程、背景について学ぶ。 事前学修：教科書の所定ページを読み、分からない用語を調べ所定用紙に記入し、授業に臨む 事後学修：わからない用語、授業で配布するワークシートの内容を学修し完成後にポートフォリオを作成する</p>	鈴江
11		<p>【講義】教科書p.271-291. 第6章 看護サービスの管理 看護サービスの管理について、その対象や組織、リーダーシップの概要と主要なリーダーシップスタイルの特徴について学ぶ。 事前学修：教科書の所定ページを読み、分からない用語を調べ所定用紙に記入し、授業に臨む 事後学修：わからない用語、授業で配布するワークシートの内容を学修し完成後にポートフォリオを作成する</p>	鈴江
12		<p>【講義】教科書p.292-304. 第6章 医療安全と医療の質の保証 ・医療安全の考え方、医療事故がおこる過程と、それを防止するための対策について学ぶ。 事前学修：教科書の所定ページを読み、分からない用語を調べ所定用紙に記入し、授業に臨む 事後学修：わからない用語、授業で配布するワークシートの内容を学修し完成後にポートフォリオを作成する</p>	佐々木
13		<p>【講義】教科書p.306-332. 第7章 広がる看護の活動領域 国際看護学の流れを把握し、国際的に問題となっている健康問題と国際協力の概略を学ぶ。また日本に在留している外国人への看護の課題について学ぶ。 事前学修：教科書の所定ページを読み、分からない用語を調べ所定用紙に記入し、授業に臨む 事後学修：わからない用語、授業で配布するワークシートの内容を学修し完成後にポートフォリオを作成する</p>	鈴江

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
14		<p>【講義】教科書p.333-352 第7章 災害時における看護 災害看護の特徴を理解し、災害サイクルにそった看護活動を学ぶ。また、災害に備えるとはどういうことを考える。 事前学修：教科書の所定ページを読み、分からない用語を調べ所定用紙に記入し、授業に臨む 事後学修：わからない用語、授業で配布するワークシートの内容を学修し完成後にポートフォリオを作成する 【学修のまとめ】 授業の全体を振り返り、疑問や理解しにくかったところを解説する。</p>	佐々木、滝沢、鈴江
試験		定期試験（筆記試験）、毎回の授業時に指定された事前・事後に取り組んだ内容をポートフォリオにして提出する	鈴江、佐々木、滝沢
事前・事後学修		毎回の授業時に指定された事前・事後学修をポートフォリオにて作成する。事前・事後学修の所要時間は各120分程度。	
評価方法		定期試験：70% 事前・事後学修（ポートフォリオ）：30%	
課題に対するフィードバック		毎回の授業後、事前・事後課題についてわからない箇所がある場合は、ポータルで質問をする。質問については次回の講義内でフィードバックする。 第5回講義終了後、ポートフォリオの提出を求め、取り組みについて講義内でフィードバックする。	
教科書		系統看護学講座 看護学概論 医学書院（2025年）	
参考書		<ul style="list-style-type: none"> ・看護職の基本的責務 2025年版：日本看護協会出版会 ・ヴァージニアヘンダーソン,看護の基本となるもの,日本看護協会 ・フロレンス・ナイチンゲール,看護覚え書ー看護であること 看護でないこと,現代社 他、講義時に提示する	
履修上の注意点及び取扱い		<ol style="list-style-type: none"> 1．事前・事後学習を前提として授業を進める。課された学修課題はポートフォリオに順序よく綴り、第5回講義終了後、定期試験終了時に教室内に設置する所定ボックスに提出する。途中で提出するポートフォリオは評価の対象としないが、未提出の場合は減点対象とする。定期試験終了時に提出したポートフォリオを評価の対象とする。提出が遅れた場合は原則、評価の対象としない。 2．授業開始時の出席確認の時に在席していない場合は出席とならない。 3．定期試験の受験資格については、ガイダンスにある通り。 4．定期試験、ポートフォリオの評価の合計が大学の評価基準の合格（60点以上）に満たなかった場合は、再試験を受ける。再試験（筆記試験）で60点未満の場合は不合格とする。 5．課題（ワークシート）作成では、生成AIの使用を禁止する。 	

科目名	基礎看護学（基礎看護技術論）		
科目コード	34102	科目ナンバリング	B341021
授業形態	講義・演習	開講時期	1年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	45時間
先修条件	1. 「基礎看護学」を履修していること。2. 「基礎看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	鈴江 智恵・滝沢 美世志・後藤 美恵・佐々木 久美子		
実務経験	看護師として病院勤務(鈴江・滝沢・後藤・佐々木)		
オフィスアワー	講義・演習終了後30分以内に直接または研究室の内線電話・メールでアポイントを取る。必要に応じて別途ゼミナール室等に対応する。 後藤：内線 4326 m.goto.t@ikc.ac.jp 鈴江：内線 4333 t.suzue.t@ikc.ac.jp 滝沢：内線 4320 m.takizawa.t@ikc.ac.jp 佐々木：内線 4322 k.sasaki.t@ikc.ac.jp		
科目概要	人間の基本的欲求の充足を基盤とした日常生活行動への援助を目的に、科学的根拠に基づいた基本的な生活援助技術を学修する。また、対象者の安全性、安楽性（快適性）、自立性を考慮した日常生活への援助、その人らしく生活を送るための援助の方法について医療機関だけでなく、在宅、福祉施設など看護の提供場所も考慮した援助技術を学修する。学修に当たっては、ロールプレイングやシミュレーション学修を活用して個別の状況を想定した援助方法を考える。		
到達目標	日常生活を支える看護師の役割を理解し、その役割達成のための倫理的配慮を説明できる。 日常生活を支える看護技術の原理・原則をふまえた基本的方法が説明できる。 対象の状況に合わせた具体的方法について、科学的根拠に基づいた説明ができる。 ケアの過程における安全性・安楽性、自立性を配慮した基礎看護技術について考えることができる。 すべての看護技術において標準予防策が実施できる。 ボディメカニクスを活用して看護技術が実施できる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			
授業計画（回数）	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		<学修ガイダンス> 学修の進め方と評価、授業・演習に必要な身だしなみなど、実習室の使い方と見学 【講義】 看護技術を学ぶにあたって 看護技術の根底をなすもの 事前学修：教科書の指定範囲を精読し、分からない用語を調べて記述する。 基礎看護学 教科書p.2-15 .基礎看護学 p.2-8 事後学修：科目の学修・評価方法、科目概要・到達目標について理解する。授業で学んだこと、自己学修したことをポートフォリオにまとめる。	鈴江・後藤
2		【講義】 コミュニケーション 【演習】グループワーク 看護職者と受け持ち患者の初対面におけるコミュニケーション 事前学修：教科書の指定範囲を精読し、分からない用語を調べて記述する。 基礎看護学 教科書p.18-62 事後学修：授業で学んだこと、自己学修したことをポートフォリオにまとめる。	後藤
3		【講義】 感染防止の技術 事前学修：教科書の指定範囲を精読し、分からない用語を調べて記述する。 基礎看護学 教科書p.64 - 81、p.92 - 94 事後学修：授業で学んだこと、自己学修したことをポートフォリオにまとめる。	佐々木

授業計画 (回数)	該当する 到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
4		<p>【演習】＜感染防止の技術の実際＞ ・手指衛生/個人防護用具（PPE）の選択・着脱手順 手袋、プラスチックエプロン、サージカルマスクの装着 /廃棄物の処理 ＜シミュレーション＞設定した状況から、実際にPPEの選択し、着脱と使用後のPPEの廃棄までの方法を実施する。 事前学修：指定された事前課題に取り組む 事後学修：指定された事後課題に取り組む</p>	佐々木、 後藤、滝沢
5		<p>【講義】 環境調整技術 ボディメカニクス 事前学修：教科書の指定範囲を精読し、分からない用語を調べて記述する。 基礎看護学 p.10-29 p.107-110 事後学修：授業で学んだこと、自己学修したことをポートフォリオにまとめる。</p>	後藤
6		<p>【演習】グループワーク ＜快適な環境を整える技術の実際＞ ボディメカニクスを使ってベッドメイキングを行い、グループで方法を検討する。 ＜シミュレーション＞設定した状況にあった援助方法を考える。 事前学修：指定された事前課題に取り組む 事後学修：指定された事後課題に取り組む</p>	後藤、滝沢、 佐々木
7		<p>【講義】 活動・休息の援助（基本的活動の援助） 事前学修：教科書の指定範囲を精読し、分からない用語を調べて記述する。 基礎看護学 p.100-137 事後学修：授業で学んだこと、自己学修したことをポートフォリオにまとめる。</p>	後藤
8		<p>【講義】 活動休息の援助（睡眠・休息の援助） 安楽確保の技術（ポジショニング） 事前学修：教科書の指定範囲を精読し、分からない用語を調べて記述する。 基礎看護学 p.137-149 p.152-156 事後学修：授業で学んだこと、自己学修したことをポートフォリオにまとめる。</p>	後藤
9		<p>【演習】グループワーク ＜活動・休息援助技術の実際＞ ・安楽な姿勢（ポジショニング）・体位の保持・体位変換の援助技術 ・移動・移送への援助/ベッドから車椅子への移乗への援助の実際 ＜ロールプレイング＞看護師・患者役をし、援助をする者、受ける者として看護技術を考える。 ＜シミュレーション＞設定した対象にあった援助方法を考える。 事前学修：指定された事前課題に取り組む 事後学修：指定された事後課題に取り組む</p>	後藤、滝沢、 佐々木
10		<p>【演習】グループワーク ＜環境調整技術＞ ＜活動・休息援助技術＞ ・臥床している対象のリネン（シーツ）交換を既習の看護技術を活用して実施する ＜ロールプレイング＞看護師・患者役をし、援助をする者・受ける者として看護技術を考える。 ＜シミュレーション＞設定した対象にあった援助方法を考える。 事前学修：指定された事前課題に取り組む 事後学修：指定された事後課題に取り組む</p>	後藤、佐々木、 滝沢
11		<p>【講義】 清潔・衣生活援助技術（清潔の援助） 事前学修：教科書の指定範囲を精読し、分からない用語を調べて記述する。 基礎看護学 p.170-205 事後学修：授業で学んだこと、自己学修したことをポートフォリオにまとめる。</p>	後藤
12		<p>【講義】 清潔・衣生活の援助技術（整容・口腔ケア、衣生活の援助） 事前学修：教科書の指定範囲を精読し、分からない用語を調べて記述する。 基礎看護学 p.205-233 事後学修：授業で学んだこと、自己学修したことをポートフォリオにまとめる</p>	後藤
13		<p>【演習】グループワーク ＜身体の清潔の援助技術＞ 全身清拭・寝衣交換 足浴 援助計画の作成の方法と実際 ＜シミュレーション＞設定した対象にあった援助方法の選択と手順・留意点を援助計画書として作成する。 【事前学修】指定された事前課題に取り組む 【事後学修】指定された事後課題に取り組む</p>	滝沢

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
14		技術テスト(チェック) 試験後、フィードバック講義 技術テスト以外の時間は課題学習を行う 事前学修: 技術アワーに参加してセルフ技術チェックをしてテストに臨む。 事後学修: チェックリスト、教員の助言を踏まえて技術の到達度をふり返り、学修成果を自己評価表にまとめる	後藤、鈴江、 滝沢、佐々木
15		【演習】グループワーク 身体の清潔援助を既習の看護技術を活用して部分清拭・寝衣交換を実施する。 <ロールプレイング> 看護師・患者役をし、援助をする者、受ける者として看護技術を考える。 <シミュレーション> 援助計画書にそって実施する。 事前学修: 指定された事前課題に取り組む 事後学修: 指定された事後課題に取り組む	後藤、滝沢、 佐々木
16		【演習】グループワーク 既習の身体の清潔援助の看護技術を活用して足浴を実施する。 <ロールプレイング> 看護師・患者役をし、援助をする者、受ける者として看護技術を考える。 <シミュレーション> 設定した対象にあった援助計画に沿って実施する。 事前学修: 指定された事前課題に取り組む 事後学修: 指定された事後課題に取り組む	後藤、佐々木、 滝沢
17		【講義】 食事援助技術 事前学修: 教科書の指定範囲を精読し、分からない用語を調べて記述する。 基礎看護学 p.32-46 事後学修: 授業で学んだこと、自己学修したことをポートフォリオにまとめる。	滝沢
18		【演習】グループワーク 食事摂取の援助・口腔ケアの援助 <ロールプレイング> 看護師・患者役をし、援助をする者、受ける者として看護技術を考える。 <シミュレーション> 設定した対象にあった援助方法(援助計画)を計画し実施する。 事前学修: 設定した対象にあった援助方法(援助計画)を計画する。 事後学修: 指定された事後課題に取り組む	滝沢、後藤、 佐々木
19		【講義】 排泄援助技術 事前学修: 教科書の指定範囲を精読し、分からない用語を調べて記述する。 基礎看護学 p.58-71 事後学修: 授業で学んだこと、自己学修したことをポートフォリオにまとめる。	後藤
20		【演習】グループワーク おむつによる排泄援助・陰部洗浄 <ロールプレイング> 看護師・患者役をし、援助をする者、受ける者として看護技術を考える。 <シミュレーション> 設定した対象にあった援助方法を計画し、実施する。 事前学修: 設定した対象にあった援助方法(援助計画)を計画する。 事後学修: 指定された事後課題に取り組む	後藤、滝沢、 佐々木
21		学修の振り返り、まとめ	後藤、滝沢、 佐々木
試験		定期試験	後藤、鈴江、 滝沢、滝沢
事前・事後学修		事前・事後学修については、各回に記載。 時間は、各120分	
評価方法		課題(ポートフォリオ)15%、定期試験70%、技術テスト15%	
課題に対するフィードバック		課題等はコメント等を付して返却する。	
教科書		1. 系統看護学講座 基礎看護技術 医学書院(2023年) 2. 系統看護学講座 基礎看護技術 医学書院(2024年) 3. 医療情報科学研究所編:「看護技術がみえるvol.1 基礎看護技術」、メディックメディア	
参考書		1. 任和子他著:「根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術」(第4版)、医学書院(2025年) 2. 竹尾恵子監修:「看護技術プラクティス」(第4版)、学研メディカル秀潤社	

<p>履修上の注意点 及び取扱い</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義・演習にかかわらず原則、受講はすべて白衣着用とする。演習項目によってポロシャツの着用を指示する。身だしなみを整えて受講する。身だしなみが整っていない場合は、演習への参加を認めない。 2. 事前・事後学習を前提として講義・演習を進める。動画を積極的に視聴する。 3. 講義の出欠席の確認は、出席管理で行う。 4. 演習の出欠席の確認は、担当教員がグループ毎に行う。 5. 授業開始時の出席確認の時に在席していない場合は出席とならない。 6. 演習開始時に、健康状態セルフチェック表を記載し、担当教員に報告する。 7. 課題（事前・事後学修）の作成において生成AIの使用を禁止する。 8. 学修の成果をポートフォリオにまとめ、技術テスト終了後と定期試験終了時に提出する。事前・事後学習、分からない用語調べ、演習課題、授業の順序の通りにインデックスをつけてA4紙ファイルに綴じる。 9. 演習前に取り組んだ事前課題は演習当日に持参し、教員の確認を受け演習に活用する。演習はグループ（4～5人）で演習要項に沿って主体的に進める。 10. 技術テストを受ける前に技術アワーを積極的に活用し、教員による指導を受けることを推奨する。技術テストで基本技術項目が一定基準を満たさなかった場合は、再チェックを受ける。 11. 成績評価は、定期試験、課題（ポートフォリオ）、技術テストの評価の合計で行う。合計点が大学の評価基準の合格（60点）に満たなかった場合は、再試験を受けることができる。 12. 再試験（筆記試験）で60点未満の場合は不合格とする。 13. 講義を欠席した場合は、担当教員に連絡の上、次回の講義までに資料を受け取り自己学習する。演習に関する講義を欠席した場合は、演習に参加できない（見学とする）。
--------------------------	---

科目名	基礎看護学（看護過程の理論と展開）		
科目コード	34103	科目ナンバリング	B341032
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	1. 「基礎看護学」を履修していること。2. 「基礎看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	滝沢 美世志		
実務経験	看護師として病院勤務(滝沢)		
オフィスアワー	各回の講義終了後、直接または研究室の内線電話・メールでアポイントを取る。必要に応じて別途ゼミナール室等で対応する。 滝沢：内線 4320 m.takizawa.t@ikc.ac.jp		
科目概要	看護過程の概念、意義について理解して看護実践を科学的に実施するための思考過程を学修する。看護展開の一連のプロセス（情報収集、アセスメント、看護問題の明確化、看護計画の立案、実施、および評価）を理解し、事例展開を通して患者の看護問題の解決に向けて科学的根拠に基づいたアセスメント、および看護実践に活用するための方法を学修する。		
到達目標	看護過程の意義、目的について説明できる。 看護過程に必要な理論、および考え方について説明できる。 対象理解のための系統的な情報収集と整理ができる。 根拠に基づいたアセスメントができる。 対象の身体的・心理的・社会的情報、および情報の関連性を統合して全体像を描くことができる。 看護問題を明確にして優先順位の決定ができる。 対象の個性に合わせた看護目標を設定し、アセスメントに基づいた具体的な看護計画を立案することができる。 実施に基づいた評価を記述することができる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画（回数）	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		1. 学修ガイダンス ・授業の進め方、事前・事後学習、評価方法、定期試験について 2. 看護過程とは 3. 看護過程展開の基盤となる考え方 <事前学修> 基礎看護技術 および看護がみえるの該当ページを精読して分からない用語を調べて記述する。 <事後学修> 1. 本日学んだ内容を整理・定着させるために該当ページをまとめて復習する。	滝沢
2		1. 看護過程のプロセス 2. ヘンダーソンの14の基本的欲求に基づく情報収集とアセスメント <事前学修> 基礎看護技術 および看護がみえるの該当ページを精読して分からない用語を調べて記述する。 <事後学修> 1. 本日学んだ内容を整理・定着させるために該当ページをまとめて復習する。	滝沢
3		1. 情報収集と情報の生理・クラスタリング ・ゴードンの11の機能的健康パターンを用いた枠組み理解 ・情報収集と情報の生理 <事前学修> 基礎看護技術 および看護がみえるの該当ページを精読して分からない用語を調べて記述する。 <事後学修> 1. 本日学んだ内容を整理・定着させるために該当ページをまとめて復習する。	滝沢
4		1. アセスメント（パターン1, 2） <事前学修> 基礎看護技術 および看護がみえるの該当ページを精読して分からない用語を調べて記述する。 <事後学修> 1. アセスメントの個人ワーク 2. 本日学んだ内容を整理・定着させるために該当ページをまとめて復習する。	滝沢

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
5		1. アセスメント(パターン3, 4) <事前学修>基礎看護技術 および看護がみえるの該当ページを精読して分からない用語を調べて記述する。 <事後学修>1. アセスメントの個人ワーク 2. 本日学んだ内容を整理・定着させるために該当ページをまとめて復習する。	滝沢
6		1. アセスメント(パターン5, 6) <事前学修>基礎看護技術 および看護がみえるの該当ページを精読して分からない用語を調べて記述する。 <事後学修>1. 本日のアセスメントの個人ワーク 2. 本日学んだ内容を整理・定着させるために該当ページをまとめて復習する。	滝沢
7		1. アセスメント(7, 8) <事前学修>基礎看護技術 および看護がみえるの該当ページを精読して分からない用語を調べて記述する。 <事後学修>1. アセスメントの個人ワーク 2. 本日学んだ内容を整理・定着させるために該当ページをまとめて復習する。	滝沢
8		1. アセスメント(9, 10, 11) <事前学修>基礎看護技術 および看護がみえるの該当ページを精読して分からない用語を調べて記述する。 <事後学修>1. アセスメントの個人ワーク 2. 本日学んだ内容を整理・定着させるために該当ページをまとめて復習する。	滝沢
9		関連図 <事前学修>基礎看護技術 および看護がみえるの該当ページを精読して分からない用語を調べて記述する。	滝沢
10		関連図 <事後学修>1. 関連図の個人ワーク 2. 本日学んだ内容を整理・定着させるために該当ページをまとめて復習する。	滝沢
11		看護問題の明確化と優先順位 <事前学修>基礎看護技術 および看護がみえるの該当ページを精読して分からない用語を調べて記述する。 <事後学修>1. 本日学んだ内容を整理・定着させるために該当ページをまとめて復習する。	滝沢
12		看護計画の立案 <事前学修>基礎看護技術 および看護がみえるの該当ページを精読して分からない用語を調べて記述する。 <事後学修>1. 看護計画の個人ワーク 2. 本日学んだ内容を整理・定着させるために該当ページをまとめて復習する。	滝沢
13		実施と評価 <事前学修>基礎看護技術 および看護がみえるの該当ページを精読して分からない用語を調べて記述する。 <事後学修>1. 経過記録の個人ワーク 2. 本日学んだ内容を整理・定着させるために該当ページをまとめて復習する。	滝沢
14		1. 看護記録とは 2. 記録の記載・管理における留意点 <事前学修>基礎看護技術 および看護がみえるの該当ページを精読して分からない用語を調べて記述する。 <事後学修>1. 本日学んだ内容を整理・定着させるために該当ページをまとめて復習する。	滝沢
試験		定期試験 <事前学修>1. 全回の学びの復習	滝沢
事前・事後学修		授業前に教科書の該当ページを精読して分からない用語を調べて記述する。 授業後に学んだ内容を整理・定着させるために該当ページをまとめて復習する。	
評価方法		定期試験40%、課題等60%	
課題に対するフィードバック			
教科書		系統看護学講座 専門分野 基礎看護学技術 基礎看護学2. 医学書院. 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 医療情報科学研究所 メディックメディア.	
参考書			
履修上の注意点及び取扱い		1. 講義の出欠席の確認は、出席管理で行う。 2. 授業開始時の出席確認の時に在席していない場合は出席とならない。 3. 成績評価は、定期試験および課題等の合計点で行う。合計点が60点未満の場合は定期試験後の再試験を受けることができる。 4. 再試験は、筆記試験の結果が60点未満の場合は不合格とする。 5. 課題の作成において生成AIの使用を禁止する。	

科目名	基礎看護学（ヘルスアセスメント）		
科目コード	34104	科目ナンバリング	B341042
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	1. 「基礎看護学」を履修していること。2. 「基礎看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	佐々木 久美子・鈴江 智恵・滝沢 美世志・後藤 美恵		
実務経験	看護師として病院勤務（鈴江・滝沢・後藤・佐々木）		
オフィスアワー	各回の講義終了後、直接または研究室の内線電話・メールでアポイントを取る。必要に応じて別途ゼミナール室等で対応する。 佐々木：内線 4322 k.sasaki.t@ikc.ac.jp 鈴江：内線 4333 t.suzue.t@ikc.ac.jp 滝沢：内線 4320 m.takizawa.t@ikc.ac.jp 後藤：内線 4326 m.goto.t@ikc.ac.jp		
科目概要	ヘルスアセスメントの概念、目的、方法論の全容を学び、身体的・心理的・社会的側面を統合して対象を全人的に把握することの意義を理解する。そのうえで、本科目ではフィジカルアセスメントの基本技術を用いて得られる客観的データの意味を理解し、対象の健康状態を多面的に捉える基盤を形成する。 本科目では、系統別のフィジカルアセスメントの基本技術である問診・視診・触診・打診・聴診の目的・方法を学び、提示した事例のデータから正常、正常からの逸脱をアセスメントすることによって、臨床的判断能力を養う。さらに、あらゆる健康レベルの対象に対して、適切なコミュニケーション技術を用い、倫理的配慮（プライバシー保護等）を踏まえて情報を収集・整理し、統合的にアセスメントする力を身につける。		
到達目標	ヘルスアセスメントの目的と意義を理解し、説明できる。 対象を全人的（身体的・心理的・社会的側面）にとらえるために必要な情報を整理し、統合的に理解する重要性を説明できる。 フィジカル・アセスメントに必要な形態機能学の知識を確認し、説明できる。 ヘルスアセスメントの基本技術（問診・視診・聴診・触診・打診）の目的と方法を説明できる。 収集した情報（客観的・主観的データ）を解釈し、正常と正常からの逸脱を根拠を示して説明できる。 アセスメントした結果が、看護目標、看護計画立案の基盤となることが説明できる。 ヘルスアセスメント実施する際に、対象との援助的関係を構築し、プライバシー保護等の倫理的配慮を踏まえた実践方法を説明できる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画（回数）	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		【講義】 学修ガイダンス ヘルスアセスメントとは、健康歴とセルフケア能力のアセスメント 事前学修：text pp.2-22、text pp.124-149を読んでくる。	佐々木
2		【講義】 学修ガイダンス ヘルスアセスメントとは、健康知覚 健康管理のアセスメント 事前学修：text pp.2-22、text pp.124-149、text pp.40-50,54-79を読んでくる。	佐々木
3		【講義】 バイタルサインの観察とアセスメント 事前学修：text pp.34-83、232-237、text pp.150-171を読んでくる。前回の講義の復習をする。	佐々木
4		【演習】 血圧測定 事前課題：バイタルサイン測定方法をワークシートに記載する	佐々木、鈴江、後藤、滝沢
5		【演習】 バイタルサイン測定	佐々木、鈴江、後藤、滝沢

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
6		【講義】 呼吸器・循環器系のフィジカルアセスメント 事前学修：text pp.100-169、text pp.188-207を読んでくる	佐々木
7		【演習】Aグループ(1限)、Bグループ(2限)の2つに分かれて実施する。 呼吸器・循環器系のフィジカルアセスメント 事前課題：ワークシートにアセスメント方法を記載する。	佐々木、鈴江 、後藤、 滝沢
8		【講義】 腹部のフィジカルアセスメント、セクシュアリティ・生殖のアセスメント 事前学修：text pp.170-203、text pp.212-221、text p.60を読んでくる	佐々木
9		【演習】 腹部のフィジカルアセスメント/バイタルサイン測定 事前課題：ワークシートにアセスメント方法を記載する。	佐々木、鈴江 、後藤、 滝沢
10		【技術試験・フィードバック講義】 バイタルサイン測定 技術試験後、フィードバック講義。技術試験以外の時間は課題学習を行う。 事前学修：技術練習を行う。技術アワーを利用すること。 事後学修：チェックリスト、教員の助言を踏まえて技術の到達度を振り返り、技術練習を行う。	佐々木、鈴江 、後藤、 滝沢
11		【講義】 筋骨格系のフィジカルアセスメント 事前学修：text pp.326-353、text pp.221-229を読んでくる	佐々木
12		【講義】 神経系のフィジカルアセスメント 事前学修：text pp.226-325、text pp.230-251を読んでくる	佐々木
13		【演習】 筋骨格系・神経系のフィジカルアセスメント 事前課題：ワークシートにアセスメント方法を記載する	佐々木、鈴江 、後藤、 滝沢
14		【講義・演習】 心理的・社会的側面のアセスメント 事例に対するアセスメント 事前学修：text pp.258-269、text pp64-67	佐々木、鈴江 、後藤、 滝沢
試験		定期試験	佐々木、鈴江 、後藤、 滝沢
事前・事後学修		講義・演習の前にtextの該当箇所をよく読んでくる。 講義は身体の機能・構造について既習の教科を復習して臨む。 演習は身体診査の手技について動画の視聴とワークシートにアセスメント方法の記載をし、イメージトレーニングをしたうえで臨む。	
評価方法		定期試験70%、技術試験20%、課題5%、ポートフォリオ5%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教科書		医療情報科学研究所、「看護がみえるvol.3フィジカルアセスメント」、メディックメディア、2019。 系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術、茂野香おる、医学書院、2023。 看護がみえるvol.4看護過程の展開、医療情報科学研究所、メディックメディア、2020。	
参考書		フィジカルアセスメントガイドブック-目と手と耳でここまでわかる、山内豊明、医学書院、2011。	
履修上の注意点及び取扱い		1. 本授業は、事前・事後学修を含む各回の学修の積み重ねを重視する。欠席した場合は、速やかに科目責任者に相談し、学修成果に支障をきたさないよう各自で対応すること。 2. 授業開始時の出席確認時に在席していない場合は、出席として認めない。 3. 身だしなみ(爪、髪形、服装など)が整っていない場合は、演習への参加を認めない。 4. 原則として、グループに分かれて行う演習においては、前半グループに振り分けられた学生が遅刻をしても後半グループへの参加は認めない。同様に、後半グループに振り分けた学生が前半グループに参加することも認めない。 5. 提出を指示された課題について、欠席等の理由により未提出となった場合は、必ず科目責任者に連絡のうえ提出すること。 6. 講義を欠席した場合、配布資料は翌週の月曜日までに各自で取りに来ること。やむを得ない事情がある場合を除き、期日を過ぎた場合は対応しない。 7. 課題の作成において生成AIの使用を禁止する。なお、事前課題は演習終了後に提出することとし、回収終了後の提出は遅刻扱いとする。定期試験の日に至るまでの課題をポートフォリオとして提出すること。 8. 成績評価は、定期試験、課題提出、技術試験の合計点により行う。合計点が60点未満の場合は定期試験後に再試験を受けることができる。再試験の成績評価は再試験(筆記試験)の得点が60点未満の場合は不合格とする。 9. 技術試験については、到達基準に到達するまで指導を受ける。	

科目名	基礎看護学（基礎看護技術論）		
科目コード	34105	科目ナンバリング	B341052
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	1. 「基礎看護学」を履修していること。		
教員名	佐々木 久美子・鈴江 智恵・滝沢 美世志・後藤 美恵		
実務経験	看護師として病院勤務(鈴江・滝沢・後藤・佐々木)		
オフィスアワー	各回の講義終了後、直接または研究室に電話またはメールでアポイントを取る。必要に応じて別途ゼミナール室等で対応する。 佐々木：内線 4322 k.sasaki.t@ikc.ac.jp 鈴江：内線 4333 t.suzue.t@ikc.ac.jp 滝沢：内線 4320 m.takizawa.t@ikc.ac.jp 後藤：内線 4326 m.goto.t@ikc.ac.jp		
科目概要	<p>診察・検査・治療などの過程を支える診療援助技術について、既習の人体構造機能学を踏まえ、援助に必要な基本的知識と診療の補助技術を学修する。</p> <p>医師の指示に基づいて実施する診療の補助行為では、対象への説明、診療環境の整備、行為の実施、実施中及び実施後の観察を実施者の責任において行い、注意義務を果たすことが求められる。</p> <p>本科目では、身体的侵襲を伴い、安全性が求められる薬物療法、静脈血採血、注射、排泄を促す技術（導尿・浣腸）を取り上げる。提示した事例の検査データや状況・場面をもとに、援助の必要性を判断し、科学的根拠に基づく説明と、安全で適切な援助技術の方法の選択を通して、安全かつ倫理的に行動できる臨床判断能力を養う。</p>		
到達目標	<p>診療に伴う形態機能学の知識に基づいて、治療過程を支える援助の目的を説明できる。</p> <p>治療過程を支える看護技術の具体的方法について科学的根拠に基づいた説明ができる。</p> <p>診察・検査の過程において予測される危険性を理解し、安全性・安楽性を配慮した方法について説明できる。</p> <p>基本的な検査データの正常範囲を理解し、異常が疑われる所見を把握したうえで、必要な観察・報告および看護ケアを説明できる。</p> <p>治療過程を支える看護技術を実施する際に、対象との援助的関係を構築し、プライバシー保護など倫理的配慮の方法を説明できる。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画（回数）	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		<p>【講義】</p> <p>学修ガイダンス（基礎看護学の学修方法）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の進め方、事前・事後学習、小テスト、評価方法、定期試験について ・ 診療の補助技術について ・ 治療・検査・処置時の看護の役割・看護過程 ・ 医療安全の概念、看護実践と医療安全 <p>事前学修：教科書の該当ページを精読し、分からない用語を調べて記述する。</p> <p>事後学修：授業内容や授業で提示された国家試験の過去問題について、自分用の解説ノートを作成する。</p>	鈴江、佐々木
2		<p>【講義】</p> <p>感染防止の技術：無菌操作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 滅菌物の取り扱い（滅菌パック、滅菌包み、滅菌手袋など） <p>創傷管理技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 創傷の治癒課程、創傷のアセスメント ・ 洗浄、保護、包帯法 ・ 褥瘡の予防と治癒課程 <p>事前学修：教科書の該当ページを精読し、分からない用語を調べて記述する。</p> <p>事後学修：授業内容や授業で提示された国家試験の過去問題について、自分用の解説ノートを作成する。</p>	佐々木

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
3		【演習】全員で演習を行う 無菌操作、滅菌物の取り扱い、滅菌手袋の着脱、包帯法	佐々木、鈴江、 滝沢、後藤
4		【講義】 排泄援助技術 ・尿道カテーテル挿入（導尿） ・洗腸 事前学修：教科書の該当ページを精読し、分からない用語を調べて記述する。 事後学修：授業内容や授業で提示された国家試験の過去問題について、自分用の解説ノートを作成する。	佐々木
5		【講義・演習】 呼吸・循環を整える技術 ・吸入療法 ・吸引 ・酸素吸入、酸素ポンベの取り扱い 事前学修：教科書の該当ページを精読し、分からない用語を調べて記述する。 事後学修：授業内容や授業で提示された国家試験の過去問題について、自分用の解説ノートを作成する。	後藤
6		【講義】 症状・生体機能管理技術 ・検体検査（血液） ・注射器、注射針の取り扱い、針刺しの予防と対策 事前学修：教科書の該当ページを精読し、分からない用語を調べて記述する。 事後学修：授業内容や授業で提示された国家試験の過去問題について、自分用の解説ノートを作成する。	佐々木
7		【演習】 3限はAグループ、4限はBグループで分かれて演習を行う 静脈血採血 事前学修：手順書を作成し、主体的に演習に参加できるように準備する。 事後学修：手順書を加筆修正し、ポートフォリオに綴じる。	佐々木、鈴江、 滝沢、後藤
8		【講義】 症状・再待機の管理技術 ・生体検査（エックス線撮影、超音波、CT、MRI、心電図、内視鏡、核医学） ・検体検査（尿、便、喀痰、胸水、腹水、髄液） 事前学修：教科書の該当ページを精読し、分からない用語を調べて記述する。 事後学修：授業内容や授業で提示された国家試験の過去問題について、自分用の解説ノートを作成する。	滝沢
9		【講義】 与薬を安全かつ正確に行う技術 ・与薬（経口投与、口腔内投与、直腸内投与、経皮的投与） ・与薬の副作用（有害事象）の観察、誤薬の予防と対策 事前学修：教科書の該当ページを精読し、分からない用語を調べて記述する。 事後学修：授業内容や授業で提示された国家試験の過去問題について、自分用の解説ノートを作成する。	佐々木
10		【講義】 薬物療法とその援助 ・注射法（筋肉内注射 皮下注射、皮内注射、点滴静脈内注射等） 事前学修：教科書の該当ページを精読し、分からない用語を調べて記述する。 事後学修：授業内容や授業で提示された国家試験の過去問題について、自分用の解説ノートを作成する。	滝沢
11		【演習】3限はBグループ、4限はAグループで分かれて演習を行う ・筋肉内注射 皮下注射 事前学修：手順書を作成し、主体的に演習に参加できるように準備する。 事後学修：手順書を加筆修正し、ポートフォリオに綴じる。	佐々木、鈴江、 滝沢、後藤
12		【技術試験/フィードバック講義】 技術試験後、フィードバック講義を行う。技術試験以外の時間は課題学習を行う。	佐々木、鈴江、 滝沢、後藤
13		【演習】 ・点滴静脈内注射 事前学修：手順書を作成し、主体的に演習に参加できるように準備する。 事後学修：手順書を加筆修正し、ポートフォリオに綴じる。	佐々木、鈴江、 滝沢、後藤
14		【講義】 食事援助技術 ・経管栄養 事前学修：教科書の該当ページを精読し、分からない用語を調べて記述する。 事後学修：授業内容や授業で提示された国家試験の過去問題について、自分用の解説ノートを作成する。 全13回のまとめ	後藤、佐々木、 鈴江、滝沢

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
試験		定期試験 <事前学修> これまでの学びの復習 <事後学修> 試験で解答できなかった事項についての復習	佐々木、鈴江、滝沢、後藤
事前・事後学修		事前学修：教科書該当ページを精読し、分からない用語を調べる。手順書の作成 事後学修：講義内容を踏まえた問題および解説を作成する。	
評価方法		定期試験70%、技術試験20%、ポートフォリオ（事前事後学修）10%	
課題に対するフィードバック		課題等はコメント等を付して返却する。	
教科書		系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術 ， 茂野香おる，医学書院，2023. 系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術 ， 任和子，医学書院，2025.	
参考書			
履修上の注意点 及び取扱い		<ol style="list-style-type: none"> 1. 本授業は、事前・事後学修を含む各回の学修の積み重ねを重視する。欠席した場合は、速やかに科目責任者に相談し、学修成果に支障をきたさないよう各自で対応すること。 2. 授業開始時の出席確認時に在席していない場合は、出席として認めない。 3. 身だしなみ(爪、髪形、服装など)が整っていない場合は、演習への参加を認めない。 4. 原則として、グループに分かれて行う演習においては、前半グループに振り分けられた学生が遅刻をしても後半グループへの参加は認めない。同様に、後半グループに振り分けた学生が前半グループに参加することも認めない。 5. 提出を指示された課題について、欠席等の理由により未提出となった場合は、必ず科目責任者に連絡のうえ提出すること。 6. 講義を欠席した場合、配布資料は翌週の木曜日までに各自で取りに来ること。やむを得ない事情がある場合を除き、期日を過ぎた場合は対応しない。 7. 課題（ポートフォリオ；事前事後学修）の作成において生成AIの使用を禁止する。 8. ポートフォリオに綴じるものは事前・事後学修（分からない用語調べ、国家試験問題の解説、手順書等）とする。 9. 成績評価は、定期試験、技術試験、ポートフォリオの合計点により行う。合計点が60点未満の場合は定期試験後に再試験を受けることができる。再試験の成績評価は再試験（筆記試験）の得点が60点未満の場合は不合格とする。 10. 技術試験の再試験は行わない。 	

科目名	医療と看護の倫理		
科目コード	34106	科目ナンバリング	B341062
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	滝沢 美世志		
実務経験	看護師として病院勤務		
オフィスアワー	毎回授業後に対応、メールによる問い合わせは随時対応する。 m.takizawa.t@ikc.ac.jp		
科目概要	<p>本科目では、医療倫理・看護倫理の起源と歴史、及び医療者の倫理的態度の基本を学修する。医療における人間の尊厳や自律的意思決定と意思決定支援のあり方、インフォームドコンセント（IC）の意味とICを得る方法、個人情報保護法と守秘義務について、医療専門職者としての自覚を促す。そのうえで、看護職者として取るべき態度を具体的事例により討論し、代表的な倫理綱領、関係法規、ガイドラインなどを踏まえて考察する。</p>		
到達目標	<p>医療職者、看護職者としての倫理的価値観、倫理的態度を身につける必要性について説明できる。 看護の場にいる全ての人々に対する尊厳、自律的意思決定の意味を理解し、望ましい態度について考察できる。 看護職の倫理綱領、および倫理理論に基づく看護活動を具体的に説明できる。 倫理的な問題の特定と問題解決のための倫理的意思決定に向けた基本的な知識を身に付けることができる。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		<ul style="list-style-type: none"> ・倫理とは ・生命倫理とは ・生命倫理の歴史 ・性と生殖の生命倫理 ・先端医療の生命倫理 <p><事前学修> テキストの該当ページを精読して分からない用語を調べる。 <事後学修> 復習ノートに学んだことを整理し、学びを定着する。</p>	滝沢
2		<ul style="list-style-type: none"> ・死の生命倫理 <p><事前学修> テキストの該当ページを精読して分からない用語を調べる。 <事後学修> 復習ノートに学んだことを整理し、学びを定着する。</p>	滝沢
3		<ul style="list-style-type: none"> ・倫理理論：原則の倫理，徳の倫理，ケアの倫理 <p><事前学修> テキストの該当ページを精読して分からない用語を調べる。 <事後学修> 復習ノートに学んだことを整理し、学びを定着する。</p>	滝沢
4		<ul style="list-style-type: none"> ・看護職の倫理綱領 <p><事前学修> テキストの該当ページを精読して分からない用語を調べる。 <事後学修> 復習ノートに学んだことを整理し、学びを定着する。</p>	滝沢
5		<ul style="list-style-type: none"> ・看護者の倫理綱領 ・看護職の責務 <p><事前学修> テキストの該当ページを精読して分からない用語を調べる。 <事後学修> 復習ノートに学んだことを整理し、学びを定着する。</p>	滝沢

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
6		<ul style="list-style-type: none"> ・看護実践における倫理問題の特徴 ・倫理的問題へのアプローチ法 <事前学修> テキストの該当ページを精読して分からない用語を調べる。 <事後学修> 復習ノートに学んだことを整理し、学びを定着する。	滝沢
7		<ul style="list-style-type: none"> ・事例に基づいた倫理的問題へのアプローチ <事前学修> 倫理問題事例についての個人ワーク <事後学修> 復習ノートに学んだことを整理し、学びを定着する。	滝沢
試験		筆記試験 <事前学修> 全回の学びの復習	滝沢
事前・事後学修		授業前にテキストの該当箇所を熟読して分からない用語調べをする。 授業後に学んだことを整理し、学びを定着する。	
評価方法		定期試験(80%) 課題およびグループワーク参加度等(20%)	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教科書		1. 系統看護学講座 別巻「看護倫理」, 医学書院	
参考書		1. よくわかる看護職の倫理綱領 照林社 2. 看護職の基本的責務 日本看護協会出版会 3. 看護倫理 良い看護・良い看護師への道しるべ 南江堂	
履修上の注意点 及び取扱い		1. 講義の出欠席の確認は、出席管理で行う。 2. 授業開始時の出席確認の時に在席していない場合は出席とならない。 3. 成績評価は、定期試験、課題等の合計点で行う。合計点が60点未満の場合は定期試験後の再試験を受けることができる。 4. 再試験は、筆記試験の結果が60点未満の場合は不合格とする。 5. 課題の作成において生成AIの使用を禁止する。	

科目名	基礎看護学実習		
科目コード	34107	科目ナンバリング	B341071
授業形態	実習	開講時期	1年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	45時間
先修条件	1. 「基礎看護学」を履修していること。2. 「基礎看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	佐々木 久美子・鈴江 智恵・滝沢 美世志・後藤 美恵		
実務経験	看護師として病院勤務(鈴江・滝沢・後藤・佐々木)		
オフィスアワー	実習終了後、メールでアポイントを取る。 鈴江：t.suzue.t@ikc.ac.jp 滝沢：m.takizawa.t@ikc.ac.jp 後藤：m.goto.t@ikc.ac.jp 佐々木：k.sasaki.t@ikc.ac.jp		
科目概要	<p>すべての人にとって、健康に生き、健康に生活することは重要な課題である。しかし、人は疾患や加齢、障害による機能低下などにより、日常の生活の場を離れ、新たな環境で療養生活を送ることがある。</p> <p>本科目では、病院および介護保険施設（介護老人保健施設、介護老人福祉施設〔特別養護老人ホーム〕）において、対象の安全性・安楽性（快適性）・自立性を踏まえた療養・生活環境の実際を理解し、基礎的な看護援助のあり方を学ぶ。さらに、多職種連携の視点から各職種の役割を理解し、多様な対象者との関わりを通して、看護職として求められる倫理的行動について考察する。</p>		
到達目標	<p>病院および介護保険施設の構造・機能を理解し記述することができる。</p> <p>病院および介護保険施設における看護の機能と役割を理解し記述することができる。</p> <p>看護実践の場や援助の実際を見学し、看護とは何かについて自己の考えを記述することができる。</p> <p>看護学生として、看護倫理に基づいた姿勢・態度を取ることができる。</p> <p>看護学生としての責任や自己の能力を自覚して報告・連絡・相談などの行動を示すことができる。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1日目		全体オリエンテーション 実習記録の書き方、留意事項 カンファレンスの目的と進行方法	佐々木、鈴江、滝沢、後藤
2日目		施設概要説明、施設見学 病院各部門の構造と機能、特徴の理解	佐々木、鈴江、滝沢、後藤
3日目		看護師が実施する看護援助の見学 カンファレンスによる情報共有と振り返り	佐々木、鈴江、滝沢、後藤
4日目		看護師が実施する看護援助の見学 カンファレンスによる情報の共有と振り返り	佐々木、鈴江、滝沢、後藤
5日目		実習の総括 学びの共有、グループ討議・発表	佐々木、鈴江、滝沢、後藤
事前・事後学修	実習ガイダンスで説明する。		
評価方法	実習評価表を基に、実習記録、実習態度、グループへの参加度で総合的に評価する。		
課題に対するフィードバック	実習中、実習後に実習記録にコメント等を付して返却する。		
教科書	基礎看護学、基礎看護学で指定された教科書		

参 考 書	無
履修上の注意点 及び取扱い	<p>1. 実習ガイダンスは実習参加の必須要件である。実習方法、事前課題、実習記録、諸注意、実習施設に提出する誓約書に関する説明等を行う。原則として全員出席すること。やむを得ず欠席する場合は、開始前までに科目責任者へ連絡すること。</p> <p>2. 実習は病院および介護老人保健施設で行う。グループによって実習施設が異なるので、事前に各自で確認し、指定された場所に集合すること。</p> <p>3. 出席時間数が実習時間の5分の4以上を満たしている場合に、成績評価を行う。</p> <p>4. 実習内容が不足した時、再実習を行う場合がある。</p> <p>5. 実習記録は提出期限内に提出したものを評価する。</p> <p>6. 実習スケジュールは、実習施設の状況等により変更する場合がある。変更が生じた場合は大学からの連絡（ポータル、メール）を確認すること。</p> <p>7. 実習に関するいかなる情報も、インターネットやSNS等いかなる媒体にも投稿・共有しないこと。</p> <p>8. 実習前には、研伸大学ワクチンフローチャートに従い必要なワクチン接種を行い、感染予防に努めること。</p> <p>9. 実習開始日1週間前から健康セルフチェックを行う。発熱など症状があった場合は速やかに担当教員へ相談する。</p>

科目名	基礎看護学実習		
科目コード	34108	科目ナンバリング	B341082
授業形態	実習	開講時期	2年通年
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	90時間
先修条件	1. 「基礎看護学」を修得していること。2. 「基礎看護学実習」の単位を修得していること。3. 「基礎看護学・基礎看護学」を履修していること。4. 全ての領域実習の単位数先修条件となる。		
教員名	後藤 美恵・鈴江 智恵・滝沢 美世志・佐々木 久美子		
実務経験	看護師として病院勤務（鈴江・滝沢・後藤・佐々木）		
オフィスアワー	実習終了後、直接または研究室に電話またはメールでアポイントを取る。 後藤：内線 4326 m.goto.t@ikc.ac.jp 鈴江：内線 4333 t.suzue.t@ikc.ac.jp 滝沢：内線 4320 m.takizawa.t@ikc.ac.jp 佐々木：内線 4322 k.sasaki.t@ikc.ac.jp		
科目概要	基礎看護学実習の学修を踏まえ、健康上の問題のために生活の日常性が損なわれている対象者と援助的関係を築きながら、日常生活援助を中心に、対象の安全性・安楽性・個別性、自立性を考慮した看護を計画し実践する能力を育む。1名の患者を受け持ち、科学的根拠と看護理論を活用した看護過程の展開の実際を学ぶ。また、看護実習の体験から、患者と看護師関係のあり方、看護倫理について考察する。実習中のカンファレンスやレポート作成などを通して実施した看護を振り返り、自己の学びや今後の課題を明確にする。		
到達目標	看護過程の展開を通して、受け持ち患者を全体的に把握し、健康問題が日常生活に与える影響を記述することができる。 受け持ち患者に必要な援助を計画し、実施・評価して、必要に応じて看護計画を修正することができる。 患者とのかかわりを通して援助的関係の基礎を築くことができる。 看護師間、多職種間の連携・協働において看護師の役割について説明することができる。 看護学生として、基本的な姿勢・患者を尊重する態度をとることができる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進・疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			○
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画（回数）	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1日目		施設及び病棟オリエンテーション 個人情報保護、守秘義務、コミュニケーション 事前学修：行動計画の作成、事前課題 事後学修：情報収集、アセスメント	後藤、鈴江、 滝沢、佐々木
2日目		受け持ち患者の情報収集、アセスメント 受け持ち患者の看護の見学・一部実施 事前学修：行動計画の作成、情報収集とアセスメント 事後学修：実施したケアの結果と評価、ふり返りの記述 情報収集とアセスメントの追加・修正	後藤、鈴江、 滝沢、佐々木
3日目		受け持ち患者の情報収集、アセスメント 受け持ち患者の看護の見学・一部実施 事前学修：行動計画の作成、情報収集とアセスメントの追加・修正 事後学修：実施したケアの結果と評価、ふり返りの記述 アセスメント～ケアプランの作成	後藤、鈴江、 滝沢、佐々木
4日目		受け持ち患者の情報収集、アセスメント【受け持ち患者の看護の方向性について実習指導者に助言を受ける】 事前学修：行動計画の作成、情報収集とアセスメントの追加・修正 事後学修：実施したケアの結果と評価、ふり返りの記述 アセスメント～ケアプランの作成	後藤、鈴江、 滝沢、佐々木
5日目		情報の整理、全体像、看護問題の明確化、看護計画立案 事前学修：アセスメント～ケアプランの作成 事後学修：アセスメント～ケアプランの作成	後藤、鈴江、 滝沢、佐々木

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
6日目		看護計画立案発表会 受け持ち患者の看護 中間カンファレンス 事前学修：行動計画の作成、アセスメント～ケアプランの作成 事後学修：実施したケアの結果と評価・修正、ふり返りの記述 ケアプランの追加・修正	後藤、鈴江、 滝沢、佐々木
7日目		受け持ち患者の看護、援助の実施・評価・修正 事前学修：行動計画の作成、ケアプランの追加・修正 事後学修：実施したケアの結果と評価・修正、ふり返りの記述	後藤、鈴江、 滝沢、佐々木
8日目		受け持ち患者の看護、援助の実施・評価・修正 事前学修：行動計画の作成、ケアプランの追加・修正 事後学修：実施したケアの結果と評価・修正、ふり返りの記述、 実習のまとめ作成	後藤、鈴江、 滝沢、佐々木
9日目		受け持ち患者の看護、援助の実施・評価・修正 最終カンファレンス 事前学修：行動計画の作成、ケアプランの追加・修正 事後学修：実施したケアの結果と評価とふり返りの記述 実習のまとめ作成	後藤、鈴江、 滝沢、佐々木
10日目		個人面接、記録の整理、学びの共有、討議、発表 記録等提出締め切り(時間厳守) 事前学修：自己評価の作成、実習記録の整理 事後学修：実習の振り返り、今後の課題の明確化	後藤、鈴江、 滝沢、佐々木
事前・事後学修		事前学修：実習の進度に合わせその都度指示する。 事後学修：実習の進度に合わせその都度指示する。 各120分	
評価方法		実習評価表にある項目ごとの評価の合計点数	
課題に対する フィードバック		日々の実習では、個人面談、カンファレンス、記録へのコメント等でフィードバックを行う。 実習最終日に個人面談を行う。	
教科書		基礎看護学 . . . で使用した教科書 基礎看護学 . . . で配布した資料	
参考書		適宜紹介する	
履修上の注意 点及び取扱い		1. 実習ガイダンスの時間を設けている。実習方法、事前課題、実習記録、諸注意等を説明するので出席して実習に臨むこと。 2. 出席時間数が実習時間の5分の4以上を満たしている場合に、成績評価を行う。 3. 実習最終日の評価面接では実習評価表を用いて自己評価と教員評価との調整を行う。 4. 実習内容が不足した時、再実習を行う場合がある。 5. 実習記録は提出期限内に提出したものを評価する。 6. 実習スケジュールは、実習施設の状況によって変更する場合がある。変更が生じた場合は大学からの連絡(ポータル、メール)を確認すること。 7. 実習に関するいかなる情報も、インターネットやSNS等いかなる媒体にも投稿・共有しない。 8. 実習前には必ず研伸大学ワクチンフローチャートに沿ってワクチン接種による感染症の予防を行う。 9. 実習開始日1週間前から健康セルフチェックを行う。発熱など症状があった場合は速やかに教員に相談する。	

科目名	地域看護論		
科目コード	34201	科目ナンバリング	B342012
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	無		
教員名	江本 厚子・西谷 直子		
実務経験	江本：看護師として行政等勤務 西谷：保健師として行政等勤務		
オフィスアワー	江本：a.emoto.o@ikc.ac.jp 西谷：n.nishitani.t@ikc.ac.jp		
科目概要	地域で生活する人々を対象に展開される地域看護活動の理念や活動方法、健康・QOLの向上を目指した支援について学修する。健康指標や保健医療福祉サービスなどの視点から、地域で生活する人々の特徴や健康課題を把握し、個人・家族・集団を対象とした地域における健康増進・健康づくり・疾病予防・早期発見・早期治療・社会復帰への看護活動の実際と課題について理解する。		
到達目標	地域看護の理念や活動の場が説明できる。 地域看護の対象の特徴や健康課題を説明できる。 地域における健康増進・健康づくり・疾病予防・早期発見・早期治療・社会復帰への支援および課題について考えることができる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			○
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		地域看護の理念と活動の対象	西谷
2		地域看護活動の場：行政における看護活動	西谷
3		子どもや親の健康課題とその支援（1）	西谷
4		子どもや親の健康課題とその支援（2）	西谷
5		成人期の健康課題とその支援（1） 事前//事後学修：成人期の健康支援、生活習慣病対策（配布資料、参考書）	江本
6		成人期の健康課題とその支援（2） 事前//事後学修：健康増進対策、行動変容へのアプローチ（配布資料、参考書）	江本
7		老年期の健康課題とその支援 事前//事後学修：老年期の健康支援、フレイル、認知症、介護予防（配布資料、参考書）	江本
8		慢性疾患・精神疾患とその支援 事前//事後学修：慢性疾患・難病、精神疾患、QOL向上のための支援の実際、社会資源の紹介（配布資料、参考書）	江本
9		地域看護活動の方法（家庭訪問、健康相談、健康教育）	西谷
10		地域診断の方法と課題への支援策	西谷
11		健康危機管理（感染症、災害）	西谷
12		プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション 事前//事後学修：プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションとは（配布資料、参考書）	江本
13		地域看護活動の場：産業や学校における看護活動 事前//事後学修：職域（企業）・学校での看護（配布資料、参考書）	江本
14		地域保健医療における多職種連携・協働 事前//事後学修：地域包括ケアシステムとは（配布資料、参考書）	江本

事前・事後学修	事前・事後学修については、各回に記載。 時間は、各120分。
評価方法	評価は、課題レポート（50%）と定期試験（50%）により行う。
課題に対する フィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。
教科書	中央法規出版「公衆衛生看護学 第4版」2025年
参考書	1．標美奈子他．標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論．医学書院 2．中谷芳美他．標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動．医学書院 3．荒賀直子他．公衆衛生看護学.jp．インターメディカル 4．厚生労働統計協会．国民衛生の動向．一般財団法人厚生労働統計協会 その他、必要に応じて、担当する教員が提示する。
履修上の注意点 及び取扱い	1．地域社会への看護の基本となる科目であるという意識をもって、課題に取り組むこと。 2．授業時の私語、途中入退室など他者への迷惑行為は、減点対象となることがある。 3．参加態度は評価対象とする。

科目名	家族の健康と看護		
科目コード	34202	科目ナンバリング	B342022
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	江本 厚子・牧野 智恵・小島 徳子		
実務経験	看護師として病院勤務（江本） 看護師として病院勤務（牧野） 助産師として病院勤務（小島）		
オフィスアワー	a.emoto.t@ikc.ac.jp t.makino.t@ikc.ac.jp t.kojima.t@ikc.ac.jp		
科目概要	<p>家族は、社会を構成する基本となる集団であり、家族が健康上の問題をもったとき、家族ユニット全体が影響を受け、個々の家族メンバーの健康に影響を及ぼす。また、個人の健康や健康行動は家族に影響を及ぼし、家族の中で学習されるという視点から、家族のヘルスケアニーズを満たし、家族の健康を促進、維持、再構築することの重要性を理解する。</p> <p>本科目では、家族を取り巻く社会的側面、文化的側面について理解した上で、家族間のコミュニケーション、相互理解、意思決定などを促進するために看護職が担う役割、関係機関との連携について理解する。</p>		
到達目標	<p>家族の構成員の健康と健康な家族について理解する。</p> <p>家族の持つケア機能を理解し、ヘルスケアニーズとは何かを考えることができる。</p> <p>家族間のコミュニケーションを促し、家族間の相互理解、意思決定、役割分担などがスムーズに行われるよう家族を支援する看護師の役割について理解する。</p> <p>こどもの誕生からその成長に合わせて変化する家族ならびに高齢者と家族への支援について考えることができる。</p> <p>地域における家族の健康と看護支援について考えることができる。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			○
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画（回数）	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		<p>授業ガイダンス</p> <p>単元1 家族とは、家族看護とは 教科書p.2～7, p.18～25 事前学修：教科書 p.2～7, p.18～25 事後学修：講義で提示された資料や内容を自分でまとめ理解しておく</p>	江本
2		<p>単元2 家族の構造と機能 家族ジェノグラム 事前学修：教科書p.40～47 事後学修：講義で提示された資料や内容を自分でまとめ理解しておく</p>	江本
3		<p>単元3 家族看護を支える理論と介入法 家族看護展開の方法 事前学修：教科書 P102-135の精読 事後学修：授業内容をふまえ、家族看護展開の方法についてまとめる</p>	江本
4		<p>単元4 高齢者と家族を取り巻く社会的背景 事前学修：教科書 p75～79, p262～273の精読 事後学修：日本の高齢者家族の形態の変化と課題についてまとめる</p>	江本
5		<p>単元5 母子と家族を取り巻く社会的背景 事前学修：教科書 p81～93の精読 事後学修：家族の多様性と授かる命の多様性、妊娠・出産期に起こる家族の問題についてまとめる</p>	小島
6		<p>単元6 慢性の健康課題を持つ人と家族への看護 事前学修：教科書4 p4-7の精読。 事後学修：慢性の健康問題を抱えて地域で生活する療養者と、その家族への支援について理解したことをまとめる。 広義のACPIについて理解したことをまとめる。</p>	牧野
7		<p>単元7 クリティカルケアを必要とする患者の家族への看護支援 事前学修：看護における家族の定義と代理意思決定の意味を調べる。 事後学修：家族の代理意思決定支援について考えをまとめる。</p>	江本

授業計画 (回数)	該当する 到達目標	内容・事前 / 事後学習	担当者
試験		定期試験	江本
事前・事後学修		各回の事前・事後学修は4時間とする	
評価方法		定期試験(90%)、授業参加態度(10%)	
課題に対する フィードバック		授業内で課題に取り組んだ場合は、コメントは授業内でフィードバックする。	
教科書		系統看護学講座・別巻「家族看護学」医学書院	
参考書		なし	
履修上の 注意点 及び取扱い		1. 事前学修内容を提示する。毎回取り組んだ上で授業に臨む。	

科目名	在宅看護論		
科目コード	34203	科目ナンバリング	B342032
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	馬場 美穂		
実務経験	看護管理者として病院勤務の他、在支：現地域包括支援センターと居宅介護支援事業所の管理及び相談援助業務		
オフィスアワー	講義終了後、30分以内 馬場：内線1211		
科目概要	地域で生活する在宅看護の対象者とその家族を理解し、在宅療養を支えるシステムや在宅看護の基盤となる概念について学ぶ。また、療養の場の変化に伴う継続看護や多職種との連携など、在宅における看護の提供方法について学修する。事例を通して訪問看護師が在宅で行う看護実践の特徴について理解し、少子高齢多死社会における在宅看護の役割と課題について考える。		
到達目標	在宅療養を支えるシステム、在宅看護の基盤となる概念を学ぶ。 在宅看護の対象者の特徴を理解し、継続看護の必要性を理解する。 在宅における看護の提供方法、多職種との連携について理解する。 看護実践事例を通して訪問看護師が在宅で行う看護実践の特徴と在宅看護のあり方や看護倫理について理解する。 地域社会における、在宅看護の役割を理解する。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
各専門職の役割を理解した上で、多職種と協働し、保健医療福祉のチームの一員として、看護職の役割を果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			○
継続的に学ぶ姿勢を身につけている			
自己を研ぎ自らの力を伸ばすことができる			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		講義ガイダンス 1. 地域と生活と健康 テキスト P22～44 地域と生活と健康、地域包括ケアシステムと共生社会、地域アセスメント、地域看護と在宅看護、地域・在宅看護の背景 事前学修 テキストの講義範囲を読む 事後学修 課題に取り組む。小テストの解答をもとに復習をする。資料整理。	馬場
2		1. 在宅看護 テキスト P68～107 在宅看護の基盤、地域を支える在宅看護の役割・機能、地域在宅看護における倫理、地域包括ケアシステムにおける多職種連携 2. 在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント テキスト P158～ 事前学修 テキストの講義範囲を読む 事後学修 課題に取り組む。小テストの解答をもとに復習をする。資料整理。	馬場
3		1. 地域・在宅看護の対象者 テキスト P108～136 地域・在宅看護の対象者、在宅看護の対象者とサービス提供者側の条件、在宅療養の場における家族の捉え方 事前学修 テキストの講義範囲を読む 事後学修 課題に取り組む。小テストの解答をもとに復習をする。資料整理。	馬場
4		1. 地域療養を支える法・制度 テキスト P180～226 社会資源の利用、医療保険制度をはじめとする各種制度を知る 事前学修 テキストの講義範囲を読む 事後学修 課題に取り組む。小テストの解答をもとに復習をする。資料整理。	馬場

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
5		1.在宅療養を支える訪問看護 テキスト P137~156 訪問看護の特徴、在宅ケアを支える訪問看護ステーション、訪問看護サービスの展開、訪問看護の記録 2.在宅看護における安全と健康危機管理 テキスト P227~248 在宅看護における危機管理、日常生活における安全管理、災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理 テキスト P240~ 事前学修 テキストの講義範囲を読む 事後学修 課題に取り組む。小テストの解答をもとに復習をする。資料整理。	馬場
6		1.在宅における援助技術 テキスト P74~(3章~5章) 在宅療養生活を支える基本的な技術 日常生活を支える看護技術 病状等に応じた看護技術・療養を支える看護技術(医療ケア) 事前学修 テキストの講義範囲を読む 事後学修 課題に取り組む。小テストの解答をもとに復習をする。資料整理。	馬場
7		1.地域・在宅看護の動向と今後の発展 テキスト P58~58、P250~264 在宅看護の先駆的取り組み、これからの在宅看護の発展に向けて 2.在宅看護実践の理解 DVD 視聴 3.各講義の振り返り 筆記試験の案内 事前学修 テキストの講義範囲を読む 事後学修 課題に取り組む。小テストの解答をもとに復習をする。資料整理。	馬場
試験	~	1.各授業の確認筆記試験	馬場
事前・事後学修	事前に授業範囲のテキストを読んで授業を受けてください。 講義資料をもとに授業を振り返り、理解を深めるように努めてください。		
評価方法	定期試験：70% 課題(小テスト)：30% 各授業の課題への取り組みも重視します。 欠席した場合は、自発的に講義資料・課題について教員に確認をして取り組んでください。		
課題に対するフィードバック	提出課題について、全体へフィードバックは授業の中で行います。 また、個別指導が必要な場合はポータルを利用して対応します。		
教科書	「ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 :地域療養を支えるケア」メディカ出版、石田千絵ほか編 2025年第8版 「ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 :在宅療養を支える技術」メディカ出版、石田千絵ほか編 2025年第3版		
参考書	適宜、授業時に提示する。		
履修上の注意点及び取扱い	1.遅刻および講義時間中の無用な離席、私語は厳禁です。 2.教科書や参考文献をよく読み予習して、考えながら授業に参加してください。 3.知識確認の小テストを随時行う予定です。 4.講義後によく復習してください。		

科目名	エンド・オブ・ライフ看護論		
科目コード	34204	科目ナンバリング	B342043
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	安藤 詳子		
実務経験	看護師として病院勤務		
オフィスアワー	毎回の授業終了後10分以内、及びメールによる問い合わせは随時可能 メールアドレス 安藤 <s.ando.t@ikc.ac.jp>		
科目概要	学生が、人生の終末期を生きる人の苦痛と苦悩、その家族の心理について学び、患者と家族のQOL向上を目指すケアの方法を理解して、その実践のあり方について、主体的に考察できるように教授する。		
到達目標	終末期ケア・緩和ケアの歴史を知り、概念を理解する。 患者のトータルペインとその援助方法について理解する。 家族・遺族ケアのあり方について知る。 終末期ケアにおける多職種連携について考察する。 本講義を通して、自己の看護観・死生観を深める。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		終末期ケア・緩和ケアの歴史と概念 事前・事後学習 テスト2: .緩和・ターミナルケア看護学序説	安藤
2		終末期にある人の特徴・トータルペイン 事前・事後学習 テスト2: .ターミナル期にある人とその家族の特徴と理解	安藤
3		終末期にある人への意思決定支援 事前・事後学習 テスト2: .ターミナル期にある人とその家族への看護援助	安藤
4		身体的な苦痛症状に対する援助 事前・事後学習 テスト2: .症状メカニズムとそのマネジメント .薬剤の活用とその副作用への対処方法	安藤
5		心理的・社会的な苦悩に対する援助 事前・事後学習 テスト2: .心理的支援の方法	安藤
6		スピリチュアルペインに対する援助 事前・事後学習 テスト2: .コミュニケーション技術と技法	安藤
7		家族・遺族ケア 終末期ケアにおける多職種連携 事前・事後学習 テスト2: .家族・遺族ケアの方法 .医療従事者のストレスとその対処方法	安藤
試験		定期試験	安藤
事前・事後学修	事前・事後学修については、各回に記載。 時間は各120分。		
評価方法	定期試験90%、小テスト・課題レポート10%		
課題に対するフィードバック	課題レポート等に対し、授業中に全体的にコメントする。		
教科書	1.安藤詳子編集：成人がん看護学.理工図書.2022.（2年次に購入済み） 2.成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論.ヌーヴェルヒロカワ.最新版		

参 考 書	その他、講義内で適宜紹介する。
履修上の注意点 及び取扱い	1．講義に積極的に参加する。 2．講義時間中は集中し、私語は厳禁である。 3．自己の看護観・死生観について考える。 4．教科書にそって予習・復習する。 5．各講義における基礎的知識を確認する。

科目名	療養生活支援看護学		
科目コード	34205	科目ナンバリング	B342052
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	「療養生活支援看護学・実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	安藤 詳子・松井 優子・増永 悦子・小澤 直樹・小野寺 美佳		
実務経験	看護師として病院勤務(安藤・松井・増永・小澤・小野寺)		
オフィスアワー	毎回の授業終了後10分以内、及びメールによる問い合わせは随時可能 安藤：s.ando.t@ikc.ac.jp 松井：y.matsui.t@ikc.ac.jp 増永：e.masunaga.t@ikc.ac.jp 小澤：n.ozawa.t@ikc.ac.jp		
科目概要	<p>治癒することが困難で慢性に経過する健康課題（疾患を含む）をもち、医療施設や居宅で、生涯にわたり病気や障害と共に生きていく人々の健康や生活上の課題を、慢性期及び終末期を中心に理解する。対象となる人々がもつ健康や発達課題の特徴、健康障害による生活への影響、QOLに焦点を当てた看護について理論を踏まえて学修する。また、在宅看護の対象の療養者・要介護者、家族への理解を深め、療養型病床を有する地域の医療施設や居宅において提供される看護ケアの特徴と倫理的な課題について学修する。さらに、地域包括ケアシステムを踏まえて、保健・医療・福祉システムにおける協働と連携、チームマネジメントの重要性や看護師の役割について学修する。</p>		
到達目標	<p>慢性の特性を有する健康課題（慢性疾患を含む）をもつ人（成人期の人を中心に）と家族の特性を理解するために、必要な関連する概念、理論を学ぶ。 慢性疾患を含む慢性の特性を有する健康課題をもつ人の、発達課題の特徴（成人期の人を中心に）、健康課題と療養生活過程における生活上のニーズを理解する。 慢性疾患を含む慢性の特性を有する健康課題をもつ人と家族に必要とされる看護を実践する際に、有用な概念・理論を理解する。 健康レベルに応じて医療機関や在宅において提供される看護、保健・医療・福祉システムについて理解する。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			○
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		ガイダンス 生涯にわたり病いや障害を持って生きる人や家族を支援するとは？	安藤
2		がん看護 がんの発生と疫学・がん治療と看護/手術療法	安藤
3		がん看護 がん治療と看護/放射線療法	安藤
4		がん看護 がん治療と看護/がん薬物療法	安藤
5		がん看護 臓器別がんと看護の特徴	安藤
6		生涯にわたり自己管理を必要とする人と家族への看護 関連する概念・理論「病みの軌跡」	増永
7		生涯にわたり自己管理を必要とする人と家族への看護 「セルフ・マネジメント」その1	増永
8		生涯にわたり自己管理を必要とする人と家族への看護 「セルフ・マネジメント」その2	小澤/松井
9		慢性の栄養摂取・消化機能障害をもつ人と家族への看護	小澤/松井
10		慢性の栄養摂取・消化機能障害をもつ人と家族への看護	小澤/松井
11		慢性の内部環境調節障害をもつ人と家族への看護	小野寺

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1 2		慢性の内部環境調節障害をもつ人と家族への看護	小野寺
1 3		慢性の運動機能障害をもつ人と家族への看護	増永
1 4		慢性の運動機能障害をもつ人と家族への看護	増永
試験		定期試験	全員
事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分		
評価方法	課題提出：10% 定期試験：90%		
課題に対するフィードバック	課題のフィードバックは講義等で適宜行う。		
教科書	1．鈴木志津江、藤田佐和編：「成人看護学 慢性期看護論（最新版）」、ヌーヴェルヒロカワ 2．安藤詳子編著：「看護学専門分野教科書シリーズ『成人がん看護学』」、理工図書株式会社 2022年		
参考書	適宜、紹介する。		
履修上の注意点及び取扱い	1．学修内容が多いので、事前・事後学修を必ず行うこと。 2．講義への積極的な参加を求める。遅刻および講義時間中の離席、私語は厳禁である。 3．知識確認の課題提出を随時行う予定である。 4．欠席時の講義資料等は、該当の講義の担当教員に連絡して受け取ること。		

科目名	療養生活支援看護学		
科目コード	34206	科目ナンバリング	B342063
授業形態	講義・演習	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	45時間
先修条件	1. 「療養生活支援看護学」の単位を修得していること。2. 「療養生活支援看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	増永 悦子・松井 優子・小澤 直樹・馬場 美穂		
実務経験	看護師として病院勤務(松井・増永・小澤) 看護師として病院・地域包括支援センター勤務(馬場)		
オフィスアワー	毎回の授業終了後10分以内、及びメールによる問い合わせは随時可能 増永：e.masunaga.t@ikc.ac.jp 松井：y.matsui.t@ikc.ac.jp 馬場：m.baba.t@ikc.ac.jp 小澤：n.ozawa.t@ikc.ac.jp		
科目概要	居宅や療養施設で生活する慢性疾患患者の事例を取り上げ、患者と家族に適用される理論や概念を用いて、セルフマネジメント・スキル獲得への支援を中心とした看護実践を学修する。また、在宅看護で必要となる日常生活援助技術の特徴や方法、多職種連携の必要性について学修する。さらに、慢性呼吸不全患者への看護技術(在宅酸素療法)、栄養・代謝機能障害者への看護技術(投薬、自己管理法)、事例による看護過程の展開(情報収集と整理、アセスメント、看護上の問題の抽出、課題の明確化、看護計画立案、看護計画の発表)また、終末期を迎える人と家族への看護について理解を深める。		
到達目標	<p>自宅や療養施設で生活する人の、発達課題や健康課題の特徴と療養生活過程における生活上のニーズ、家族支援の必要性について理解する。</p> <p>慢性の特性を有する健康課題をもつ人と家族に適用される基本となる概念や理論を理解する。</p> <p>自宅や療養施設で生活する人と家族に対して、セルフケアやセルフマネジメント・スキル獲得への支援の必要性と方法を理解する。</p> <p>自宅や療養施設で生活する看護の対象事例に看護過程をの展開する。</p> <p>慢性の特性を有する健康課題をもつ人と家族が地域で生活できるよう、社会資源の活用方法について説明できる。</p> <p>在宅看護で必要となる日常生活援助技術の特徴と方法を理解する。</p> <p>終末期を迎える人と家族への看護について理解する。</p> <p>療養施設や在宅において提供される看護、保健・医療・福祉システムにおける多職種連携や協働の必要性を理解する。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			○
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		科目ガイダンス 慢性の栄養・代謝機能障害をもつ人と家族への看護	増永・小澤
2		慢性の代謝障害をもつ人と家族への看護 演習ガイダンス	小澤
3		【演習】慢性の代謝障害をもつ人と家族への看護演習	小澤、全員
4		【演習】慢性の代謝障害をもつ人と家族への看護演習 自己血糖測定、食事管理	小澤、全員
5		慢性の呼吸不全をもつ人と家族への看護：COPDを中心に	増永
6		慢性の呼吸不全をもつ人と家族への看護：COPDを中心に	増永
7		慢性の呼吸不全をもつ人と家族への看護：入院から外来、在宅までの事例紹介 - COPDを中心に	松井、増永
8		【演習】慢性の特性を有する健康課題をもつ人と家族への看護過程の展開 - COPDを中心に	松井、小澤、全員
9		【演習】慢性の特性を有する健康課題をもつ人と家族への看護過程の展開 - COPDを中心に	松井、小澤、全員

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
10		【演習】慢性の特性を有する健康課題をもつ人と家族への看護過程の展開 - COPDを中心に	松井、小澤、 全員
11		【演習】慢性の特性を有する健康課題をもつ人と家族への看護過程の展開 - COPDを中心に	松井、小澤、 全員
12		慢性の呼吸不全をもつ人と家族への看護技術演習(HOTを含む) 演習 ガイダンス	松井、増永、 全員
13		【演習】慢性の呼吸不全をもつ人と家族への看護技術演習(HOTを含む)	全員
14		慢性の脳・神経機能障害をもつ人と家族への看護：入院から外来、在宅までの事例紹介	増永
15		【演習】在宅を含めたフィジカルアセスメント	増永、全員
16		【演習】在宅を含めたフィジカルアセスメント	増永、全員
17		多職種連携を必要とした在宅看護事例の展開 事例の病状や生活の場の移行によって必要な看護について考える。 事前：テキストを読んで在宅看護論の学びを振り返っておく。 事後：配布資料を読み込む。	馬場
18		多職種連携を必要とした在宅看護事例の展開 演習ガイダンス 在宅看護で注目する情報の理解と事例の情報整理 事後：事例資料の読み込みを行い、記録用紙を利用して情報の整理を行う。	馬場
19		【演習】多職種連携を必要とした在宅看護事例の展開 地域での生活者としての対象を支える社会資源についてエコマップを作成し考える。 事後：(個人ワーク)事例対象者の在宅療養の理解のため、情報をエコマップに表す。	馬場
20		【演習】多職種連携を必要とした在宅看護事例の展開 地域包括ケアシステムにおける看護の役割を事例を通して理解する。 個人ワークで作成したエコマップをグループで検討し発表することで 気づきを共有する。 事後：17～20回までの学びから4年生前期の在宅実習をイメージし、 必要な記録について確認する。	馬場
21		在宅における終末期看護	増永
事前・事後学修		事前学修：各コマのキーワードについて図書・文献等で調べ整理しておく。(講義：各回120分、演習：各回30分)。 事後学修：授業内容をまとめ、重要なポイントを整理しておく(講義：各回120分、演習：各回30分)。	
評価方法		演習(課題提出)：100%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教科書		1. 鈴木志津江, 藤田佐和編：成人看護学「慢性期看護論」、ヌーヴェルヒロカワ(2学年次に購入済) 2. 臺有桂ほか編「ナースング・グラフィカ 地域・在宅看護論 地域療養を支えるケア」メディカ出版(2学年次に購入済) 3. 臺有桂ほか編「ナースング・グラフィカ 地域・在宅看護論 在宅療養を支える技術」メディカ出版(2学年次に購入済)	
参考書		適宜紹介する。	
履修上の注意点及び取扱い		1. 学修内容が多いので、事前・事後学修を必ず行うこと。 2. 講義・演習への積極的な参加を求める。遅刻および講義時間中の離席、私語は厳禁である。 3. 演習を欠席した場合の補講は、原則、実施しない予定である。 4. 欠席した場合は、当該講義・演習の担当教員へ連絡の上、次回授業までに資料を取りに来ること。	

科目名	療養生活支援看護学実習		
科目コード	34207	科目ナンバリング	B342073
授業形態	実習	開講時期	3～4年通年
必修・選択	必修		
単位数	4単位	時間数	180時間
先修条件	1. 「基礎看護学・実習」「療養生活支援看護学」の単位を修得していること。 2. 「総合看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	松井 優子・増永 悦子・小澤 直樹・馬場 美穂		
実務経験	看護師として病院勤務（松井・増永・小澤） 看護師として病院・地域包括支援センター勤務（馬場）		
オフィスアワー	帰校日（学内実習終了後から15時まで）		
科目概要	慢性の病いをもち、医療機関や地域の療養施設及び居宅で生活している患者とその家族を全人的・統合的に理解し、治療施設から居宅における日常生活に復帰するために、自らの力で生活を維持・拡大するセルフマネジメント・スキルの獲得やQOLの向上を支援する看護実践と倫理的な配慮などの看護実践能力の基礎を育む。その際、対象者及び家族の意思決定支援の重要性についても学ぶ。病院や療養施設及び居宅で生活する患者と家族への看護や家族支援の実際を理解し、切れ目のない看護を提供するために支援システムの活用上の課題や活用の在り方を考察する。訪問看護における看護マネジメントと訪問看護師によるケア提供や家族支援、多職種によるチーム連携・協働、社会資源の活用の実際を理解し、その課題と看護師の役割について学修する。また、慢性の病いから終末期を迎える人と家族への看護についても学修する。		
到達目標	慢性の健康課題をもつ看護の対象（家族を含む）に関連する看護の概念や主要な理論を活用できる。 慢性の健康課題をもつ看護の対象の発達課題の特徴、健康と生活上の課題を理解して、セルフマネジメント・スキルの獲得やQOLの向上を支援する看護、及び退院支援、継続看護を実施し評価できる。 訪問看護における看護マネジメントと訪問看護師によるケア提供や家族支援の場に参加し、在宅における看護提供を看護実践の基礎を身につける。 保健・医療・福祉システムにおける多職種との連携や協働、社会資源の活用の実際を理解し、その課題と看護師の役割を考察する。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			○
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画（回数）	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1日目		午前：健康状態の確認、外来看護実習の全体オリエンテーション 外来（実習部署）案内 午後：外来（実習部署）オリエンテーション、情報収集	全員
2日目		外来（退院支援センターを含む）看護実習：継続看護カンファレンス	全員
3日目		外来（退院支援センターを含む）看護実習：継続看護カンファレンス	全員
4日目		外来（退院支援センターを含む）看護実習：継続看護カンファレンス	全員
5日目		外来看護実習のまとめ、記録の整理（学内）	全員
6日目		午前：健康状態の確認、在宅看護実習の全体オリエンテーション 午後：在宅（訪問看護ステーション）オリエンテーション受け持ち患者選定、情報収集	全員
7日目		受け持ち患者の看護（訪問看護師に随行）記録 カンファレンス	全員
8日目		受け持ち患者の看護（訪問看護師に随行）記録 カンファレンス	全員
9日目		受け持ち患者の看護（訪問看護師に随行）記録 カンファレンス	全員
10日目		在宅看護実習のまとめ、記録の整理（学内）	全員
11日目		午前：健康状態の確認、病棟オリエンテーション 午後：受け持ち患者選定、情報収集	全員

授業計画 (回数)	該当する 到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
12日目		受け持ち患者の看護 情報の整理・分析 カンファレンス	全員
13日目		受け持ち患者の看護 情報の整理・分析 カンファレンス	全員
14日目		受け持ち患者の看護 情報の統合 看護計画の立案 記録の整理(学内)	全員
15日目		受け持ち患者の看護 中間カンファレンス: 情報の統合 看護計画の立案 記録の整理(学内)	全員
16日目		受け持ち患者の看護 看護計画に基づく実践 カンファレンス	全員
17日目		受け持ち患者の看護 看護計画に基づく実践 カンファレンス	全員
18日目		受け持ち患者の看護 看護計画に基づく実践の評価 カンファレンス	全員
19日目		受け持ち患者の看護 看護計画に基づく実践の評価 病棟最終カンファレンス: 実習のまとめ	全員
20日目		午前: 自己評価 個人面接 午後: 実習全体のまとめ、記録の整理(学内)	全員
事前・事後学修		事前学修: 講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修: 講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評価方法		実習目標の達成度(実習記録): 50% グループワーク(主体性、探求性、協調性、客観性、知的誠実性で評価): 20% 課題レポート: 30%	
課題に対する フィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教科書		授業科目で使用した教科書以外については、必要な場合に後日紹介する。	
参考書		無	
履修上の注意点 及び取扱い		1. 実習評価表を用いて自己評価を行い、評価面接で教員評価との調整を行う。 2. 実習記録、実習態度、グループへの参加度で総合的に評価する。 3. 上記に示した実習スケジュールは、実習施設、患者等の状況によって変更する 場合がある。	

科目名	急性期看護学		
科目コード	34208	科目ナンバリング	B342082
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	「急性期看護学・実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	東野 督子・岩井 美世子		
実務経験	看護師として病院勤務（東野・岩井）		
オフィスアワー	東野：講義終了後30分 内線43** (t.higashino.t@ikc.ac.jp) 岩井：講義終了後30分 内線4319 (m.iwai.t@ikc.ac.jp)		
科目概要	成人期の特徴を把握したうえで急性期状態について理解する。 手術侵襲による心身の反応と回復に向けた看護支援を看護理論（看護モデル）・概念を用いて急性期状況にある対象の理解を深める。 急性期状態の身体侵襲と心身の反応を理解し回復支援の看護について理解する。 急性期状況にある看護の対象とその家族が直面する課題（倫理を含む）について考える。		
到達目標	ライフサイクルにおける成人の特徴と急性期状態にある対象の状況を理解できる。 危機的状況に関連する看護理論（看護モデルも含む）・概念を理解できる。 急性期状態の身体侵襲による心身の反応を理解し、回復支援の看護に基礎的知識を説明できる。 治療による機能低下や自己イメージの変化とともに生きていく対象の支援（倫理を含む）を説明できる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		オリエンテーション ・ライフステージにおける成人期の特徴を理解する。 ・成人の身心の変化、取り巻く環境について理解する。 教科書 使用 【事前学習】働くことと生活 教科書 p45-63 【事後学修】本日の授業をまとめる。	東野
2		・成人の健康の動向について理解する。 教科書 使用 【事前学習】保健統計からみた健康の動向 教科書 p102-105 【事後学修】本日の授業をまとめる。	東野
3		・危機的状況に関連する看護理論（看護モデルも含む）・概念を理解できる（ストレス・コーピング・危機モデル）。 【事前学修】健康危機状況への適応 教科書 p197-208 【事後学修】本日の授業をまとめる。	東野
4		・健康行動への行動変容：成人に対する健康学習支援（看護モデルも含む）・概念を理解できる。（自己効力感、成人教育、エンパワーメント） 教科書 使用 【事前学修】成人に対する健康学習支援 教科書 p197-208 【事後学修】本日の授業をまとめる。	東野
5		・周手術看護の考え方。 ・手術侵襲に対する生体反応と回復過程。 【事前学修】手術の定義と合法性、手術療法の変遷 教科書 p4-p11 【事後学修】本日の授業をまとめる。	東野
6		・術前・術中の看護、麻酔の基礎知識と術中管理。 （術前のアセスメント、麻酔の種類・身体への影響、手術体位 他） 【事前学修】手術前患者の看護 教科書 p83-128 【事後学修】本日の授業をまとめる。	岩井
7		・手術室看護の実際。（手術室の環境、手術室看護師の役割） 【事前学修】前回の講義内容を参考に手術室看護についての質問をまとめる。 【事後学修】本日の授業をまとめる。	東野・岩井

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
8		・急性期状況の看護と倫理的課題について考える。 【事前学修】倫理的配慮 教科書 p24-p25 【事後学修】本日の授業をまとめる。	東野
9		・術後合併症と予防のための看護技術。(肺合併症を起こしやすいメカニズム、人工呼吸器関連呼吸器合併症を含む) 教科書 使用 【事前学修】肺合併症 教科書 p152-165 【事後学修】本日の授業をまとめる。	東野
10		・術後合併症と予防のための看護技術。(循環不全を起こしやすいメカニズム、深部静脈血栓症を含む) 教科書 使用 【事前学修】循環不全 教科書 p166-176、深部静脈血栓症p202-208 【事後学修】本日の授業をまとめる。	東野
11		・術後合併症と予防のための看護技術。(合併症を起こしやすいメカニズム、イレウス、術後感染、縫合不全) 教科書 使用 【事前学修】イレウス、術後感染、縫合不全 教科書 p177-201 【事後学修】本日の授業をまとめる。	東野
12		・術後合併症と予防のための看護技術。(合併症を起こしやすい手メカニズム、術後せん妄) 教科書 使用 【事前学修】せん妄 教科書 p220-228 【事後学修】本日の授業をまとめる。	東野
13		・治療による機能低下や自己イメージの変化とともに生きていく対象の支援。 【事前学修】周手術期にある人への看護援助 教科書 p42-46, p52-71 【事後学修】本日の授業をまとめる。	岩井
14		授業のまとめ。(1~13回) 【事前学修】1~13回の授業で示した教科書の範囲を熟読する。 【事後学修】本授業で示した重要ポイントについて、各授業資料をもとにまとめる。	東野・岩井
試験		定期試験	東野・岩井
事前・事後学修		事前学修：講義の前に内容を確認する。各回30分 事後学修：講義の最後に内容を指示する。各回30分	
評価方法		定期試験(100%)で評価する。	
課題に対するフィードバック		授業中に課題のポイントを解説しフィードバックする。	
教科書		黒江百合子他 成人看護学概論/成人保健 メディカルフレンド社 2021年 雄西智恵美他 周手術期看護論、ヌーヴェルヒロカワ 2023年 北島政樹他 臨床外科看護各論、医学書院 2023年	
参考書		適宜紹介する。	
履修上の注意点及び取扱い		1.事前学習内容を提示する。毎回取り組んだ上で授業に臨むこと。 2.欠席した場合、当該授業資料は学生が教員に連絡し受領する。次回までに自己学修をすること。 3.出席確認：授業開始時刻に出席登録認証システムで出席を取る。原則メールや電話での出席連絡は受け付けない。	

科目名	急性期看護学		
科目コード	34209	科目ナンバリング	B342093
授業形態	演習	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	30時間
先修条件	1. 「急性期看護学」の単位を修得していること。2. 「急性期看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	東野 督子・岩井 美世子・中山 八重		
実務経験	看護師として病院勤務（東野・岩井） 助産師として病院勤務（中山）		
オフィスアワー	東野：講義終了後30分 内線43** (t.higashino.t@ikc.ac.jp) 岩井：講義終了後30分 内線4319 (m.iwai.t@ikc.ac.jp) 中山：講義終了後30分 内線4218 (y.nakayama.t@ikc.ac.jp)		
科目概要	急性期・周術期の代表的な病態生理と回復過程の看護支援を学修する。 有用な看護理論を用いて回復過程を支援できる看護を見出し計画を立案する。		
到達目標	急性期・周術期または急性増悪期の患者の状態を心理面・身体面・社会面について理解する。 周術期における看護過程の展開と看護の課題を見出す。 急性期・周術期看護に必要な看護計画を立案する。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		オリエンテーション 外科侵襲と回復期の生体侵襲 胸部の手術を受ける患者の侵襲と回復支援：（肺切除） 【事前学修】授業前に確認する 教科書 p32-34 【事後学修】本日の講義をまとめる。	東野
2		腹部手術を受ける患者の侵襲と回復支援：上部消化管（胃がん） 【事前学修】授業前に確認する 教科書 p171-181 【事後学修】本日の講義をまとめる	東野
3		脳神経系・循環器系の治療を必要とする人への看護 【事前学修】授業前に確認する 脳神経系：教科書 p344-354, p393-408 循環器系：教科書 p74-81, p127-139, p145-153 【事後学修】本日の講義をまとめる	岩井
4		演習 看護過程 ・オリエンテーション(看護過程の記録用紙の配布) ・事例紹介・看護過程の展開の概要説明 【事前学修】胃がんの病態をまとめる 【事後学修】症例に関する解剖生理・治療法をまとめる	東野・岩井・中山
5		演習 看護過程の展開：情報整理のポイントを説明 【事前学修】アセスメントシートに症例の情報を整理する 【事後学修】アセスメントシート(1-4)を完成させる	東野・岩井・中山
6		運動器系の治療を必要とする人への看護 【事前学修】授業前に確認する 教科書 p327-335 【事後学修】本日の講義をまとめる	岩井
7		演習 看護過程の展開：アセスメントの解説 【事前・事後学修】アセスメントシート(5-11)情報を整理する 【事後学修】アセスメントシート(1-11)を洗練させる	東野・岩井
8		演習 看護過程の展開：アセスメントの解説および関連図の説明 【事前学修】アセスメントシートにもとづき関連図作成する 【事後学修】ディスカッションとともに関連図を洗練させる	東野・岩井
9		演習 看護過程の展開：看護上の問題リストの説明 【事前学修】優先順位を踏まえて看護問題の抽出と計画を作成する 【事後学修】ディスカッションとともに看護問題を洗練させる	東野・岩井
10		演習 看護過程の展開：看護計画(看護問題・目標・計画)の説明 【事前学修】優先順位を踏まえて看護問題の抽出と計画を作成する 【事後学修】授業での解説を参考に看護計画を洗練する	東野・岩井

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1 1		演習 看護過程の展開 : 看護計画(看護問題・目標・計画)の説明 【事前学修】優先順位を踏まえて看護問題の抽出と計画を作成する 【事後学修】授業での解説を参考に(アセスメント・関連図、問題リスト)を完成させる	東野・岩井
1 2		腹部手術を受ける患者の侵襲と回復支援: 下部消化管(大腸がん) 腹腔鏡下手術を受ける患者の侵襲と回復支援: (胆石症) 【事前学修】授業前に確認する 教科書 p347-351 【事後学修】本日の講義をまとめる	東野
1 3		性生殖系の手術を受ける患者の侵襲と回復支援: 子宮がん、泌尿器系 【事前学修】授業前に確認する 教科書 p377-382 【事後学修】本日の講義をまとめる	東野
1 4		演習課題の提出と授業のまとめ(1~13回) 【事前学修】看護過程の展開の提出物の整理と点検 【事後学修】1~6回の授業で取り上げて教科書の範囲をまとめる	東野
試験		定期試験	東野・岩井
事前・事後学修		事前学修: 講義の前に内容を確認する。各30分 事後学修: 講義の後に内容を支持する。各30分	
評価方法		定期試験60%、演習40%で総合的に評価する。	
課題に対するフィードバック		授業・演習中に課題のポイントを解説しフィードバックする。	
教科書		雄西智恵美他、周手術期看護論、ニューヴェルヒロカワ 2023年 北川雄光他、臨床外科看護各論、医学書院 2023年(病態治療学Bで使用教科書)	
参考書		適宜紹介する。	
履修上の注意点及び取扱い		1. 事前学習内容を提示する。毎回取り組んだ上で授業に臨むこと。 2. 欠席した場合、当該授業資料は、学生が教員に連絡し受領する。次回までに自己学修をすること。 3. 出席確認: 授業開始時刻に出席登録認証システムで出席を取る。原則メールや電話での出席連絡を受け付けない。	

科目名	急性期看護学実習		
科目コード	34210	科目ナンバリング	B342103
授業形態	実習	開講時期	3～4年通年
必修・選択	必修		
単位数	3単位	時間数	135時間
先修条件	1. 「基礎看護学・実習」「急性期看護学」の単位を修得していること。 2. 「総合看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	東野 督子・岩井 美世子・中山 八重		
実務経験	看護師として病院勤務（東野・岩井） 助産師として病院勤務（中山）		
オフィスアワー	実習時間後、学修室		
科目概要	急性期・周手術期看護を必要とする対象を総合的に理解し、根拠に基づいた看護計画の立案・実施・評価の一連の看護過程の展開を実施する。また看護過程の展開の中で、患者との援助的な人間関係の構築について体験する。 退院後の生活を見据えて、早期回復へのリハビリテーションおよび退院後の日常生活に必要な教育・看護支援について計画立案し実施する。		
到達目標	周術期または急性増悪の患者を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解する。 周術期または急性増悪の患者に対して看護計画を立案することができる。 疾患や手術・治療による生体反応や回復を促進するための条件および予測される問題のリスクを踏まえ、援助の優先順位を判断し実践・評価することができる。 周術期または急性増悪の患者に対して退院後の生活を見据えて、リハビリテーションなど回復の援助ができる。 看護専門職としての態度を習得できる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			○
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画（回数）	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1日目		オリエンテーション/手術室・ICU実習	全員
2日目		手術室・ICU実習	全員
3日目		手術室・ICU実習	全員
4日目		手術室・ICU実習	全員
5日目		手術室・ICU実習	全員
6日目		病棟実習オリエンテーション/受け持ち患者の選定と情報収集	全員
7日目		受け持ち患者の観察およびコミュニケーションを通じた情報収集	全員
8日目		受け持ち患者の回復に向けて、行動計画に基づいた看護実践	全員
9日目		受け持ち患者の回復に向けて、行動計画に基づいた看護実践	全員
10日目		受け持ち患者の回復に向けて、行動計画に基づいた看護実践	全員
11日目		受け持ち患者の回復に向けて、行動計画に基づいた看護実践	全員
12日目		受け持ち患者の回復に向けて、行動計画に基づいた看護実践	全員
13日目		受け持ち患者の回復に向けて、行動計画に基づいた看護実践および退院指導	全員
14日目		受け持ち患者の回復に向けて、行動計画に基づいた看護実践および退院指導	全員

授業計画 (回数)	該当する 到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
15日目		受け持ち患者の看護過程展開の振り返りとカンファレンスの実施	全員
事前・事後学修		事前学修：急性期・周手術期看護に関する学修。各回60分。 事後学修：看護過程の記録の整理と不明な点を調べる。各回60分。	
評価方法		臨床実習の評価は、臨床での実習行動および実習レポートで総合的に評価する。	
課題に対する フィードバック		看護過程のフィードバックは実習時間内に行う。	
教科書		雄西智恵美他、周手術期看護論、ヌーヴェルヒロカワ 北島正樹他、臨床外科看護各論、医学書院 黒江百合子他、成人看護学概論/成人保健、メディカルフレンド社	
参考書		急性期 と の授業で配布した資料。適宜紹介する。	
履修上の注意点 及び取扱い		1.実習スケジュールは入院患者の状況によって変更する場合がある。 2.実習レポートの提出について、公的な理由がない限り指定した日時、指定場所に提出すること。 3.その他、注意点は実習オリエンテーションにおいて説明する。	

科目名	高齢者の健康生活支援看護学		
科目コード	34211	科目ナンバリング	B342112
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	「高齢者の健康生活支援看護学 ・実習 ・実習 」の単位数先修条件となる。		
教員名	野村 千文・松山 旭・川井 伸恵		
実務経験	看護師として病院勤務(野村・松山・川井)		
オフィスアワー	野村：授業日・授業終了後～17：00 (c.nomura.t@ikc.ac.jp) 松山：授業日・授業終了後～17：00 川井：授業日・授業終了後～17：00 (n.kawai.t@ikc.ac.jp)		
科目概要	高齢期にある人を身体的、心理・精神的、社会的側面から捉え、高齢者が生涯を終える時まで発達する存在であることを理解し、高齢者看護の特徴について学修する。本科目では高齢者がいきいきと日常生活を送ることができる看護を目指し、看護の対象である高齢者の特徴、高齢者に発症しやすい健康課題に対する基本的な看護を理解したうえで、高齢者とその家族を支援するための保健医療福祉制度や支援システムの活用についても学修する。また、高齢者をめぐる倫理課題を理解し、看護職の担う役割についても考察する。		
到達目標	高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的特性について説明できる。 加齢に伴う変化が高齢者の生活に及ぼす影響について説明できる。 高齢者に発症しやすい健康課題について説明できる。 高齢者の生活を支える看護の基本について述べるができる。 保健医療福祉制度における看護職の役割について説明できる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			○
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		オリエンテーション 単元1 高齢期にある人々の生活 1. 社会的側面：役割機能、ライフスタイル、生活機能 事前学修：教科書指定頁の精読 (P22-37) 事後学修：学習記録作成	野村
2		2. 身体的側面：加齢による生理機能の変化 事前学修：教科書指定頁の精読 (P217-228) 事後学修：学習記録作成	野村
3		3. 心理的側面：老いの受容、QOL、生きがい支援 4. ヘルスプロモーション：フレイル、サルコペニア 事前学修：教科書指定頁の精読 (P38-51) 事後学修：学習記録作成	野村
4		単元2 高齢期に発症しやすい健康課題と看護 1. 認知症：病態、症状、診断、予防と治療 事前学修：教科書指定頁の精読 (P296-298, P256-296) 事後学修：学習記録作成	野村
5		単元2 高齢期に発症しやすい健康課題と看護 1. 認知症：支援体制、看護 事前学修：教科書指定頁の精読 (P256-296) 事後学修：学習記録作成	野村
6		2. 摂食、嚥下障害、低栄養 事前学修：教科書指定頁の精読 (P32-46) 事後学修：学習記録作成	松山
7		3. 排泄 (尿失禁、排便障害) 事前学修：教科書指定頁の精読 (P60-73) 事後学修：学習記録作成	松山
8		4. 活動と休息、睡眠障害 事前学修：教科書指定頁の精読 (P84-103) 事後学修：学習記録作成	松山

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
9		中間テスト 5. 清潔, 皮膚障害(老人性皮膚掻痒症, 褥瘡, スキン-ケア) 事前学修: 教科書指定頁の精読(P76-82, 218-226) 事後学修: 学習記録作成	松山
10		6. 転倒予防 事前学修: 教科書指定頁の精読(P298-301, P104-113) 事後学修: 学習記録作成	川井
11		単元3 人生の最期の迎え方 : ACP, エンド・オブ・ライフケア, 家族支援 事前学修: 教科書指定頁の精読(P140-146, P340-357) 事後学修: 学習記録作成	川井
12		単元4 高齢者看護における倫理的課題 : 高齢者の自己決定, 高齢者虐待 事前学修: 教科書指定頁の精読(P130-140) 事後学修: 学習記録作成	川井
13		単元5 高齢者を支える保健・医療・福祉制度 : 社会資源, 介護保険制度, 地域包括ケアシステム 事前学修: 教科書指定頁の精読(P95-129, 150-153) 事後学修: 学習記録作成	松山
14		単元5 高齢者を支える保健・医療・福祉制度 : 多様な生活の場における看護職の役割, 高齢者看護におけるチームアプローチ, 災害看護 事前学修: 教科書指定頁の精読(P164-195, P271-280) 事後学修: 学習記録作成	野村
試験		定期試験	全員
事前・事後学修		各回の事前・事後学修は4時間とする	
評価方法		定期試験80%、中間テスト20%	
課題に対するフィードバック		課題はコメントを付して返却する	
教科書		1. 堀内ふき他、編：「ナーシング・グラフィカ老年看護学 高齢者の健康と障害」(第8版)、メディカ出版、2025 2. 堀内ふき他、編：「ナーシング・グラフィカ老年看護学 高齢者看護の実践」(第7版)、メディカ出版、2025	
参考書		無	
履修上の注意点及び取扱い		1. 事前学習内容を提示する。毎回取り組んだ上で授業に臨む。 2. 欠席した場合、当日の授業資料は、次回授業前日までに、学生が教員に連絡し受領する。次回までに自己学修しておく。 3. 体調不良などにより授業中に一時的に退室が必要な場合は、挙手にて教員に申し出てから退室し、戻った際は教員に報告する。申し出なく退室した場合は、退室時間にかかわらず欠席とみなす。	

科目名	高齢者の健康生活支援看護学		
科目コード	34212	科目ナンバリング	B342123
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	1. 「高齢者の健康生活支援看護学」の単位を修得していること。2. 「高齢者の健康生活支援看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	野村 千文・松山 旭・川井 伸恵		
実務経験	看護師として病院勤務(野村・松山・川井)		
オフィスアワー	野村：授業日・授業終了後～17:00 (c.nomura.t@ikc.ac.jp) 松山：授業日・授業終了後～17:00 川井：授業日・授業終了後～17:00 (n.kawai.t@ikc.ac.jp)		
科目概要	本科目では、高齢者の加齢に伴う生活機能の変化及び特徴的な健康課題を理解した上で、生活の質の維持・向上を目指した看護支援の方法について学修する。高齢者及び家族の看護に関する概念や理論を活用し看護過程を展開する。さらに代表的な看護技術について学修する。		
到達目標	<p>高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的特性について説明できる。</p> <p>高齢者の健康課題と生活機能障害との関連について考察できる。</p> <p>高齢者の健康課題や生活機能障害に対する看護援助の方法について述べるができる。</p> <p>高齢者看護における代表的な看護技術について高齢者に実施する際の留意点を述べるができる。</p> <p>保健医療福祉制度における看護職の役割と今後の課題について考察できる。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		<p>ガイダンス</p> <p>単元1：高齢者の生活を支える看護</p> <p>1.事例検討：全体像、健康課題、共同問題</p> <p>事前学修：教科書指定頁の精読（P308-320）</p> <p>事後学修：学修課題</p>	野村 川井 松山
2		<p>単元1：高齢者の生活を支える看護</p> <p>2.演習：身体診察、スクリーニングアセスメント5種類</p> <p>事前学修：教科書指定頁の精読（P217-248）</p> <p>事後学修：学修課題</p>	川井 松山 野村
3		<p>単元1：高齢者の生活を支える看護</p> <p>3.演習：アクティビティ・ケア（回想法、創作活動、足浴）</p> <p>事前学修：教科書指定頁の精読（P256-282）</p> <p>事後学修：学修課題</p>	川井 松山 野村
4		<p>単元1：高齢者の生活を支える看護</p> <p>4.転倒予防対策（環境整備、生活場面）</p> <p>事前学修：教科書指定頁の精読（P298-300）</p> <p>事後学修：学修課題</p>	松山 川井 野村
5		<p>単元1：高齢者の生活を支える看護</p> <p>5.演習：転倒予防対策（環境整備、生活場面）</p> <p>事前学修：教科書指定頁の精読（P298-300）</p> <p>事後学修：学修課題</p>	松山 川井 野村
6		<p>単元2：高齢者看護学における看護過程展開</p> <p>1.情報収集・全体像（関連図）</p> <p>事前学修：教科書指定頁の精読（P410-416、P79-103、P140-189）</p> <p>事後学修：学修課題</p>	野村
7		<p>単元2：高齢者看護学における看護過程展開</p> <p>2.健康課題・共同問題の選定</p> <p>事前学修：教科書指定頁の精読（P410-416）</p> <p>事後学修：学修課題</p>	野村

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
8		単元2：高齢者看護学における看護過程展開 3.看護計画の立案1（健康課題） 事前学修：教科書指定頁の精読（ P410-416） 事後学修：学修課題	野村
9		単元2：高齢者看護学における看護過程展開 4.看護計画の立案2（看護計画） 事前学修：教科書指定頁の精読（ P410-416） 事後学修：学修課題	野村
10		単元2：高齢者看護学における看護過程展開 5.看護計画の立案3（看護計画の発表） 事前学修：教科書指定頁の精読（ P410-416） 事後学修：学修課題	野村
11		単元2：高齢者看護学における看護過程展開 6.看護計画の実施・経過記録 事前学修：教科書指定頁の精読（ P410-416） 事後学修：学修課題	野村
12		単元2：高齢者看護学における看護過程展開 7.目標の評価・看護要約 事前学修：教科書指定頁の精読（ P410-416） 事後学修：学修課題	野村
13		単元3：認知症高齢者への支援 症状理解とケア、家族支援 事前学修：教科書指定頁の精読（ P256-282） 事後学修：学修記録作成	松山
14		単元4：高齢者看護実習の基本 高齢者を支える制度、生活の場（施設）、多職種連携、看護職の役割 事前学修：教科書指定頁の精読（ P164-195） 事後学修：学修記録作成	松山
試験		定期試験	全員
事前・事後学修	各回の事前・事後学修は4時間とする		
評価方法	定期試験：50%、課題レポート：30%、看護過程展開：20%		
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する		
教科書	1．堀内ふき他、編：「ナースング・グラフィカ老年看護学 高齢者の健康と障害」（第8版）、メディカ出版、2025 2．堀内ふき他、編：「ナースング・グラフィカ老年看護学 高齢者看護の実践」（第7版）、メディカ出版、2025 3．渡邊トシ子他、編：「ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく 実践 看護アセスメント -同一事例による比較-（第3版）」、ヌーヴェルヒロカワ、2019		
参考書	1．奥宮 暁子他、編：「ウェルネスの視点にもとづく老年看護過程第3版 生活機能に焦点をあてたアセスメント（第3版）」、医歯薬出版、2024		
履修上の注意点及び取扱い	1．事前学修を行い臨む。 2．欠席した場合は、以下のように対処する。 1) 授業資料は、次回授業前日までに、学生が単元の主担当教員に連絡し受領する。次回までに自己学修しておく。 2) 看護技術の自己練習は、教員のオフィスアワーで対応する。希望者は事前に主担当教員に連絡する。 3．体調不良などにより授業中に一時的に退室が必要な場合は、挙手にて教員に申し出てから退室し、戻った際は教員に報告する。申し出なく退室した場合は、退室時間にかかわらず欠席とみなす。 4．課題レポートの内容は、事前に説明する。計画的に取り組む。		

科目名	高齢者の健康生活支援看護学実習		
科目コード	34213	科目ナンバリング	B342133
授業形態	実習	開講時期	3年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	90時間
先修条件	1. 「基礎看護学・実習」「高齢者の健康生活支援看護学」の単位を修得していること。2. 「高齢者の健康生活支援看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	野村 千文・松山 旭・川井 伸恵		
実務経験	看護師として病院勤務(野村・松山・川井)		
オフィスアワー	野村：授業日・授業終了後～17:00 (c.nomura.t@ikc.ac.jp) 松山：授業日・授業終了後～17:00 川井：授業日・授業終了後～17:00 (n.kawai.t@ikc.ac.jp)		
科目概要	高齢者施設に入所している高齢者に対して、権利と尊厳を守り、健康維持・増進、日常生活行動の回復、生活の質の向上を目指した看護実践における基礎的能力を身につける。また、高齢者の家族への支援について、地域や高齢者の周囲にある社会資源の活用、保健・医療・福祉システムにおける多職種連携と看護職の役割について理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 対象者の身体的・心理的・社会的側面を理解し、アセスメントできる <ol style="list-style-type: none"> 高齢者の加齢に伴う身体的側面に関する特徴を説明できる。 高齢者の加齢に伴う心理的側面に関する特徴を説明できる。 高齢者の加齢に伴う社会的・文化的側面に関する特徴を説明できる。 対象者の加齢に伴う身体的特性を観察・測定し、健康課題と生活行動上の課題をアセスメントできる。 対象者の全体像を踏まえた看護計画を立案し、個別性のある援助を安全に実施できる <ol style="list-style-type: none"> 対象者と家族の情報を統合して全体像（関連図）を記述できる。 全体像を基に、健康課題、看護目標が立案できる。 看護目標を基に、個別性のある看護計画を作成できる。 対象者の健康課題や生活機能の低下が家族の機能や役割に与える影響について説明できる。 対象者の生活を整える援助の留意点について分析できる。 対象者の生活を整える援助を適切な時間内に安全に実施できる。 認知症高齢者への関わりが理解でき、生活援助が実施できる。 実施した援助を振り返り、評価することができる <ol style="list-style-type: none"> 実施した援助を対象者の反応や結果を踏まえ、報告・記録できる。 看護実践を踏まえ、看護計画を評価できる。 実施した看護の要約を記述できる。 看護専門職として、対象者を尊重し、倫理的な配慮ができる <ol style="list-style-type: none"> 看護倫理を踏まえ、対象者や家族に対して、尊重した態度で対応できる。 看護において人々の基本的人権を擁護するための手段・方法が実施できる。 保健・医療・福祉システムにおける多職種間の連携の現状と課題を理解し、看護職の役割について考察できる。 実習に主体的に臨み、看護観を深めることができる <ol style="list-style-type: none"> チームの一員としてケアに参画できる。 主体的に、実習に臨むことができる。 自己の看護を振り返り看護観について考えることができる。 		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1日目		オリエンテーション 看護過程の展開：情報収集、身体診察 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
2日目		看護過程の展開：情報収集、アセスメント、身体診察、ケア場面の見学 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
3日目		看護過程の展開：全体像記述、健康課題抽出、カンファレンス 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
4日目		看護過程の展開：全体像記述、健康課題抽出、看護計画立案 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
5日目		看護過程の展開：看護計画の発表、看護実践、カンファレンス 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
6日目		看護過程の展開：看護計画修正、シミュレーション演習（対象者への看護技術） 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
7日目		看護過程の展開：看護実践、看護計画修正、経過記録、カンファレンス 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
8日目		看護過程の展開：看護計画修正、経過記録、看護実践、カンファレンス 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
9日目		看護過程の展開：看護実践、評価、要約作成、カンファレンス 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
10日目		評価面接、実習記録整理、学びの整理、記録提出 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
事前・事後学修		事前学修：事前学修課題を提示する。 事後学修：実習記録に学びを記載する。 全体の事前・事後学修は60時間とする。	
評価方法		1. 実習評価表の項目に基づき実施する。	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教科書		1. 堀内ふき他、編：「ナースング・グラフィカ老年看護学 高齢者の健康と障害」（第8版）、メディカ出版、2025 2. 堀内ふき他、編：「ナースング・グラフィカ老年看護学 高齢者看護の実践」（第7版）、メディカ出版、2025	
参考書		1. 渡邊トシ子他、編：「ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく 実践 看護アセスメント -同一事例による比較-（第3版）」、ヌーヴェルヒロカワ、2019 2. 奥宮 暁子他、編：「ウェルネスの視点にもとづく老年看護過程第3版 生活機能に焦点をあてたアセスメント（第3版）」、医歯薬出版、2024	
履修上の注意点及び取扱い		1. 上記に示した実習スケジュールは、対象者の状況によって変更する場合がある。	

科目名	高齢者の健康生活支援看護学実習		
科目コード	34214	科目ナンバリング	B342144
授業形態	実習	開講時期	4年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	90時間
先修条件	1. 「高齢者の健康生活支援看護学」の実習」の単位を修得していること。 2. 「総合看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	野村 千文・松山 旭・川井 伸恵		
実務経験	看護師として病院勤務(野村・松山・川井)		
オフィスアワー	野村：授業日・授業終了後～17:00 (c.nomura.t@ikc.ac.jp) 松山：授業日・授業終了後～17:00 川井：授業日・授業終了後～17:00 (n.kawai.t@ikc.ac.jp)		
科目概要	高齢者とその支援者を支える看護のあり方を理解したうえで、治療の目的で医療機関に入院中の高齢者を受け持ち、健康への回復、合併症の予防、日常生活行動の回復と拡大、身体機能の改善と回復、自宅への復帰に向けた看護実践の基礎的能力を身につける。また、医療施設から地域の高齢者施設や自宅に移行する高齢者とその家族を支える継続看護をとおして、医療チームにおける多職種との連携と協働、看護マネジメントの実際と重要性、看護師の役割について学修する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 対象者の身体的・心理的・社会的側面と健康課題や治療が及ぼす影響を理解し、アセスメントできる <ol style="list-style-type: none"> 対象者の加齢に伴う身体的特性を観察・測定し、健康課題と生活行動上の課題をアセスメントできる。 対象者の健康課題や治療が身体的側面に及ぼす影響をアセスメントできる。 対象者の健康課題や治療が心理的側面に及ぼす影響をアセスメントできる。 対象者の健康課題や治療が生活機能に及ぼす影響をアセスメントできる。 対象者に生じやすい二次的な合併症をアセスメントできる。 対象者の健康課題や生活機能低下が家族の機能や役割に与える影響を理解できる。 対象者の全体像を踏まえた看護計画を立案し、個別性のある援助を安全に実施できる <ol style="list-style-type: none"> 対象者と家族の情報を統合し全体像(関連図)を記述できる。 全体像を基に、健康課題、看護目標が立案できる。 看護目標を基に、個別性のある看護計画を作成できる。 対象者への看護援助の留意点について分析できる。 対象者への看護援助を適切な時間内に安全に実施できる。 実施した援助を振り返り、評価することができる <ol style="list-style-type: none"> 実施した援助を対象者の反応や結果を踏まえ、報告・記録できる。 看護実践を踏まえ、看護計画を評価できる。 実施した看護の要約を記述できる。 看護専門職として、対象者を尊重し、倫理的な配慮ができる <ol style="list-style-type: none"> 看護倫理を踏まえ、対象者や家族に対して、尊重した態度で対応できる。 看護において人々の基本的人権を擁護するための手段・方法が実施できる。 保健・医療・福祉システムにおける多職種間の連携の現状と課題を理解し、看護職の役割について考察できる。 実習に主体的に臨み、看護観を深めることができる <ol style="list-style-type: none"> チームの一員としてケアに参画できる。 主体的に、実習に臨むことができる。 		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1日目		オリエンテーション 看護過程の展開：情報収集、学生による身体診察 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
2日目		看護過程の展開：情報収集、身体診察、アセスメント ケア場面の見学：環境整備、清潔、食事、排泄、移動、リハ見学 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
3日目		看護過程の展開：全体像、健康課題抽出 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
4日目		看護過程の展開：全体像、健康課題抽出、初期看護計画立案 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
5日目		看護過程の展開：看護計画の発表、看護実践、カンファレンス 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
6日目		看護過程の展開：看護計画修正、シミュレーション演習（対象者への看護技術） 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
7日目		看護過程の展開：看護実践、看護計画修正、経過記録、カンファレンス 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
8日目		看護過程の展開：看護実践、経過記録、カンファレンス 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
9日目		看護過程の展開：看護実践、評価、要約作成、カンファレンス 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
10日目		評価面接、実習記録整理、学びの整理、記録提出 事前・事後学修：実習オリエンテーションで指示する。	全員
事前・事後学修		事前学修：事前学修課題を提示する。 事後学修：実習記録に学びを記載する。 全体の事前・事後学修は60時間とする。	
評価方法		1. 実習評価表の項目に基づき実施する。	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教科書		1. 堀内ふき他、編：「ナースィング・グラフィカ老年看護学 高齢者の健康と障害」（第8版）、メディカ出版、2025 2. 堀内ふき他、編：「ナースィング・グラフィカ老年看護学 高齢者看護の実践」（第7版）、メディカ出版、2025	
参考書		1. 渡邊トシ子他、編：「ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく 実践 看護アセスメント ー同一事例による比較ー（第3版）」、ヌーヴェルヒロカワ、2019 2. 奥宮 暁子他、編：「ウェルネスの視点にもとづく老年看護過程第3版 生活機能に焦点をあてたアセスメント（第3版）」、医歯薬出版、2024	
履修上の注意点及び取扱い		1. 上記に示した実習スケジュールは、対象者の状況によって変更する場合がある。	

科目名	小児看護学		
科目コード	34215	科目ナンバリング	B342152
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	「小児看護学・実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	小平 由美子・河村 江里子		
実務経験	看護師として病院勤務(小平・河村)		
オフィスアワー	講義終了後、17時まで(事前に各教員にコンタクトをとることを希望する)。 小平:y.kohira.t@ikc.ac.jp 河村:e.kawamura.t@ikc.ac.jp		
科目概要	小児看護の基本である「権利主体としての子ども」と「成長・発達」、「子ども観の変遷と子どもの権利」、「子どもを取り巻く環境や社会の課題」、「子どもや家族の生活を守るための法と施策」について概観する。その上で、健康障害が子どもの成長・発達及び家族に及ぼす影響を理解し、子どもと家族に必要な看護を学修する。また、子どもに関連する保健・医療・福祉の制度や社会資源とその意義についても学ぶ。		
到達目標	<p>子どもの健康的な成長発達の特徴を説明できる。</p> <p>子どもに特徴的な健康問題と家族に及ぼす影響を説明できる。</p> <p>子どもの成長発達や健康増進を促す看護を説明できる。</p> <p>子どもの権利擁護に基づいた倫理的配慮を考慮することができる。</p> <p>子どもと家族を支援するための保健・医療・教育・福祉制度、母子保健施策及び社会資源、多職種連携について説明できる。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			○
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		【小児看護学】のオリエンテーションと小児看護学1について：小児看護の役割、小児看護の動向【小児看護学】の講義概要を知り、小児医療や小児看護の変遷について理解する。 <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	小平
2		成長発達の特徴(身体、認知、情緒、社会)と成長発達の評価：子どもの成長・発達の原則および影響因子と形態的・機能的発達/ <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	小平
3		小児各期における子どもと家族の特徴と生活 新生児・乳児期/新生児・乳児期における子どもと家族の特徴および生活について理解する。 <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	河村
4		小児各期における子どもと家族の特徴と生活 幼児期/幼児期における子どもと家族の特徴および生活について理解する。 <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	小平
5		小児各期における子どもと家族の特徴と生活 学童・思春期/学童期・思春期における子どもと家族の特徴および生活について理解する。 <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	小平
6		子どもと家族の権利擁護：児童憲章やEACH憲章等 <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	河村

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
7		子どもと家族の権利擁護 アドボケイトおよび倫理（インフォームド・コンセント/インフォームド・アセント） 慢性症状や障がいのある子どもと家族の看護について理解する。 <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	河村
8		小テスト（子どもの成長・発達）/小テストの解説講義：小テストは、各自作成したポートフォリオのみ持ち込み可（教科書・レジュメのコピーは不可）/小テストの出題内容について理解する。 <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	小平・河村
9		病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響および看護：活動制限・隔離が必要な子どもと家族への看護；活動制限や隔離による子どもと家族への影響およびその看護について理解する。 <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	小平
10		病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響および看護：外来における子どもと家族への看護；外来看護および小児感染症、予防接種および感染症対策における子どもと家族の看護について理解する。 <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	河村
11		急性期症状のある子どもと家族への看護；発熱、脱水、下痢・嘔吐、呼吸困難、けいれんの特徴および子どもと家族の看護について理解する。 <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	小平
12		特別な状況にある子どもと家族への看護；子どもの事故や外傷と家族への教育/ <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	小平
13		特別な状況にある子どもと家族の看護；災害を受けた子どもと家族の看護；災害による子どもと家族への影響および看護と支援について理解する。 <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	河村
14		特別な状況にある子どもと家族の看護；子どもの虐待と家族への看護と支援について理解する。 <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	小平
試験		定期試験 持ち込み不可	小平・河村
事前・事後学修		・各回の事前・事後学修は4時間とする ・事前・事後学修については各回に示す	
評価方法		定期試験70%、小テスト30% 定期試験の各配点については、教員の担当する授業回数に準ずる。	
課題に対するフィードバック		・レポート等は、必要に応じてコメントを付して返却する。 ・ポートフォリオおよび小テストは、授業内で補足説明をする。	
教科書		1. 奈良間美保他：「系統看護学講座 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論」（第15版） 医学書院 2025年 2. 奈良間美保他：「系統看護学講座 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論」（第15版） 医学書院 2025年 3. ナーシング・グラフィカ，小児看護学(2)：小児の発達と看護 第7版，メディカ出版，2023年	
参考書		1. 浅野みどり他：「発達段階からみた小児看護過程」（第5版） 医学書院 2026年 2. 浅野みどり他：「根拠と事故防止からみた小児看護技術」（第4版） 医学書院 2025年 3. ナーシング・グラフィカ，小児看護学(3)：小児看護技術 第6版，メディカ出版，2026年 (上記1～3は、3年次、指定教科書として購入予定) 他、適宜、授業中に提示する。	
履修上の注意点及び取扱い		1. 出席方法は授業時に提示する。 2. 出席確認は、スマートフォン・タブレット等を使用し、ポータルで実施する。使用困難な場合は、適宜申し出る。 3. 各授業のリフレクション（アンケート）をポータル上で実施し、双方向の授業展開をする。 4. 授業を欠席する場合は、事前に授業担当教員に連絡の上、直接配付資料等を受け取る。	

科目名	小児看護学		
科目コード	34216	科目ナンバリング	B342163
授業形態	講義・演習	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	45時間
先修条件	1. 「小児看護学」の単位を修得していること。2. 「小児看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	小平 由美子・河村 江里子		
実務経験	看護師として病院勤務(小平・河村)		
オフィスアワー	講義終了後、17時まで(事前に各教員にアポイントをとることを希望する)。 小平 : y.kohira.t@ikc.ac.jp 河村 : e.kawamura.t@ikc.ac.jp		
科目概要	あらゆる健康問題、そして、様々な困難な状況に置かれている子どもとその家族を理解し、適切な看護支援について学修する。また、そのような子どもと家族に対しては、事例を通して看護計画を立案し、その計画をもとに支援方法を考える。そして、目的と留意点を踏まえた小児看護技術を演習にて学修する。		
到達目標	健康課題をもち、様々な状況におかれた子どもと家族の特徴を理解することができる。 小児事例の看護過程の展開を通して、根拠に基づいた看護援助を理解することができる。 小児看護に必要な基本的技術について、子どもに実施する際の留意点を説明できる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			○
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		【小児看護学】授業科目のオリエンテーション：授業概要およびスケジュールを提示・確認し、講義および演習の学修方法について理解する。 <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ等を活用し、必要に応じて【小児看護学】で作成したポートフォリオを追加・修正する。	小平
2		小児看護学各論：先天異常・ハイリスク新生児と家族への看護 <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	河村
3		小児看護学各論：アレルギー・皮膚疾患のある子どもと家族への看護 <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	河村
4		小児看護学各論：慢性疾患(1型糖尿病および内分泌疾患)のある子どもと家族への看護 <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する	河村
5		小児の看護過程：小児の看護過程(ゴードンの機能的健康パターン)の特徴および事例紹介 <事前学修> 指定の教科書にて『ゴードンの機能的健康パターン』の枠組みについて熟読してくる。 <事後学修> 授業で配付した事例を活用し、発達段階等、アセスメントに必要な内容の不足分について、ポートフォリオを追加する。	小平
6		小児看護学各論：循環器疾患のある子どもと家族への看護 <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ、教科書等を活用し、第5回の看護過程の展開に必要な内容について、ポートフォリオを作成する。	小平

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
7		小児看護学各論 : 呼吸器・消化器疾患のある子どもと家族への看護 <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ、教科書等を活用し、第5回の看護過程の展開に必要な内容について、ポートフォリオを作成する。	小平
8		小児の看護過程 : 一次アセスメント (ゴードンの機能的健康パターン2, 3, 4) <事前学修> 授業で配付したレジュメをもとにゴードンの機能的看護パターン2, 3, 4をアセスメントしてくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメを活用し、パターン2, 3, 4の一次アセスメントの不足分について追加し、完成させてくる。	小平
9		小児の看護過程 : 一次アセスメント (ゴードンの機能的健康パターン5, 6, 7, 9) <事前学修> 授業で配付したレジュメをもとにゴードンの機能的看護パターン5, 6, 7, 9をアセスメントしてくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメを活用し、パターン5, 6, 7, 9の一次アセスメントの不足分について追加し、完成させてくる。	小平
10		小児の看護過程 : 一次アセスメント (ゴードンの機能的健康パターン1, 8, 10, 11) <事前学修> 授業で配付したレジュメをもとにゴードンの機能的看護パターン1, 8, 10, 11をアセスメントしてくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメを活用し、不足分についてアセスメントを追加し、パターン1, 8, 10, 11の一次アセスメントの不足分について追加し、完成させてくる。 課題提出(中間提出): 全てのゴードンの機能的健康パターン1~11を完成させ、期日までに提出する。提出期限については、授業中に提示する。	河村
11		小児の看護過程 : 看護問題の明確化/看護目標の設定・看護計画の立案(グループワーク) <事前学修> 一次アセスメントを完成し、看護問題を抽出してくる。 <事後学修> グループワークおよび講義を通して、看護目標(長期・短期)および看護計画を修正・完成してくる。	河村・小平
12		小児の看護技術 : 小児のフィジカルアセスメントとバイタルサイン測定 <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読し、事前課題を作成してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時事前課題を追加する。	小平
13		小児の看護技術 : 検査・処置を受ける子どもと家族の看護 <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読し、ポートフォリオを作成してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを追加する。	小平
14		小児の看護技術 : 小児看護におけるコミュニケーションとプレパレーション <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読し、事前課題を作成してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時事前課題を追加する。	河村
15		小児の看護過程 小児の看護技術 : 演習 看護計画の実施(看護過程の事例におけるフィジカルアセスメントとバイタルサイン測定を中心とした小児看護援助技術の実際) <事前学修> 立案した看護計画について小児のフィジカルアセスメント(主に小児のバイタルサイン測定)技術が実施できるよう準備をしてくる。 <事後学修> 小児看護技術の実施を通して、SOAPを展開する。	小平・河村
16		小児の看護過程 小児の看護技術 : 演習 看護計画の実施(看護過程の事例におけるコミュニケーションとプレパレーションを中心とした小児看護援助技術の実際) <事前学修> 立案した看護計画について小児のフィジカルアセスメント(主に小児のバイタルサイン測定)技術が実施できるよう準備をしてくる。 <事後学修> 小児看護技術の実施を通して、SOAPを展開する。	河村・小平
17		小児の看護過程 看護計画の実施(SOAP)および評価 <事前学修> 立案した看護計画の看護目標(長期・短期)に基づき評価(SOAP)を完成させてくる。 <事後学修> 評価(SOAP)の追加・修正をし、看護過程の課題提出にむけて、一連の看護過程の振り返りを実施する。	河村・小平
18		小児看護学各論 : 周術期にある子どもと家族への看護 <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	河村
19		小児看護学各論 : 悪性新生物のある子どもと家族への看護 <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	小平
20		小児看護学各論 : エンド・オブ・ライフにある子どもと家族の看護 <事前学修> 指定教科書の該当部分を熟読してくる。 <事後学修> 授業で配付したレジュメ等を活用し、必要時ポートフォリオを作成する。	河村・ゲストスピーカー

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
21		小児看護学 および小児の看護過程のまとめ <事前学修> 自身で展開した小児看護過程について、課題を抽出して くる。 <事後学修> 展開した小児看護過程について、課題を解決し、指定し た期日までに過不足なく看護過程を完成・提出する。	小平
試験		定期試験 持ち込み不可	小平・河村
事前・事後学修		・各回の事前・事後学修は4時間とする ・事前・事後学修については各回に示す	
評価方法		定期試験40%、看護過程および演習等レポート60%。 定期試験の配点については教員の担当する回数に準ずる	
課題に対する フィードバック		・看護過程・レポート等は必要に応じてコメント等を付して返却する。 ・定期試験終了後、平均点および正答率の低い問題について、ポータルにて解説を配信する。	
教科書		1. 渡邊トシ子：「ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく 実践看護アセスメント」 (第3版)ヌーヴェル・ヒロカワ 2011年 2. 奈良間美保他：「系統看護学講座 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護 総論」(第15版) 医学書院 2025年 3. 奈良間美保他：「系統看護学講座 小児看護学[2] 小児臨床看護各論」(第15版)) 医学書院 2025年 4. ナーシング・グラフィカ, 小児看護学(2): 小児の発達と看護 第7版, メディカ出版, 2023年 5. ナーシング・グラフィカ, 小児看護学(3): 小児看護技術 第6版, メディカ出版, 2026年 6. 浅野みどり他：「発達段階からみた小児看護過程」(第5版) 医学書院 2026年	
参考書		1. ナーシング・グラフィカ, 小児看護学(3): 小児看護技術 第6版, メディカ出版, 2026年 2. 浅野みどり他：「根拠と事故防止からみた小児看護技術」(第4版) 医学書院 2025年 授業の中で適宜、提示する。	
履修上の注意点 及び取扱い		1. 出席方法は授業時に提示する。 2. 出席確認は、スマートフォン・タブレット等を使用し、ポータルで実施する。 使用困難な場合は、適宜申し出る。 3. 各授業のリフレクション(アンケート)をポータル上で実施し、双方向の授業展開 をする。 4. 小児看護過程の展開および小児看護学技術演習については、ジグソー法によるグル ープワークを実施する。 5. 授業を欠席する場合は、事前に授業担当教員に連絡の上、直接配付資料等を受け取 る。	

科目名	小児看護学実習		
科目コード	34217	科目ナンバリング	B342173
授業形態	実習	開講時期	3～4年通年
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	90時間
先修条件	1. 「基礎看護学・実習」「小児看護学」の単位を修得していること。 2. 「総合看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	河村 江里子・小平 由美子		
実務経験	看護師として病院勤務(河村・小平)		
オフィスアワー	実習時間外は各教員にコンタクトを取ることを希望する。 河村：e.kawamura.t@ikc.ac.jp 小平：y.kohira.t@ikc.ac.jp		
科目概要	子どもを取り巻く環境および子どもの成長・発達を理解した上で、地域における子どもと家族のQOLを高める援助について各施設の役割を踏まえて考察する。また、健康障害および入院が子どもと家族に与える影響を理解し、子どもの成長・発達に応じた倫理的配慮のもと、一連の看護過程を展開し、看護実践能力を培う。さらに、多職種連携および社会資源（保健・医療・福祉等）を活用し子どもと家族の最善の利益を尊重した看護を実践する視点についても学修する。		
到達目標	<p>子どもの成長・発達を形態・機能的側面から捉え、身体・運動機能、心理・社会的発達について理解する。</p> <p>健康障害が、子どもの成長・発達および家族へどのように影響するか理解し、子どもと家族の発達過程に応じた看護が実施できる。</p> <p>子どもの病態や症状に応じて、子どもと家族に対し、適切なアセスメントおよび看護問題の明確化、看護計画の立案、看護ケアの実施および評価について、一連の看護過程を展開することができる。</p> <p>子どもと家族にとって望ましい生活環境（遊び、教育等）について理解し、子どもと家族に対する安全・安楽・自立に基づいた看護援助が実施できる。</p> <p>様々な社会資源（保健・医療・福祉等）の活用の実際について、各施設における多職種（多機関）連携および家族への支援等、小児看護の役割について理解する。</p> <p>小児看護に携わる者として、子どもと家族を尊重した基本的姿勢や倫理的配慮について理解し、責任ある行動が実施できる。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			○
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画（回数）	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1日目		<p><1週目（1～5日目）：外来実習/2週目（6～10日目）：病棟実習の場合> グループにより、実習週が入れ替る。</p> <p>学内実習（午前）：実習オリエンテーション、技術シミュレーション 学内実習（午後）：学内実習（午前）の振り返り</p> <p>【事前学修】小児看護学実習にむけて（記録様式1）、1日の行動計画（記録様式2）の作成、実習前に指示された事前学習（実習要項 事前準備 1.事前学修課題） 【事後学修】1日の行動計画（記録様式2）の振り返りと事前学習（実習要項 事前準備 1.事前学修課題）の追加・修正</p>	全員
2日目		<p>施設実習（午前）：小児科クリニック 学内実習（午後）：施設実習（午前）の振り返り</p> <p>【事前学修】1日の行動計画（記録様式2）の作成、実習前に指示された事前学習（実習要項 事前準備 1.事前学修課題）の追加修正 【事後学修】1日の行動計画（記録様式2）の振り返り、実習記録（記録様式10）の追加・修正</p>	全員
3日目		<p>学内実習（午前）：動画学修 学内実習（午後）：動画学修（午前）振り返り</p> <p>【事前学修】1日の行動計画（記録様式2）の作成 【事後学修】1日の行動計画（記録様式2）の振り返り、実習記録（記録様式12）の追加・修正</p>	全員

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
4日目		施設実習：総合病院の小児科外来を午前/午後に分かれて実習 【事前学修】1日の行動計画（記録様式2）の作成 【事後学修】1日の行動計画（記録様式2）の振り返りと実習記録（記録様式11）の追加・修正	全員
5日目		学内実習（午前）：外来実習の学びのまとめおよび記録の整理 学内実習（午後）：外来実習の学びの発表（カンファレンス）、実習記録の整理および提出 【事前学修】1日の行動計画（記録様式2） 【事後学修】実習内容の記録等の整理	全員
6日目		学内実習（午前）：学内実習（午前）：実習オリエンテーション、技術シミュレーション 病棟実習（午後）：病棟オリエンテーション、受け持ち患児および家族へのICの実施、バイタルサイン測定・その他のケアの見学、患児と家族へのコミュニケーション、カルテからの情報収集 【事前学修】1日の行動計画（記録様式2）の作成、実習前に指示された事前学習（実習要項、事前準備、1.事前学修課題）、バイタルサイン等の看護援助記録（記録様式3）の追加・修正 【事後学修】1日の行動計画（記録様式2）の振り返りと事前学習（実習要項、事前準備、1.事前学修課題）およびフィジカルアセスメントの看護援助記録（記録様式3）の追加・修正 <看護過程記録>記録様式4、5、8の作成	全員
7日目		病棟実習：1日の目標および行動計画（記録様式2）および追加・修正したフィジカルアセスメント看護援助記録（記録様式3）に基づいたバイタルサイン測定の実施（または見学後、一部実施）、その他のケアの見学および患児と家族とのコミュニケーション、カルテより情報収集、デイリーカンファレンスの実施 【事前学修】1日の行動計画および振り返り（記録様式2）の作成、実習前に指示された事前学習（実習要項、事前準備、1.事前学修課題）、バイタルサイン等の看護援助記録（記録様式3）の追加・修正 <看護過程記録>不足している記録様式4、5、8の作成 【事後学修】1日の行動計画（記録様式2）の振り返りと事前学習（実習要項、事前準備、1.事前学修課題）およびフィジカルアセスメントの看護援助記録（記録様式3）の追加・修正 <看護過程記録>記録様式4、5、8の追加・修正	全員
8日目		病棟実習（午前）1日の目標および行動計画（記録様式2）および完成したフィジカルアセスメント看護援助記録（記録様式3）に基づいた看護ケアの実施、その他のケアの見学および患児と家族へのプレパレーション（ディストラクション）の実施およびコミュニケーション、カルテより情報収集、デイリーカンファレンスの実施 （午後）：学生控室にて、看護問題（記録様式6）・看護計画の立案（記録様式7） 【事前学修】1日の行動計画（記録様式2） <看護過程記録>不足している記録様式記録様式4、5、8の完成 【事後学修】1日の行動計画（記録様式2）の振り返り <看護過程記録>記録様式6、7の追加・修正	全員
9日目		病棟実習：1日の目標および行動計画（記録様式2）および立案した看護計画に基づいた看護ケアの実施、その他のケアの見学および患児と家族へのプレパレーション（ディストラクション）およびコミュニケーション、カルテより情報収集、デイリーカンファレンスの実施 【事前学修】1日の行動計画（記録様式2）の作成 <看護過程記録>不足している記録の作成 【事後学修】1日の行動計画（記録様式2）の振り返り <看護過程記録>不足している記録の追加・修正、病棟実習のまとめ（記録様式10）の作成をして最終カンファレンスの準備	全員
10日目		病棟実習（午前）：1日の目標および行動計画（記録様式2）および看護計画に基づいた看護ケアの実施、その他のケアの見学および患児と家族へのプレパレーション（ディストラクション）およびコミュニケーション、病棟実習における最終カンファレンスの実施 学内実習（午後）：実習記録の整理および提出 【事前学修】1日の行動計画（記録様式2）の作成 <看護過程記録>不足している記録様式の作成 【事後学修】実習内容の記録等の整理	全員
事前・事後学修		【事前学修】実習の進度に合わせその都度指示する：各120分 【事後学修】実習の進度に合わせその都度指示する：各120分	
評価方法		実習評価表に示された各評価項目の評価基準に則り、全項目について評価を行う。	
課題に対するフィードバック		日々の実習における指導、カンファレンス、記録等へのコメントでフィードバックを行う。	

教 科 書	<p>1. 奈良間美保他：系統看護学講座 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論（第14版）、医学書院、2022年</p> <p>2. 奈良間美保他：系統看護学講座 小児看護学2 小児看護学各論（第14版）、医学書院、2022年</p> <p>3. 浅野みどり編：根拠と事故防止からみた小児看護技術（第3版）、医学書院、2020年</p> <p>4. 渡邊トシ子：「ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく 実践看護アセスメント」（第3版）ヌーヴェル・ヒロカワ 2011年</p>
参 考 書	<p>1. 浅野みどり 杉浦太一 山田知子編集：発達段階から見た小児看護過程（第4版）、医学書院、2021年</p> <p>2. ナーシング・グラフィカ，小児看護学(2)：小児看護技術 第5版，メディカ出版，2023年</p> <p>その他、講義資料等を積極的に活用する。</p>
履修上の注意点及び取扱い	<p>1. 実習ガイダンスには必ず出席する。実習方法、実習内容、実習施設を確認し、実習要項、実習資料を熟読して実習に臨む。</p> <p>2. 学生としての基本的態度を厳守し、主体的に実習する。</p> <p>3. 【病態治療学E（小児）】【小児看護学】【小児看護学（特に看護過程）】の講義内容を復習し、活用する。</p> <p>4. 実習評価表を用いて自己評価を行う。</p> <p>5. 実習スケジュールは、対象の状況等によって変更する場合がある。</p>

科目名	母性看護学		
科目コード	34218	科目ナンバリング	B342182
授業形態	講義	開講時期	2年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	「母性看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	小島 徳子・大瀬 恵子・野々山 英里・平野 友美		
実務経験	助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野)		
オフィスアワー	講義前後の休み時間(教室)		
科目概要	時代の変遷とともに、生涯を通じて性と生殖に関する健康をまもるという観点から、母性看護の対象や母性看護の役割が拡大している。そこで、母性看護の対象を身体的・心理的・社会的・文化的側面から広範囲にとらえアセスメントする能力を学修する。また、子どもをより健康な状態で産み育てる女性とその家族への看護実践能力を養うため、妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象者への知識を深め、各期の特徴や健康課題に対する看護援助方法を学修する。		
到達目標	<p>妊娠期の母体の変化、心理・社会的特性、マイナートラブルを理解する。 分娩機序と分娩経過、産婦の身体的、心理・社会的変化やハイリスク分娩を理解する。</p> <p>産褥期の身体的、心理・社会的変化と母乳栄養、乳汁分泌のメカニズムを理解する。 胎児の成長発達、母体外生活適応過程や新生児の生理的特徴を理解する。 妊娠産褥・新生児が順調な経過をたどるための看護を理解する。 正常から逸脱した各期の対象者への看護を理解する。 母子関係確立および家族役割構築のための看護を理解する。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		科目ガイダンス、母性看護の基盤となる概念・母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 事前・事後学修「母性看護学概論」pp.2-96	小島
2		妊娠期の看護：妊娠期の身体的特性 事前・事後学修「母性看護学各論」pp.65-84	小島
3		妊娠期の看護：妊娠期の心理・社会的特性、妊婦と家族の看護 事前・事後学修「母性看護学各論」pp.84-94、133-180	小島
4		妊娠期の看護：妊婦と胎児のアセスメント 事前・事後学修「母性看護学各論」pp.94-133	小島
5		妊娠期の看護：妊娠の異常と看護 事前・事後学修「母性看護学各論」pp.380-421	小島
6		分娩期の看護：分娩の要素、分娩の経過 事前・事後学修「母性看護学各論」pp.183-209	大瀬
7		分娩期の看護：産婦・胎児、家族のアセスメント、産婦と家族の看護、分娩期の看護の実際 事前・事後学修「母性看護学各論」pp.209-261	大瀬
8		分娩期の看護：分娩の異常と看護 事前・事後学修「母性看護学各論」pp.422-483	大瀬
9		産褥期の看護：産褥経過、産褥のアセスメント 事前・事後学修「母性看護学各論」pp.325-346	野々山
10		産褥期の看護：産褥と家族の看護、施設退院後の看護 事前・事後学修「母性看護学各論」pp.346-378	野々山
11		産褥期の看護：産褥の異常と看護 事前・事後学修「母性看護学各論」pp.507-532	野々山
12		新生児期の看護：新生児の生理 事前・事後学修「母性看護学各論」pp.265-283	平野
13		新生児期の看護：新生児のアセスメント、新生児の看護 事前・事後学修「母性看護学各論」pp.284-322	平野

授業計画 (回数)	該当する 到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
14		新生児期の看護 : 新生児の異常と看護 事前・事後学修「母性看護学各論」pp.483-506	平野
試験	-	定期試験	全員
事前・事後学修		事前学修:教科書該当ページを精読する。各120分 事後学修:事前学修で作成したノートに授業内容を追記し、学修内容を整理する。各120分	
評価方法		中間試験<5月7日(木)3限>:30%、定期試験:70% 最終評価は、総合的に評価する。	
課題に対する フィードバック		課題レポート等は、コメント等を付して返却する。	
教科書		1. 森恵美編「系統看護学講座専門分野 母性看護学概論」(第15版)、医学書院2026 2. 森恵美編「系統看護学講座専門分野 母性看護学各論」(第15版)、医学書院2026 3. 石村由利子編「根拠と事故防止からみた母性看護技術」(第4版)、医学書院、2026	
参考書		1. 有森直子編「母性看護学 : 概論」(第3版)、医歯薬出版、2025 2. 有森直子編「母性看護学 : 周産期各論」(第3版)、医歯薬出版、2025 3. 医療情報科学研究所編「病気がみえるVol.10 産科」(第4版)、メディックメディア、2019 4. 仁志田博司「新生児学入門」(第6版)、医学書院、2024 5. 佐世正勝「ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図」(第4版)、医学書院、2022	
履修上の注意 点及び取扱い		1. 事前(教科書該当ページを精読する。各120分)事後(事前学修で作成したノートに授業内容を追記し、学修内容を整理する。各120分)の学修を怠らないこと。 2. 講義中の飲食、メールのやり取り、写メ、私語は禁止する。 3. 積極的に授業に参加すること。 4. 授業の振り返りシート(ミニツツペーパー)は、提出期限を厳守すること。必須振り返りシートが提出されない場合、当該授業日は欠席の扱いになる。 5. 中間試験は別日を設けて行う。 6. 最終評価の再試験の範囲は、中間試験の範囲を含める。これは、不合格となった試験の範囲に限定する意味がないこと、最終評価で不合格になったということは、それまでの学習内容全体に理解不足があると見なされるためである。	

科目名	母性看護学		
科目コード	34219	科目ナンバリング	B342192
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	1. 「母性看護学」を履修していること。2. 「母性看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	小島 徳子・大瀬 恵子・野々山 英里・平野 友美		
実務経験	助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野)		
オフィスアワー	講義前後の休み時間(教室)		
科目概要	女性の生涯において、特に周産期にある女性とその家族を対象に、発達課題や健康上の諸問題に焦点を当て、より良い健康生活を送れるようになるため、ウェルネスの視点からの看護を展開し、援助方法を学修する。また、母性看護における特有な援助技術を学ぶため、妊娠・分娩・産褥・新生児期において必要な看護技術演習を行い、実践的なケアや母子保健活動の方法を修得する。これより、次世代の健全育成を目指した実践科学としての母性看護活動を理解する。		
到達目標	妊娠・分娩・産褥・新生児期の生理的な変化及び特徴についての理解をもとに、対象のヘルスアセスメントができる。 紙上事例をとおして情報を分析し、ウェルネス診断に基づいて計画立案までの母性看護の看護過程の展開ができる。 技術演習により、母性看護に特有な看護技術を修得できる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		科目ガイダンス、母性看護技術演習オリエンテーション、事前学修等	全員
2		妊産褥婦・新生児のケア 事前配付資料、「根拠と事故防止からみた母性看護技術」	全員
3		妊産褥婦・新生児のケア 事前配付資料、「根拠と事故防止からみた母性看護技術」	全員
4		妊産褥婦・新生児のケア 事前配付資料、「根拠と事故防止からみた母性看護技術」	全員
5		妊産褥婦・新生児のケア 事前配付資料、「根拠と事故防止からみた母性看護技術」	全員
6		母性看護の対象理解 事前・事後学修「母性看護学概論」pp.98-152 子どもを産み育てることとその看護を学ぶ、メンタルヘルスの問題をかかえる母親の支援 事前・事後学修「母性看護学各論」pp.2-10、533-542	小島
7		女性のライフステージ各期における看護 事前・事後学修「母性看護学概論」pp.188-250	小島
8		看護過程演習：母性看護に必要な看護技術 事前・事後学修「母性看護学概論」pp.154-157 参考書「ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程」	小島
9		看護過程演習：事例による看護過程の展開(事例の説明、ワーク) 事前・事後学修 事前配付資料、参考書「ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程」	小島
10		看護過程演習：事例による看護過程の展開(ワーク) 事前・事後学修 事前配付資料、参考書「ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程」	全員
11		看護過程演習：事例による看護過程の展開(ワーク) 事前・事後学修 事前配付資料、参考書「ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程」	全員
12		看護過程演習：事例による看護過程の展開(ワーク) 事前・事後学修 事前配付資料、参考書「ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程」	全員

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
13		リプロダクティブヘルスケア 事前・事後学修「母性看護学概論」pp.252-323	小島
14		出生前からのリプロダクティブヘルスケア 事前・事後学修「母性看護学各論」pp.12-61	小島
試験		定期試験	全員
事前・事後学修		事前学修：教科書該当ページを精読する。各120分 事後学修：事前学修で作成したノートに授業内容を追記し、学修内容を整理する。各120分	
評価方法		定期試験：50% 技術演習課題（演習内容・事前事後レポート）：各10%（計40%） 看護過程演習課題（アセスメントシート・関連図・看護計画）：10% 最終評価は、参加度を含め総合的に評価する。	
課題に対するフィードバック		課題レポート等は、コメント等を付して返却する。	
教科書		1. 森恵美編「系統看護学講座専門分野 母性看護学概論」（第15版）、医学書院2026 2. 森恵美編「系統看護学講座専門分野 母性看護学各論」（第15版）、医学書院2026 3. 石村由利子編「根拠と事故防止からみた母性看護技術」（第4版）、医学書院2026	
参考書		1. 太田操編「ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程」（第4版）、医歯薬出版、2024 2. 佐世正勝「ウェルネスからみた母性看護過程+病態関連図」（第4版）、医学書院、2022 3. 医療情報科学研究所編「病気がみえるVol.10 産科」（第4版）、メディックメディア、2019 4. 仁志田博司「新生児学入門」（第6版）、医学書院、2024 5. 平澤美恵子「新訂第2版 写真でわかる母性看護技術アドバンス」、インターメディアカ、2026 6. 横尾京子「新生児ベーシックケア」、医学書院、2011	
履修上の注意点及び取扱い		1. 事前（教科書該当ページを精読する。各120分）事後（事前学修で作成したノートに授業内容を追記し、学修内容を整理する。各120分）の学修を怠らない。 2. 講義や看護過程演習中の飲食、メールのやり取り、写メ、私語は禁止する。 3. 積極的に授業やグループワークに参加する。 4. 授業の振り返りシート（ミニツツペーパー）は、提出期限を厳守する。必須振り返りシートが提出されない場合、当該授業日は欠席の扱いになる。 5. 技術演習について 1) 必ずオリエンテーションを受けて臨む。 2) 身だしなみを整える（基礎看護学演習に準ずる）。 3) 演習中、出席確認以外のスマートフォンの使用は禁止する。 4) すべての演習に出席する。 5) 欠席した場合、正当な理由がある場合は補習を行う。 6. 必須課題レポートは、提出期限を厳守する。 7. すべての必須課題レポートが提出されない場合、再試験の対象者とならない。なお、次年度以降に再履修となる。これは、学習目標を達成するために必要なすべての要素を完了していないと見なされるためである。	

科目名	母性看護学実習		
科目コード	34220	科目ナンバリング	B342203
授業形態	実習	開講時期	3～4年通年
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	90時間
先修条件	1. 「基礎看護学・実習」「母性看護学」の単位を修得していること。 2. 「総合看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	小島 徳子・大瀬 恵子・野々山 英里・平野 友美		
実務経験	助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野)		
オフィスアワー	実習時間内		
科目概要	周産期における母子とその家族の身体的・心理的・社会的特性を理解し、それぞれの発達過程に応じた個別的な看護を実践するための基礎的能力を養う。また、母子保健医療チームの一員である看護者の役割と責任について考える。各種保健指導や妊婦健康診査見学などを行い、周産期の対象に実施される健康教育について学修し、母子とその家族への継続した支援を考える。		
到達目標	対象(妊婦・産婦・褥婦・胎児・新生児)の特徴を理解する。さらに、対象の生活や発達課題を理解し、家族を含めたケアや支援を実践する。 外来の特性を理解し、地域の中で、母性看護が妊産褥婦および新生児とその家族に果たす役割について考えることができる。 母子保健に関連する法規や制度を理解し、母子および家族支援のための社会資源の活用について考えることができる。 対象や家族との関わりの中で、自己の母性・父性意識を発展させることができる。 カンファレンスを通して、母性看護について考察し、自分の考えを深め、看護職者として守るべき看護倫理を理解し、必要な資質を養うことができる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			○
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1日目		学内実習：実習オリエンテーション、母性看護に必要な技術練習 病棟実習：病棟案内、避難経路、病棟内の物品の場所、受け持ち対象選定、受け持ち対象への挨拶、受け持ち対象の看護ケア、看護過程(情報収集・アセスメント)	全員
2日目		病棟実習：受け持ち対象の看護ケア、看護過程(アセスメント・関連図・看護診断)、カンファレンス	全員
3日目		病棟実習：受け持ち対象の看護ケア、看護過程(関連図・看護診断・看護計画)、カンファレンス	全員
4日目		病棟実習：受け持ち対象の看護ケア、看護過程(看護計画・実施・評価)、カンファレンス	全員
5日目		病棟実習：受け持ち対象の看護ケア、看護過程(実施・評価)、振り返り、最終カンファレンス、実習記録の整理・まとめ	全員
6日目		学内実習：実習オリエンテーション、母性看護に必要な技術練習、母性看護学に関するトピックスの検討、保健指導案の検討、カンファレンス	全員
7日目		院内実習：分娩期の実習、分娩期の実習待機、妊婦健診事前学修、母親学級などの動画視聴、母性看護学に関するトピックスの資料作成、保健指導案の作成、カンファレンス	全員
8日目		外来実習：妊婦健診、マタニティヨガの見学 院内実習：分娩期の実習、分娩期の実習待機、母性看護学に関するトピックスの発表準備、保健指導案の発表準備、実習記録の整理・まとめ、カンファレンス	全員
9日目		外来実習：妊婦健診、母親学級の見学 院内実習：分娩期の実習、分娩期の実習待機、母性看護学に関するトピックスの発表準備、保健指導案の発表準備、実習記録の整理・まとめ、カンファレンス	全員
10日目		学内実習：母性看護学に関するトピックスのプレゼンテーション、保健指導案のパフォーマンス、振り返り、実習記録の整理・まとめ	全員

事前・事後学修	事前学修：母性看護学実習のガイダンス時に指示する。 事後学修：実習初日のオリエンテーション時に指示する。
評価方法	実習評価表を基に、看護ケアの実践状況、実習記録、カンファレンスへの参加度、プレゼンテーション、パフォーマンス、出席状況等を総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	課題レポート等は、コメント等を付して返却する。
教科書	教科書： 1．森恵美編「系統看護学講座専門分野 母性看護学概論」（第15版）、医学書院、2026 2．森恵美編「系統看護学講座専門分野 母性看護学各論」（第15版）、医学書院、2026 3．石村由利子編「根拠と事故防止からみた母性看護技術」（第4版）、医学書院、2026
参考書	資料等： 1．母性看護学 ． の講義資料や演習資料 2．個々に事前学修としてまとめたもの 参考書： 1．太田操編「ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程」（第4版）、医歯薬出版、2024 2．佐世正勝「ウェルネスからみた母性看護過程＋病態関連図」（第4版）、医学書院、2022
履修上の注意点及び取扱い	1．学生としての基本的態度を厳守する。 1）限られた実習期間であるため主体的に実習できるよう心掛ける。 2）服装、身だしなみについては、清潔・安全・機能性に留意する。 3）報告・連絡・相談を徹底する。 2．事前学修課題について 1）実習開始日に提出する。 2）事前学修課題のうち、入力が必要なものは実習開始日の前日までに入力（提出）する。 3）アセスメントや計画を実践に活かせるよう、十分な知識と具体的な看護を記載する。 4）これまでの講義資料と演習資料（看護過程演習を含む）をよく復習する。 3．事前技術練習を実施していない場合、実習対象とならないことがある。 4．レポートや記録物の提出日時は厳守する。 5．規程の出席を満たし、実習記録が提出された場合に評価対象となる。

科目名	精神看護学		
科目コード	34221	科目ナンバリング	B342212
授業形態	講義	開講時期	2年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	1. 「病態治療学D(精神科学)」を履修していること。 「精神看護学」の単位数先修条件となる。		
教員名	大谷 恵・村岡 大志・高島 孝晃		
実務経験	看護師として病院勤務(大谷・村岡・高島)		
オフィスアワー	授業日:授業終了後~17:30。 その他は、アポイントメントを取ってください。 メールによる問い合わせ先は以下の通りです。 大谷:m.otani.t@ikc.ac.jp 村岡:h.muraoka.t@ikc.ac.jp 高島:t.takashima.t@ikc.ac.jp		
科目概要	精神保健および精神看護の基盤となる人間理解を目的に、人間のこころのしくみと発達、危機状況におけるこころのはたらきを踏まえ、精神保健と医療福祉における今日的な課題を明らかにしたうえで、生物学的・心理学的・社会的視点から精神看護の援助に必要な基礎的な概念を学修する。具体的には、精神看護の対象、看護の目的、精神看護に必要な知識と技術を理解する。こころの健康の概念、ライフサイクルにおけるこころの発達と危機を理論に基づいて理解する。危機状況におけるこころの働きを理論を用いて理解する。精神看護の基礎的な概念を理解する。		
到達目標	現代社会における精神保健・看護のニーズと精神看護学の基本的な考え方を説明できる。 こころの健康の概念を説明できる。 発達、ストレス、危機の観点からこころのしくみやはたらきを説明できる。 精神保健医療福祉の現状や課題を、治療の歴史と人権、法制度をふまえ、説明できる。 精神看護の対象、目的、活動の場、精神看護に必要な知識と技術を説明できる。 精神看護における援助の基礎概念を列挙し、説明できる。 当事者の体験から精神看護の役割について自分の考えを述べるができる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる。			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる。			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる。			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる。			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる。			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる。			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる。			○
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		精神看護学を学ぶことの意義：現代社会における精神保健・医療のニーズ、精神看護とその課題、精神看護学の基本的な考え方 *事前学修：教科書【1】第1章を読む。 *事後学修：教科書【1】p22ゼミナール「課題と復習」を各200字程度にまとめる。	大谷
2		精神の健康と健康障害：精神の健康の概念、精神障害のとらええ方、医学モデルと社会モデル、国際生活機能分類 *事前学修：教科書【1】第2章A・Dを読む。精神の健康について調べる。 *事後学修：教科書【1】p53ゼミナール「課題と復習」を各200字程度にまとめる。	村岡
3		こころのはたらきと人格の成長：こころのはたらき、人格と気質、人格の発達に関する諸理論 *事前学修：教科書【1】第3章を読む。 *事後学修：教科書【1】p113ゼミナール「課題と復習」を各400字程度にまとめる。	村岡
4		心身の危機とストレス：危機という考え方、心理的ストレスとライフイベント、防衛機制、予防の概念、コーピング *事前学修：危機理論について調べる。また、教科書【1】第2章B・Cを読む。 *事後学修：教科書【1】p113ゼミナール「課題と復習」を600字程度にまとめる。	高島

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
5		社会のなかの精神障害 : 精神障害の治療と歴史、偏見や差別と多様性 *事前学修: 教科書【1】第7章A~Dを読む。精神保健医療福祉における歴史の変遷について調べる。 *事後学修: 教科書【1】p369ゼミナール「課題と復習」を300字程度にまとめる	高島
6		社会のなかの精神障害 : 精神保健福祉にかかわる法制度と看護職の役割 *事前学修: 教科書【1】第7章E・Fを読む。p360~361をA4・1枚にまとめる。 *事後学修: 教科書【1】p369ゼミナール「課題と復習」を300字程度にまとめる。	村岡
7		精神看護の基礎概念: 精神看護とは、精神看護者の役割、ケアの前提、ケアの原則、ケアの方法、治療的関係・治療的環境 *事前学修: 教科書【2】第8章A~Cを読む。 *事後学修: 授業時に提示する課題に取り組む。授業内容についてノートにまとめる。	大谷
8		援助の基礎概念1 精神看護における患者 看護師関係: 患者 - 看護師関係の発展段階、治療的コミュニケーション、関係のアセスメント、プロセスレコード *事前学修: 教科書【2】第8章D~F、事前配布資料を読む。さらに1年時に学修した「看護援助的関係論」の内容を復習する。 *事後学修: 生活上の1場面を取り上げ、プロセスレコードを記載する。	大谷
9		援助の基本概念1 精神看護における患者 看護師関係 【演習】ロールプレイによる体験学修・再構成の活用 *事前学修: 第8回までの授業内容を復習する。授業資料を読み、患者の人となりや想像するとともに、自分なりのかかわりを考える。 *事後学修: 授業時に提示する課題に取り組む。	大谷・村岡・高島
10		援助の基礎概念2 精神症状の意味と症状を体験している人の理解 : 精神を病むことと生きること、精神症状の意味と状態像、特異症状と非特異症状 *事前学修: 教科書【1】第1章B、第5章A~Cを読む。また、「病態治療学D(精神)」の既習内容を復習する。 *事後学修: 特異症状と非特異症状、思考・感情・意欲・知覚・意識・記憶障害の特徴を各100字程度にまとめる。	村岡
11		援助の基礎概念3 回復とはどういうことか: リカバリー、ストレングスモデル、ピアサポート *事前学修: 教科書【2】第9章、第10章p146~150を読む。 *事後学修: 授業時に提示する課題に取り組む。授業内容についてノートにまとめる。	高島
12		援助の基礎概念4 人間と集団: 集団と個人、グループダイナミクス、全体としてのグループ、グループの方法 *事前学修: 教科書【1】第4章Cを読む。 *事後学修: 教科書【1】p142ゼミナール「課題と復習」を400字程度にまとめる。	大谷
13		援助の基礎概念3 精神障害をもつ当事者の体験から学ぶ: 精神障害とともに生きる意味(ゲストスピーカー) *事前学修: 13回目までの授業内容を復習する。 *事後学修: 授業時に提示する課題に取り組む。	大谷
14		援助の基礎概念5 家族と精神の健康: 現代社会と家族、家族内コミュニケーション、システムとしての家族 *事前学修: 教科書【1】第4章A・Bを読む。 *事後学修: 教科書【1】p142ゼミナール「課題と復習」を各200字程度にまとめる。	大谷
試験		定期試験	大谷・村岡・高島
事前・事後学修		事前: 指定された事前課題を実施する。各120分 事後: 指定された事後課題を実施する。各120分	
評価方法		定期試験: 60% 課題: 20% ミニッツノート・学修ノート: 20%	
課題に対するフィードバック		課題: コメント等を付して返却する。 試験: 平均点および正答率の低い問題について、ポータルにて解説を配信する。	
教科書		武井麻子 他(2022)系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学 医学書院 武井麻子 他(2022)系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学 医学書院	
参考書		武井麻子(2005)精神看護学ノート第2版、医学書院 落合滋之監修、秋山剛、音羽健司(2015)精神神経ビジュアルブック、学研メディカル秀潤社 中井久夫、山口直彦(2004)看護のための精神医学第2版、医学書院 適宜、紹介する。	

履修上の注意点 及び取扱い	<ol style="list-style-type: none">1. 授業の進め方：本科目は基本的に講義を中心とするが、適宜、学生が討論する時間を設ける。2. 予習：次回予定している授業内容や教科書の範囲を提示する。次回の授業までに、提示された教科書の範囲をよく読んでおく。予習を通しての次回の授業に関する疑問や問題意識をもって、授業に臨む。3. ミニッツノート：授業終了直前、短時間でのミニッツノートの記載を課題とする。ミニッツノートには、授業を振り返り、学んだことや感想、疑問、今後の課題など自由に記載する。記載された内容は授業の中でフィードバックする。4. 学修ノート：授業後は授業を振り返り、事前に抱いていた疑問や問題意識がどのように変化したか、何を学んだか、今後の学修課題等について学修ノートにまとめる。学修ノートは、単に知識をまとめて記載するだけでなく、思考力を育てる役割も担う。授業内で提示する問題を解いて、授業内容の理解を確認する。なお、授業期間中に学修ノートを2回提出する（7回目・14回目）。5. 疑問やわからないことがあれば、面談を受け付けているので、電子メールでアポイントをとる。6. 授業を欠席した場合は、担当教員に連絡のうえ、次回授業前日までに資料を取りにくる。7. 授業を途中退出する場合は、授業開始までに理由書を担当教員に提出する。
------------------	--

科目名	精神看護学		
科目コード	34222	科目ナンバリング	B342223
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	1. 「精神看護学」の単位を修得していること。2. 「精神看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	大谷 恵・村岡 大志・高島 孝晃		
実務経験	看護師として病院勤務(大谷・村岡・高島)		
オフィスアワー	授業日・授業終了後～17:30 その他は、アポイントメントを取ってください。 メールによる問い合わせ先は以下の通りです。 大谷:m.otani.t@ikc.ac.jp 村岡:h.muraoka.t@ikc.ac.jp 高島:t.takashima.t@ikc.ac.jp		
科目概要	精神看護の対象をその人のみならず家族や地域社会との関わりを視野に入れたうえで理解し、必要な看護実践のための知識や技術、看護実践の方法を学修する。授業では、こころを病むことへの理解、基本となる精神看護実践の基盤となる治療的關係や看護の役割に関する理論・知識、個人や集団への治療的アプローチ、精神科リハビリテーションと看護師の役割、地域生活支援、家族支援、身体疾患を持つ人のこころのケア等について学修し、精神看護を実践するための基本的な知識や技法について理解するとともに、身体疾患をもつ人や看護職のメンタルヘルスについても理解を深める。		
到達目標	精神科における治療の方法や場の特徴について説明できる。 精神障害をもつ人に対する看護実践のためのアセスメントの視点、考え方について説明できる。 精神障害をもつ人の治療や回復過程ををふまえた看護アプローチについて述べるができる。 精神障害をもつ人の地域生活を支える制度や社会資源、方法について説明できる。 精神看護における個人の尊厳や権利擁護について自分なりの考えを述べるができる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる。			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる。			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる。			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる。			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる。			○
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる。			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる。			○
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		精神看護におけるアセスメントの特徴：さまざまな精神症状と生活への影響、TIC、患者 看護師関係の感情体験、医療の場のダイナミクス *事前学修：教科書【2】第8章を読む。「精神看護学」「病態治療学D(精神)」を復習する。 *事後学修：教科書【2】p68ゼミナール「復習と課題」を各400字程度のまとめる。	大谷
2		回復を支える：入院治療の目的と意味、入院形態、治療的環境、リハビリテーション、回復のためのプログラム、セルフマネジメントに役立つ方法 *事前学修：教科書【2】第11章を読む。 *事後学修：自分のWRAPプランを作成する。授業内容についてノートにまとめる。	高島
3		精神看護における身体的ケアの意味：看護における身体ケア、存在の基盤としての自我感覚、身体的ケアの持つ意味、精神療法としての身体ケア *事前学修：教科書【2】第12章A・B・Eを読む。また、基礎看護学で学習した日常生活援助について復習する。 *事後学修：教科書【2】p310ゼミナール「復習と課題」をまとめる。授業内容についてノートにまとめる。	大谷
4		身体面への治療と援助 - 精神科治療と身体ケア、身体合併症 *事前学修：教科書【1】第6章A・C・D、【2】第12章C・Dを読む。脳の神経伝達物質について復習する。 *事後学修：教科書【2】p310ゼミナール「復習と課題」をまとめる。授業内容についてノートにまとめる。	村岡

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
5		精神面・社会面への治療と援助 - 回復過程に応じた活動、行動療法、環境療法、社会療法 (SST、レクリエーション) *事前学修:教科書【1】第6章B、E、【2】第9章Fを読む。 *事後学修:授業内容についてノートにまとめる。	村岡
6		安全を守る援助 - リスクマネジメント、行動制限、緊急事態への対処、災害時の対応 *事前学修:教科書【2】第13章を読む。 *事後学修:教科書【2】p348ゼミナール「復習と課題」をまとめる。	高島
7		精神障害者の家族支援:家族支援とは、家族療法の考え方、家族支援の方法 *事前学修:精神障害者の家族支援について調べる。教科書【1】第4章A・B、第6章B、【2】第10章Cを読む。 *事後学修:授業時に提示する課題に取り組む。授業内容についてノートにまとめる。	大谷
8		地域生活を支える看護:精神障害者の地域生活を支える諸制度、地域生活支援の方法 *事前学修:精神障害者の地域生活支援について調べる。教科書【2】第10章A~Cを読む。 *事後学修:授業内容についてノートにまとめる。	高島
9		地域生活を支える看護:精神科訪問看護、就労支援、セルフヘルプグループの機能と役割 *事前学修:教科書【2】第10章A~Cを読む。 *事後学修:授業内容についてノートにまとめる。	高島
10		アディクションという病い:アディクション、特にアルコール依存症をもつ人の理解と看護、当事者の体験 *事前学修:教科書【1】第4章B・p127~129、第5章C・p201~207、第7章F、【2】第10章B・p146~150、p351のColumを読む。 *事後学修:授業時に提示する課題に取り組む。授業内容についてノートにまとめる。	大谷
11		【演習1】精神障害をもつ人への看護展開『患者の人となりを理解する』:グループディスカッション、全体発表 *事前学修:個人ワークを行い、グループディスカッションの準備をする。 *事後学修:個人ワークの提出・グループディスカッションで学んだことを提出する。	大谷・村岡・高島
12		精神看護師の活動の実際:精神障害からの回復と精神保健医療福祉チーム(ゲストスピーカー) *事前学修:教科書【2】第9~10章を読む。	大谷
13		【演習2】精神看護における倫理的課題へのアプローチ:各グループで模擬倫理検討会の実施、全体発表 *事前学修:個人ワークとして、提示された看護場面での倫理的葛藤や問題について4分割表を用いて分析する。 *事後学修:個人ワークの提出・グループディスカッションで学んだことを提出する。	大谷・村岡・高島
14		リエゾン精神看護:リエゾン精神看護の役割、医療の場と心の健康、看護師のメンタルヘルス *事前学修:教科書【2】第14章を読む。 *事後学修:教科書【2】p372ゼミナール「復習と課題」をまとめる。	村岡
試験		定期試験	大谷・村岡・高島
事前・事後学修		事前学修:指定された事前課題を実施する。各120分 事後学修:指定された事後課題を実施する。各120分	
評価方法		定期試験:50% 看護展開に関する課題(個人ワーク、グループディスカッション):10% 看護倫理に関する課題(個人ワーク、振り返りレポート):10% 課題レポート(第7回、第10回、第13回):15% ミニッツノート・学修ノート:15%	
課題に対するフィードバック		課題:コメント等を付して返却する。 試験:平均点および正答率の低い問題について、ポータルにて解説を配信する。	
教科書		武井麻子 他(2022)系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学 医学書院 武井麻子 他(2022)系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学 医学書院	
参考書		武井麻子(2005)精神看護学ノート第2版、医学書院 落合滋之監修、秋山剛、音羽健司(2015)精神神経ビジュアルブック、学研メディカル秀潤社 中井久夫、山口直彦(2004)看護のための精神医学第2版、医学書院 適宜、紹介する。	

<p>履修上の注意点 及び取扱い</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1．授業の進め方：本科目は基本的に講義を中心とするが、適宜、学生が討論する時間を設ける。 2．予習：次回予定している授業内容や教科書の範囲を提示する。次回の授業までに、提示された教科書の範囲をよく読んでおく。予習を通しての次回の授業に関する疑問や問題意識をもって、授業に臨む。 3．ミニッツノート：授業終了直前、短時間でのミニッツノートの記載を課題とする。ミニッツノートには、授業を振り返り、学んだことや感想、疑問、今後の課題など自由に記載する。記載された内容は授業の中でフィードバックする。 4．学修ノート：授業後は授業を振り返り、事前に抱いていた疑問や問題意識がどのように変化したか、何を学んだか、今後の学修課題等について学修ノートにまとめる。学修ノートは、単に知識をまとめて記載するだけでなく、思考力を育てる役割も担う。授業内で提示する問題を解いて、授業内容の理解を確認する。なお、授業期間中に学修ノートを2回提出する（7回目・14回目）。 5．疑問やわからないことがあれば、面談を受け付けているので、電子メールでアポイントをとる。 6．授業を欠席した場合は、担当教員に連絡のうえ、次回授業前までに資料を取りにくる。 7．授業を途中退出する場合は、授業開始までに理由書を担当教員に提出する。
--------------------------	--

科目名	精神看護学実習		
科目コード	34223	科目ナンバリング	B342233
授業形態	実習	開講時期	3～4年通年
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	90時間
先修条件	1. 「基礎看護学・実習」「精神看護学」の単位を修得していること。 2. 「総合看護学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	大谷 恵・村岡 大志・高島 孝晃		
実務経験	看護師として病院に勤務（大谷・村岡・高島）		
オフィスアワー	実習時間後30分間（実習施設）。その他はアポイントメントをとってください。 メールによる問い合わせ先は以下の通りです。 大谷：m.otani.t@ikc.ac.jp 村岡：h.muraoka.t@ikc.ac.jp 高島：t.takashima.t@ikc.ac.jp		
科目概要	精神障害をもつ人を対象に、その人となりを生生活上の文脈において理解し、対象のリハビリに向けた課題とともに取り組むための支援について学修する。		
到達目標	<p>精神障害をもつ人が日常生活を送る上で、身体・行動・対人関係などの面でどのような課題を抱えているのか、また、それはどのような生きにくさの体験なのかを理解することができる。</p> <p>精神障害をもつ人が体験している生きにくさをその人の生育史や生活背景から捉え、対象のストレスやレジリエンスに着目した援助の方向性を考えることができる。</p> <p>対象とかがわる中で生じた自らの感情や考えを言語化し、患者・看護者の治療的関係の視点からやりとりを解釈し、考察したことをかかわりに活かすことができる。</p> <p>治療的環境が、精神障害をもつ人にどのような相互作用を生み出しているのかを捉えたとともに、自らが治療的環境の一部として存在していることを意識して行動することができる。</p> <p>精神保健医療福祉における各職種の役割を知り、調整・協働・連携における看護師の役割を考察できる。</p> <p>精神障害をもつ人を取り巻く環境や支援の現状について、その人の立場に立って考え、今後の課題を考察できる。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			○
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画（回数）	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1日目		実習施設・病棟オリエンテーション 患者とのかかわり *事前学修：既習科目の学修内容を復習する。学内実習オリエンテーションの資料を読む。 *事後学修：実習内容を記録に整理する。	全員
2日目		患者とのかかわり、受け持ち患者の決定 患者の日常生活への参加をとおしてアセスメント プロセスレコードによる患者・看護師関係の振り返り *事前学修：実習1日目の学びや課題を振り返り *事後学修：実習内容を記録に整理する	全員
3日目		患者とのかかわり：患者の日常生活への参加をとおしてアセスメント：観察・かかわり・記録物などをとおして *事前学修：実習2日目の学びや課題を振り返り、必要なアセスメント項目を確認する。 *事後学修：実習内容を記録に整理する。	全員
4日目		患者とのかかわり：患者の日常生活への参加をとおしてアセスメント：観察・かかわり・記録物などをとおして *事前学修：実習3日目の学びや課題を振り返り、必要なアセスメント項目を確認する。 *事後学修：実習内容を記録に整理する。	全員
5日目		地域で暮らす精神障害をもつ人を支援する施設での活動を学ぶ *事前学修：学内実習オリエンテーションの資料を読む。地域移行支援、地域生活支援について調べる。 *事後学修：実習内容を記録に整理する。	全員

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
6日目		患者とのかかわり：患者の日常生活への参加をとおして アセスメント（全体像の理解）：観察・かかわり・記録物などをとおして *事前学修：1週目の実習を振り返り、2週目に向けての課題と取り組みを考え、現時点までの患者の全体像を言語化する。 *事後学修：実習内容を記録に整理する。	全員
7日目		患者とのかかわり：患者の日常生活への参加をとおして 患者の全体像、援助の方向性の検討 *事前学修：実習6日目の学びや課題を振り返り、アセスメントの修正を行い、患者のありたい姿、希望を検討する。 *事後学修：実習内容を記録に整理する。	全員
8日目		患者とのかかわり：患者の日常生活への参加をとおして 患者の全体像、援助の方向性の検討 プロセスレコードによる患者 看護師関係の振り返り *事前学修：実習7日目までの患者とのかかわりを振り返り、患者のリカバリーを支援するかかわりを考える。関係の終結について調べる。 *事後学修：実習内容を記録に整理する	全員
9日目		患者とのかかわり：患者の日常生活への参加をとおして 患者と援助の方向性を話し合う 実習での学びの整理・終結の準備 *事前学修：実習8日目までの患者とのかかわりを振り返り、援助の方向性について考える。終結の具体的な方法について考える。 *事後学修：実習内容を記録に整理する	全員
10日目		受け持ち患者との終結 実習のまとめ・ケースカンファレンス 個人面談 *事前学修：実習9日目までの患者とのかかわりを振り返り、患者との関係の終結、継続看護について考える。ケースカンファレンスの準備を行う。 *事後学修：実習内容を記録に整理する。	全員
事前・事後学修		事前学修：指定された事前学修課題を実施する。各120分 事後学修：指定された事後学修課題を実施する。各120分	
評価方法		実習目標の達成度：60% カンファレンスの参加度（主体的参加、積極性）：20% 記録物の提出：20%	
課題に対する フィードバック		日々の実習では、個人面談、カンファレンス、記録へのコメント等でフィードバックを行う。 実習最終日に個人面談を行う。	
教科書		武井麻子 他（2022）系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学 医学書院 武井麻子 他（2022）系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学 医学書院	
参考書		適宜、紹介する。	
履修上の注意 点及び取扱い		1．主体性をもって取り組むこと。 2．実習前ガイダンスに参加すること。 3．実習スケジュールは、対象の状況等によって変更する場合がある。	

科目名	医療安全管理論		
科目コード	34224	科目ナンバリング	B342243
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	青山 恵美		
実務経験	感染管理認定看護師として病院勤務		
オフィスアワー	授業終了後10分間(講師控室)およびメールでの問い合わせ メールアドレス：e_a0@aichi-med-u.ac.jp		
科目概要	医療安全・医療事故の概念と事故発生のメカニズム、医療の場における事故防止対策、事故防止教育、事故発生後の対応とその課題、医療事故防止システムと看護職の役割、医療安全に関する法や政策について学修する。また、具体的な看護業務に関連して発生する事故の具体的な防止方法、サーベイランス、事故防止のための安全用具の活用について理解する。病院内で発生する医療関連感染の予防と清掃、消毒、物品管理などの病院内衛生管理についても理解を深める。		
到達目標	医療安全の基本的な考え方について説明できる。 看護業務の範囲と責任について説明できる。 ヒューマンエラーの知識を活かした事故防止対策が説明できる。 事故報告の意味と必要性について説明できる。 医療施設内感染を予防するための管理について説明できる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		授業概要説明 医療安全と看護の理念、医療安全への取り組みと医療の質評価 事前学修 教科書P.14～64を読む。安全な医療とは何かについて考えてくる。 事後学修 医療安全を学ぶことの重要性と、看護師が行う業務と安全管理、日本の医療安全への取り組み、医療事故に伴う法的責任についてまとめる。	青山
2		医療安全の取り組みと医療の質評価(1回目の続き) 事故発生のメカニズムとリスクマネジメント 事前学修：教科書P.75～121を読む。自身がこれまでに失敗した事例(どんなシチュエーションでも可)を提示できるように考えてくる。 事後学修：ヒューマンエラーのメカニズム、自身が実施するエラー防止対策、医療事故分析の方法と考え方をまとめる。	青山
3		チームで取り組む安全文化の醸成 事後学修：教科書P.124～137までを読み、医療安全におけるチーム医療について予習する。 事後学修：安全文化について考え、安全文化を醸成するために自身がこれから実行することをまとめる。	青山
4		看護学生の実習と安全 未然防止対策：危険予知トレーニング(KYT)の実際(グループワーク) インシデント報告の意味と必要性について 事前学修：教科書P.242～273までを読み、KYTについて予習する。また、これまでの実習経験で、ヒヤットした出来事や、危険だと思った出来事を提示できるように考えてくる。 事後学修：KYTから学んだことをまとめる。インシデントレポートの記載から学んだこと、報告の重要性についてまとめる。	青山
5		看護業務に関連する事故と安全対策 事前学修：P.140～192まで読み、看護業務の特徴について予習する。 事前学修：看護場面で発生しやすい事故について2つ取り上げ、その原因と対策をまとめる。	青山

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
6		在宅看護における医療事故と安全対策 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策 事前学修：教科書P.194 ~ 240まで読み、医療従事者の業務上のリスクについて予習する。 事後学修：医療従事者の業務上のリスクとその予防策についてまとめる。	青山
7		医療事故後の対応/医療事故分析(グループワーク) 事前学修：これまで学んだことを復習する。特に、P.65~72までを読み、事故分析の実施に向けて手法について予習する。 事後学修：事故発生後の対応について、拡大防止と発生防止の視点からまとめる。	青山
試験	~	定期試験	青山
事前・事後学修		事前学修：各回に記載してある事前学修にそって実施する。加えて講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：各回に記載してある事後学修にそって実施する。必要時、講義の最後に次回の学修内容を支持する。各120分	
評価方法		グループワーク：30%(積極性、協調性、発表・記録の内容、グループのチームワーク) 定期試験：70%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教科書		松下由美子、他編「ナースング・グラフィカ 看護の統合と実践 医療安全」メディカ出版 2024年	
参考書		無	
履修上の注意点及び取扱い		グループ討論に積極的に参加すること。 グループワーク(4回・7回)を欠席すると30%は評価できないので注意すること。	

科目名	感染予防看護論		
科目コード	34225	科目ナンバリング	B342253
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	東野 督子		
実務経験	看護師として病院勤務		
オフィスアワー	木曜日12:30～13:30 メールでアポイントメントをとってください(t.higashino.t@ikc.ac.jp) 対面・オンラインの相談機会を設定します		
科目概要	地域社会や医療の場で問題となっている感染症とその感染対策について理解を深め、感染成立のメカニズムと感染予防および感染管理の理論と基本となる感染予防技術を学修する。また、医療関連感染として問題となっている伝染性の強い感染症や薬剤耐性菌感染症の感染経路、病態、診断・治療、感染予防対策、感染症患者の看護について学修する。さらに、医療の場で問題となっている病院内の高頻度接触環境表面の汚染と、清掃、消毒、物品管理などの衛生管理について理解を深める。		
到達目標	<p>感染成立のメカニズムと感染予防の具体的方法が理解できる。 感染症とその対策の歴史の変遷および感染対策に関する法制度・施策が理解できる。</p> <p>医療関連感染とその予防策が理解できる。 医療・療養施設および在宅など様々な場面において感染管理の方法が理解できる。 職業感染発生のメカニズムと防止策について理解できる。 感染症およびその予防管理にかかわる倫理的な問題を考えることができる。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		オリエンテーション 感染予防の歴史と看護－感染成立のメカニズムと予防策－ 【事前学修】基本的な感染予防策 解説、解説、解説 を読んでおく(p6,p9,p10) 【事後学修】 本日の講義内容をまとめる	東野
2		感染予防の実際－感染経路別予防策－ 【事前学修】感染経路別予防策、解説 を読んでおく(p27-29,p31) 【事後学修】本日の講義内容をまとめる ・経路別予防策の代表的な疾患と予防策とは	東野
3		我が国における感染対策と感染症発生の動向(結核・性感染症含む) 【事前学修】我が国の感染症法の1類から5類の主な疾患と届け出についてしらべる 【事後学修】本日の講義内容をまとめる 新興感染症と再興感染症とは 第2種学校感染症(季節性インフルエンザ、麻疹、水痘、風疹、流行性耳下腺炎)の出席停止基準とは	東野
4		医療器具・処置関連感染対策(人工呼吸器関連肺炎他) 【事前学修】微生物の侵入経路について読んでおく(p44,p54) 【事後学修】本日の講義内容をまとめる ・すべての血管留置カテーテルの対策とは ・膀胱留置カテーテル関連尿路感染対策の挿入時の管理とは	東野
5		医療器具・処置関連感染対策(手術部位感染・職業感染予防) 【事前学修】職業感染予防を読んでおく(p73-75) 【事後学修】本日の講義内容をまとめる。 ・B型肝炎ウイルスの対応とは	東野

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
6		薬害B型肝炎について、まとめ(すべての講義資料を持参すること) 【事前学修】インターネットにアクセスして、B型肝炎訴訟の手引き(第5版)P3-12までを読んでください。 【事後学修】当事者との取引についてお話や弁護士のお話を聞いて、考えたことについてまとめる	東野
7		洗浄、消毒、滅菌と医療環境の整備(易感染患者他) 【事前学修】感染性廃棄物の管理をよんでおく(p133) 【事後学修】本日の講義内容をまとめる ・洗浄・消毒・滅菌の定義のちがいは ・スポルディングの分類とは	東野
試験		定期試験	東野
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評価方法		定期試験(90%) 薬害B型肝炎に関する振り返り用紙の提出(10%)	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教科書		毎回、授業資料を配布する。また以下の教科書は事前・事後学修として使用する。 1.坂本史衣著：「基礎から学ぶ医療感染対策」改訂第4版、南江堂	
参考書		1.厚生労働統計協会：「国民衛生の動向」	
履修上の注意点及び取扱い		積極的に授業に参加すること。	

科目名	クリティカルケア論		
科目コード	34226	科目ナンバリング	B342263
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	松井 優子		
実務経験	看護師として病院勤務		
オフィスアワー	毎回の授業後10分に対応。メールによる問い合わせは随時対応する。		
科目概要	クリティカルケアの領域は、予期せぬ事故や突発的な出来事による生命の危機的状況にある人に対して、急変時の対応から集中的な治療・看護および終末期までの過程を範囲とする。本授業では、クリティカルケアの基盤になる理論と看護について学修する。また侵襲的な病態および治療、重症患者のリスクとなる二次障害を知り、根拠に基づいた看護ケアを学修する。そして生命の危機状況にある患者とその家族の倫理的課題を考え、クリティカルケア看護の専門性を学修する。		
到達目標	クリティカルケアにおける看護師の役割と看護の専門性が理解できる。 生命の危機状況にある患者に対して、倫理的側面を踏まえた看護が理解できる。 クリティカルな患者の病態と回復を促す看護が理解できる。 重症患者の二次障害予防について理解できる。 生命の危機状況にある患者とその家族の心理が理解できる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		ガイダンス、クリティカルケア看護の基本 【事前学修】教科書の以下の範囲を熟読する。急性期看護：クリティカルケアp6-28、p81-88 【事後学修】クリティカルケア看護の専門性と侵襲による生体反応について振り返る。	松井
2		クリティカルケアにおける看護実践：循環器系 【事前学修】第1回で提示するワークシートを記載する。 【事後学修】緊急性の高い不整脈、ショックの種類について振り返る。	松井
3		クリティカルケアにおける看護実践：脳神経系 【事前学修】第2回で提示するワークシートを記載する。 【事後学修】意識障害、頭蓋内圧亢進のアセスメントについて振り返る。	松井
4		クリティカルケアにおける看護実践：呼吸器系 【事前学修】第3回で提示するワークシートを記載する。 【事後学修】気管内挿管および人工呼吸器装着中のリスクについて振り返る。	松井
5		クリティカルケアにおける看護実践：二次障害予防・救急蘇生法 【事前学修】第4回で提示するワークシートを記載する。 【事後学修】救急蘇生法のポイントを振り返る。	松井
6	~	救急医療における看護師の役割 【事前学修】第5回で提示するワークシートを記載する。 【事後学修】プレホスピタルケアおよび初療時の臨床推論のプロセスを振り返る。	松井
7		クリティカルケアにおける倫理的課題 【事前学修】第6回で提示するワークシートを記載する。 【事後学修】グループ討議を振り返り、クリティカルケアにおける倫理的課題について自己の考えをまとめる。	松井
試験	~	定期試験	松井
事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分		

評価方法	筆記試験：80% 課題レポート：20%
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。
教科書	益田美津美他、急性期看護：クリティカルケア、メヂカルフレンド社、2021年 池上徹他、臨床外科看護総論、医学書院、2023年 北川雄光他、臨床外科看護各論、医学書院、2023年
参考書	授業の進行に応じて紹介する。
履修上の注意点及び取扱い	演習や討論への積極的な参加を期待します。

科目名	国際看護論		
科目コード	34301	科目ナンバリング	B343013
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	江本 厚子・浅野 いずみ・佐藤 千歳・山田 優子・若林 真美		
実務経験	江本：看護師として病院勤務 浅野：保健師として保健所勤務 佐藤：臨床検査技師として保健所勤務、JICA派遣(モザンビーク) 山田：看護師として病院勤務、海外診療所派遣(ミャンマー)		
オフィスアワー	講義終了後10分間(講義室もしくは非常勤講師控室)		
科目概要	個々の民族やグループが持つ文化や健康観、保健行動の違いを理解し、異なる文化的な背景を持つ人々の健康向上のための仕組みと保健医療の実現における課題について学修する。さらに、国際保健医療の見地から、国内外で求められる看護活動の実際とその課題を理解する。		
到達目標	異なる背景を持つ人々の健康向上のための仕組みと保健医療の実現の課題を理解できる。 国際保健の見地から、保健医療の実現における課題を理解できる。 国内外で求められる看護活動の実際と課題を理解できる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			○
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		国際協力の機能と構造 開発途上国における看護実践：JICA海外協力隊保健師隊員の活動 事前学修：ウェブサイトにて「JICA」「JICA海外協力隊」「WHO」「UNICEF」というキーワードで検索、内容を理解しまとめておく。各回120分 事後学修：講義内容の振り返り、関連資料の確認。各回120分	浅野
2		在留外国人への健康支援と外国人看護師との連携・協働 事前学修：ウェブサイトにて「在留外国人」「外国人労働者」「外国人看護師」というキーワードで検索、内容を理解しまとめておく。各回120分 事後学修：講義内容の振り返り、関連資料の確認。各回120分	浅野
3		ミャンマーでの診療所活動と看護 事前課題・事後学修：下記参照 事前学修：講義の前に前回までの内容を確認。各回120分 事後学修：講義最後に次回の学修内容を指示する。各回120分	山田
4		国際看護活動の実践：国際看護とJICA(青年)海外協力隊活動 事前学修：国際看護でおもいつくキーワードを1つ調べておくこと その他の事前課題・事後学修はその都度指示 キーワード：国際機関、ODAとNGO、JOCV佐藤	佐藤
5		国際看護活動の実践：国際看護と緊急人道援助活動 事前学修：緊急人道援助について、簡単に調べておくこと その他の事前課題・事後学修はその都度指示 キーワード：緊急人道援助、国際緊急援助隊	佐藤
6		グローバルヘルスにかかわる企業を通じた関わり3つの事例(医療観光、医療製品の輸出、医療技術の共有)を通して、グローバルヘルスにおける官民連携を理解する。グローバルヘルスの様々ななかかわり方の1つとして、グローバルヘルスにおける官民連携が活発化してきている背景について説明できる。 キーワード：官民連携、国際協力、COVID-19	若林

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
7		内容：新型コロナウイルス感染症対策にかかわる国際機関とその仕組みの事例（特に、ワクチンの供給に関する国際的枠組み：COVAX）を通して、国際機関同士の連携や地球規模での課題への取り組みについて理解する。グローバルヘルスに関して、特に国際機関等での国際貢献やその物事の決まり方について説明できる。 キーワード：官民連携、国際協力、COVID-19	若林
	事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 今まで学修した国際看護論の中で印象に残ったことを書き出しておく。 ウェブサイトにて「JICA」「JICA海外協力隊」「WHO」「UNICEF」「在留外国人」「外国人労働者」「外国人看護師」というキーワードで検索、内容を理解しまとめておく。各回120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分 授業の内容を整理し、自分の関心と結び付けて、授業感想を書く。 講義内容の振り返り、関連資料の確認。	
	評価方法	レポート(100%)	
	課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
	教科書	無	
	参考書	木原正博他監訳（2017）「グローバルヘルス」、MEDSI・柳澤理子編（2017）「改訂版国際看護学」、PILAR・日本国際保健医療学会（著）（2013）「国際保健医療学」指定文献(1) 厚生労働省ウェブサイト ： https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuhoken/iryuhoken01/index.html その他必要に応じて、資料・文献を提示する。 1. 実践グローバルヘルスー現場における実践力向上を目指して（編）日本国際保健医療学会（2022） 2. 若林真美，磯博康，日本におけるグローバルヘルス外交の動向と官民連携，保健医療科学 72(5)，2024年1月 3. 若林真美，高橋麻奈，磯博康，COVAXファシリティ等を通じた新型コロナワクチン支援 - 太平洋島嶼国を事例として - 国際保健医療 37(2) 2022年6月	
	履修上の注意点及び取扱い	1. オンラインでの講義の可能性あり。授業中の携帯電話・スマートフォンの使用は講義で必要な場合のみ可能とします。 2. 積極的に授業に臨み、授業を活性化させる発言を期待しています。 3. グループ討議には積極的に参加すること。	

科目名	看護管理学		
科目コード	34302	科目ナンバリング	B343024
授業形態	講義	開講時期	3年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	鈴江 智恵・大久保 清子		
実務経験	大久保：公的病院で看護師・看護・病院管理者として勤務 鈴江：公立病院で看護師・看護管理者として勤務		
オフィスアワー	大久保：授業当日に、内線3001 または t.ohkubo.t@ikc.ac.jp 鈴江：授業当日に、内線4333 または t.suzue.t@ikc.ac.jpで連絡する。		
科目概要	社会情勢に即した質の高い看護サービスを提供するため、看護管理はすべての看護職に求められる必要な能力である。看護管理の概念と本的な考え方を学び、そのうえで組織・個人が担う役割や、看護サービスの質を保证するための仕組みについて学修する。持続的なヘルスケア提供の仕組みや組織構造を理解し、看護提供システム、チーム医療における他職種との連携・協働など看護管理の基盤となる知識を学習する。そして、看護の質の向上に向けて看護職が直面している諸問題とその政策形成過程について考察し、将来、看護職の一員として、自己の能力を発展させることの意義を理解する。		
到達目標	看護管理の概念と基礎となる理論、看護管理の目的やマネジメントについて説明できる。 ヘルスケアの組織構造と看護サービス提供システムの仕組みについて説明できる。 チームにおける他職種の機能と看護職との連携・協働について説明できる。 看護活動における看護職の役割と看護サービスの質を保障する仕組みについて説明できる。 将来その看護職となる個人としての責務について説明できる。 看護専門職として、自己能力の向上とキャリアを形成していく必要性が説明できる。 社会環境の変化を理解し、保健医療福祉政策の形成過程について理解する。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			○
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		【学修ガイダンス】 本科目の進め方 評価方法について 【講義】教科書 p.2~15 第1章 看護管理におけるマネジメント ・看護管理学とは・看護のマネジメントが行われる場 ・看護とマネジメント 事前学修：教科書の指定範囲を読み、わからない用語について調べる。 事後学修：講義の中で示した小テストを回答し、正答できなかった内容を学修する。	大久保
2		【講義】教科書 p.18~63 第2章 看護ケアのマネジメント ・看護ケアのマネジメントと看護職の機能 ・患者の権利の尊重 ・安全管理 ・チーム医療 ・看護業務の実践 ・看護とマネジメント 事前学修：教科書の指定範囲を読み、わからない用語について調べる。 事後学修：講義の中で示した小テストを回答し、正答できなかった内容を学修する。	鈴江

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
3		<p>【講義】教科書p.80～112 第4章 看護サービスのマネジメント ・組織としての看護サービスのマネジメント ・組織としての目的達成のマネジメント ・看護サービス提供のしくみづくり ・人材のマネジメント ・看護とマネジメント 事前学修：教科書の指定範囲を読み、わからない用語について調べる。 事後学修：講義の中で示した小テストを回答し、正答できなかった内容を学修する。</p>	鈴江
4		<p>【講義】教科書p.112～141 第4章（続き） 看護サービスのマネジメント ・ケアを提供する環境のマネジメント ・物品のマネジメント ・財的資源のマネジメント ・情報のマネジメント ・組織におけるリスクマネジメント ・サービスの評価 ・看護とマネジメント 事前学修：教科書の指定範囲を読み、わからない用語について調べる。 事後学修：講義の中で示した小テストを回答し、正答できなかった内容を学修する。</p>	鈴江
5		<p>【講義】教科書p.144～168 第5章 マネジメントに必要な知識と技術 ・マネジメントの基礎知識 ・組織とマネジメント ・リーダーシップとマネジメント ・組織の調整 【講義】教科書p.66～78 第3章 看護職としてのセルフマネジメント ・看護職のキャリア形成 ・看護看護専門職としての成長 ・健康管理 ・ストレスマネジメント ・看護とマネジメント 事前学修：教科書の指定範囲を読み、わからない用語について調べる。 事後学修：講義の中で示した小テストを回答し、正答できなかった内容を学修する。</p>	鈴江
6		<p>【講義】教科書p.170～183 第6章 看護を取り巻く諸制度 ・看護職の定義、看護職と法制度 ・より専門性の高い看護職の養成および認定制度 ・看護とマネジメント 事前学修：教科書の指定範囲を読み、わからない用語について調べる。 事後学修：講義の中で示した小テストを回答し、正答できなかった内容を学修する。</p>	鈴江
7		<p>【講義】教科書p.183～196 第6章（続き）医療制度 ・医療法 ・医療保険・介護保険に関する法制度 ・その他の関係法規 ・看護とマネジメント 【学修のまとめ】 事前学修：教科書の指定範囲を読み、わからない用語について調べる。 事後学修：講義の中で示した小テストを回答し、正答できなかった内容を学修する。</p>	鈴江
8		定期試験	大久保・鈴江
事前・事後学修		事前学修：講義の前に教科書の指定範囲を精読し、わからない用語・内容について調べておく。 事後学修：小テストの設問に関する知識を教科書や提示した文献から復習する。 各120分	
評価方法		定期試験（100％）で成績評価をする。定期試験の点数が60％未満の場合は再テストを受けることができる。	
課題に対するフィードバック		授業の最後にポータルにて小テストを提示し、正答率の低い内容について次回の授業で解説する。	
教科書		系統看護学講座 看護管理 医学書院 2024年	
参考書		必要時に参考資料を提示する。	
履修上の注意点及び取扱い		<ol style="list-style-type: none"> 1. やむを得ず授業を欠席する場合は、授業開始前までにメールで担当者（鈴江）に知らせる。 2. 定期試験の受験資格については学修ガイダンスのとおり。 3. 授業開始時の出席確認の時に在席していない場合は出席とならない。 4. 教科書にある用語は日常では使わない経営学・行動科学で用いる用語が多い。そのため事前学修で該当ページを必ず読み、授業の他、オフィスアワーを活用し積極的に質問をすること。 5. 自主的に学修ノート（様式自由）を作成し、事前・事後学修に取り組み、看護管理に必要な知識・用語をまとめておくことよい。 6. 本科目の学修内容が自身のキャリア形成につながることを期待する 7. 定期試験が大学の評価基準の合格（60点以上）に満たなかった場合は、再試験を受ける。再試験は60点未満が不合格となる。 	

科目名	災害看護論		
科目コード	34303	科目ナンバリング	B343034
授業形態	講義	開講時期	2・3・4年後期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	野村 千文・坪井 秀介・大谷 恵・松山 旭・村岡 大志・高島 孝晃・川井 伸恵		
実務経験	総合病院の看護師（野村、松山、川井、坪井） 精神科病院の看護師（大谷、高島、村岡）		
オフィスアワー	坪井：授業終了後10分間（非常勤講師室） 野村：授業日・授業終了後～17：00（c.nomura.t@ikc.ac.jp） 大谷：授業日・授業終了後～17：00（m.otani.t@ikc.ac.jp）		
科目概要	災害看護の目的、特徴について概観し、災害の種類による健康課題や看護ニーズ、看護職の役割について、国内外における看護活動の実際を提示しながら解説する。具体的には、被災者や家族の生活や生活環境の変化、生活上の障害と困難、災害サイクルと特有な疾病、被災者の心理と短期的・長期的影響、さらに、被災時に必要な対応である「トリアージ」、「応急処置」、「感染予防」、「災害時の看護の役割」、「支援活動の実際」について討論を交えながら学修を進める。		
到達目標	災害看護の目的、特徴、及び必要性について理解できる。 災害の種類による健康課題や看護ニーズ、看護職の役割について理解できる。 災害サイクルと特有な疾病、被災者の心理と短期的・長期的影響を理解できる。 被災時に必要な対応である「トリアージ」、「応急処置」、「感染予防」、「災害時の看護の役割」、「支援活動の実際」について理解できる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		【ガイダンス】野村 【災害看護の定義・倫理原則】坪井 講義の内容、成績評価の仕組みなどを説明する。そして、基本となる災害看護の定義、倫理原則について学修する。	坪井 野村
2		【災害の種類と災害サイクル】 災害の種類と被害、疾病の特徴を学び、災害サイクル各期における被災者ニーズの変化を理解する。	坪井
3		【災害初期から中長期における看護活動】 医療救護所、指定避難所、応急仮設住宅についての特徴を学ぶ。また、自宅避難者なども含めた被災者の生活に応じた看護を理解する。また、災害時に必要な医療・看護とは何かを学びCSCATT、トリアージ、応急処置・治療、移送・搬送について理解する。	坪井
4		【災害医療に関する国の政策と法律、減災・防災マネジメント】 防災計画、災害対策基本法、災害救助法、減災・防災マネジメントの概要について学ぶ。 【配慮を必要とする人への支援と看護】 災害時における子供や妊産婦、高齢者、障害者、外国人への支援と看護を学び、継続的な治療を受けている患者に対する災害時の支援と看護のポイントを学ぶ。	野村
5		【被災者と支援者の心理】 【災害時の精神保健】 災害時における被災者と支援者の心理を学び、被災地現地の医療従事者は「被災者であり、支援者である」ことの苦悩があることを理解する。精神保健医療活動について学ぶ。	大谷 村岡 高島
6		【演習：避難所運営】 演習を通して避難所運営における支援活動の実際について学ぶ。	野村 松山 川井
7		【演習：避難所運営】 演習を通して避難所運営における支援活動の実際について学ぶ。	野村 松山 川井
試験		定期試験	野村

事前・事後学修	各回の事前・事後学修は4 時間とする
評価方法	定期試験：100%（坪井50%、野村30%、大谷20%）
課題に対するフィードバック	課題に対するフィードバックは授業内で行う
教科書	1. ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践（3） 災害看護 第5版：酒井明子編集、メディカ出版、2022
参考書	必要に応じて提示
履修上の注意点及び取扱い	<p>1．事前学習内容を提示する。毎回取り組んだ上で授業に臨む。</p> <p>2．欠席した場合、当日の授業資料は、次回授業前日までに、学生が教員に連絡し受領する。次回までに自己学修しておく。</p> <p>3．体調不良などにより授業中に一時的に退室が必要な場合は、挙手にて教員に申し出てから退室し、戻った際は教員に報告する。申し出なく退室した場合は、退室時間にかかわらず欠席とみなす。</p>

科目名	キャリア形成論		
科目コード	34304	科目ナンバリング	B343043
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	選択		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	無		
教員名	松井 優子		
実務経験	看護師として病院勤務		
オフィスアワー	毎回の授業後10分に対応。メールによる問い合わせは随時対応する。		
科目概要	キャリアとは、組織内の昇進、専門職の体系的なステップ、生涯にわたる職業経歴、社会的な認知、仕事に関連した生涯にわたる諸経験などである。本科目では、キャリア形成とは、どのようなことを問い、そのプロセスを通じて、看護職となる自分を見つめ、将来の仕事・職業、社会に主体的に向き合い、自己の目標を実現する考え方や能力を育む。授業では、キャリア形成の概念、自分らしさの発見、職業観の形成、看護職の特性、キャリア準備、キャリア・ラダー、自己管理、自己実現、社会貢献について事例の提示や討論によって理解を深める。		
到達目標	キャリアの概念とキャリア形成の意義を理解できる。 社会の看護へのニーズと看護職のキャリア形成との関連を考えることができる。 自己の職業観、将来像について考えることができる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		ガイダンス 看護職のキャリア形成の概念 【事前学修】看護職の倫理綱領（日本看護協会、2021）を読む。 【事後学修】看護職の役割について考察する。	松井
2		看護職の社会人基礎力 【事前学修】第1回で配布するワークシートを記載する。 【事後学修】自己の学修姿勢について考察する。	松井
3		看護職の専門性とキャリアパス 【事前学修】第2回で配布するワークシートを記載する。 【事後学修】看護職の専門性について考察する。	松井
4		看護実践能力と自己の将来像 【事前学修】第3回で配布するワークシートを記載する。 【事後学修】自己の理想とする看護師像について考察する。	松井
5		看護職のキャリア形成 【事前学修】第4回で配布するワークシートを記載する。 【事後学修】キャリア形成とワークライフバランスについて考察する。	松井
6		自己理解とキャリアデザイン 【事前学修】第5回で配布するワークシートを記載する。 【事後学修】自身の特性を踏まえキャリア形成を考察する。	松井
7		キャリアマップの作成 【事前学修】自己のキャリア形成について考える。 【事後学修】授業内容を振り返り最終レポートを記載する。	松井
レポート		レポート	松井
事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分		
評価方法	レポート：100%		
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。		
教科書	必要に応じて、資料を提示する。		

参 考 書	日本看護協会、看護師のまなびサポートブック、2023 日本看護協会、看護職の生涯学習ガイドライン、2023 日本看護協会、看護職の倫理綱領、2021
履修上の注意点 及び取扱い	グループワークや討論に積極的に参加しましょう。

科目名	卒業研究(卒論ゼミナール)		
科目コード	34305	科目ナンバリング	B343053
授業形態	演習	開講時期	3～4年通年
必修・選択	必修		
単位数	3単位	時間数	90時間
先修条件	2年次後期までの必修科目をすべて修得していること。		
教員名	松井 優子・安藤 詳子・石井 成郎・鈴江 智恵・野村 千文・大谷 恵・西谷 直子・東野 誓子・小島 徳子・小平 由美子・肥田 武・滝沢 美世志・伊東 裕康・岩井 美世子・大瀬 恵子・小澤 直樹・河村 江里子・後藤 美恵・佐々木 久美子・高島 孝晃・松山 旭・村岡 大志		
実務経験	助産師として病院勤務(小島・大瀬) 保健師として行政等勤務(西谷) 看護師として病院勤務(安藤・大谷・鈴江・野村・東野・松井・小平・滝沢・岩井・小澤・河村・後藤・佐々木・高島・松山・村岡)		
オフィスアワー	授業日・授業終了後から17時まで・担当教員メールアドレス宛てに連絡		
科目概要	本科目では、文献学修を踏まえ研究目的を明らかにし、研究計画書(プロジェクト計画書)を作成する。指導教員のもと研究(プロジェクト実践)を行い、結果を分析し論文を作成する。学修成果は発表会で報告し、学生間で意見交換を行う。これら一連の過程を通して、学術的なものの見方・態度、企画力・行動力、コミュニケーション力など、総合的な課題解決能力を培う。また、指導教員や研究協力者などとの交流を通して人間理解を深め、看護の可能性を広げる視点を養う。		
到達目標	文献学修を踏まえ、研究目的、研究方法を明確にすることができる。 研究計画書(プロジェクト計画書)を作成することができる。 倫理的配慮に関する手続きについて、考察することができる。 データを分析し、結果・考察を導くことができる。 研究結果(プロジェクト実施結果)をまとめ、論文を作成することができる。 発表会にて、自らの成果を報告し意見交換することができる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			○
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		ガイダンス 研究疑問(テーマ)に関する文献学修・資料収集	各教員
2		研究疑問(テーマ)に関する文献学修・資料収集	各教員
3		研究疑問(テーマ)に関する文献学修・資料収集	各教員
4		研究疑問(テーマ)に関する文献学修・資料収集	各教員
5		文献学修まとめ	各教員
6		文献学修まとめ	各教員
7		研究目的(プロジェクトテーマ)の検討	各教員
8		研究目的(プロジェクトテーマ)の検討	各教員
9		研究計画書(プロジェクト計画書)の作成	各教員
10		研究計画書(プロジェクト計画書)の作成	各教員
11		研究計画書(プロジェクト計画書)の作成	各教員
12		研究計画書(プロジェクト計画書)の作成	各教員
13		研究計画書(プロジェクト計画書)の作成	各教員

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
14		倫理的配慮に関する手続きの検討	各教員
15		研究計画書(プロジェクト計画書)の実施	各教員
16		研究計画書(プロジェクト計画書)の実施	各教員
17		研究計画書(プロジェクト計画書)の実施	各教員
18		研究計画書(プロジェクト計画書)の実施	各教員
19		研究計画書(プロジェクト計画書)の実施	各教員
20		結果の分析	各教員
21		結果の分析	各教員
22		結果の分析	各教員
23		結果の分析	各教員
24		結果の分析	各教員
25		考察の検討	各教員
26		考察の検討	各教員
27		考察の検討	各教員
28		考察の検討	各教員
29		考察の検討	各教員
30		論文執筆	各教員
31		論文執筆	各教員
32		論文執筆	各教員
33		論文執筆	各教員
34		論文執筆	各教員
35		論文執筆	各教員
36		論文執筆	各教員
37		論文執筆	各教員
38		論文執筆	各教員
39		論文執筆	各教員
40		発表会	各教員
41		発表会	各教員
42		発表会	各教員
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評価方法		3年次：文献検討、研究計画書(プロジェクト計画書)100% 4年次：論文100%	
課題に対する フィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教科書		担当教員が必要に応じて提示する。	
参考書		担当教員が必要に応じて提示する。	
履修上の注意 点及び取扱い		各自が主体的に学修する。 発表会は、各教員・領域で研究成果の共有を行う。研究成果の共有方法は各教員・領域の指導のもと実施する。	

科目名	総合看護学実習		
科目コード	34306	科目ナンバリング	B343064
授業形態	実習	開講時期	4年通年
必修・選択	必修		
単位数	3単位	時間数	135時間
先修条件	すべての領域実習の単位を修得していること。		
教員名	松井 優子・鈴江 智恵・野村 千文・大谷 恵・東野 督子・小島 徳子・小平 由美子・滝沢 美世志・岩井 美世子・大瀬 恵子・小澤 直樹・河村 江里子・後藤 美恵・佐々木 久美子・高島 孝晃・松山 旭・村岡 大志・川井 伸恵・中山 八重・野々山 英里・平野 友美		
実務経験	助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野・中山) 看護師として病院勤務(大谷・鈴江・野村・東野・松井・小平・滝沢・岩井・小澤・河村・後藤・佐々木・高島・松山・村岡・川井)		
オフィスアワー	担当する教員が指定する。		
科目概要	地域の生活や文化を理解し、地域における多様な場で、生活する人と家族がもつ健康課題を包括的に捉えて、看護実践を通して総合的な看護実践能力を培う。また、地域包括ケアシステムにおける保健・医療・福祉との連携・協働の実際や、健康レベルが変化しても、地域と医療機関との切れ目のない継続看護の在り方についても学ぶ。対象者と家族に必要な看護を立案し実践した結果を、看護学や関連領域の概念・理論をもちいて考察する。また、看護実践の際には、対象者と家族の意志決定を尊重し、チームの一員としての役割を通して、看護マネジメントを実践的に学ぶ。実習を通して、自己のキャリア形成を探求し、自己の倫理観・看護観を深めて、将来、看護専門職を目指す学生としての責任ある態度を身につける。		
到達目標	対象者と家族の健康課題を、生活する地域の多様な場の社会・文化的特徴も踏まえて、総合的に理解する。また、あらゆる発達段階にある人と家族を対象に、心身の回復を促進し生活の再構築を支える看護を実践して、その看護を展開する意義を理解する。 対象者と家族に必要な看護を立案し、実践した結果を看護学や関連領域の概念・理論をもちいて考察し、総合的な看護実践能力を培う。 地域包括ケアシステムにおける保健・医療・福祉との連携・協働の実際や、健康レベルが変化しても、地域と医療機関との切れ目のない継続看護の在り方について学ぶ。 対象者と家族の意志決定を尊重し、チームの一員としての役割を通して、看護マネジメントを実践的に学ぶ。 実習を通して、自己のキャリア形成を探求し、自己の倫理観・看護観を深めて、将来、看護専門職を目指す学生としての責任ある態度を身につける。		
学位授与方針		対応	
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる		○	
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1日目		実習全体オリエンテーション・領域別オリエンテーション 事前学修：実習要項を読んでおく。 事後学修：オリエンテーションに基づき、実習計画を立案する。	全員
2日目		実習(各領域) 事前/事後学修：領域ごとに提示する。	全員
3日目		実習(各領域) 事前/事後学修：領域ごとに提示する。	全員
4日目		実習(各領域) 事前/事後学修：領域ごとに提示する。	全員
5日目		実習(各領域) 事前/事後学修：領域ごとに提示する。	全員
6日目		実習(各領域) 事前/事後学修：領域ごとに提示する。	全員
7日目		実習(各領域) 事前/事後学修：領域ごとに提示する。	全員
8日目		実習(各領域) 事前/事後学修：領域ごとに提示する。	全員
9日目		実習(各領域) 事前/事後学修：領域ごとに提示する。	全員

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
10日目		実習(各領域) 事前/事後学修: 領域ごとに提示する。	全員
11日目		実習(各領域) 事前/事後学修: 領域ごとに提示する。	全員
12日目		実習(各領域) 事前/事後学修: 領域ごとに提示する。	全員
13日目		実習(各領域) 事前/事後学修: 領域ごとに提示する。	全員
14日目		実習(各領域) 事前/事後学修: 領域ごとに提示する。	全員
15日目		実習(各領域) 事前/事後学修: 領域ごとに提示する。	全員
事前・事後学修		事前学修: 講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修: 講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評価方法		1. 実習評価表に基づき評価する。到達目標の詳細は領域ごとに提示する。	
課題に対する フィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教科書		領域ごとに提示する。	
参考書		領域ごとに提示する。	
履修上の注意点 及び取扱い		領域ごとに提示する。	

科目名	総合看護実践論		
科目コード	34307	科目ナンバリング	B343074
授業形態	講義	開講時期	4年後期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	すべての領域実習の単位を修得していること。		
教員名	小平 由美子・小島 徳子・岩井 美世子・佐々木 久美子・馬場 美穂・松山 旭・村岡 大志		
実務経験	助産師として病院勤務(小島) 看護師として病院勤務(小平・岩井・佐々木・馬場・松山・村岡)		
オフィスアワー	授業日・授業終了後から17時まで・担当教員メールアドレス宛てに連絡		
科目概要	看護の対象者を理解し、看護実践に必要な基礎知識、基礎看護技術を修得する。看護専門分野における重要な看護について、知識、技術を振り返り修得する。		
到達目標	解剖学や病態生理学の知識を活用し、看護実践の根拠を説明できる。 看護専門分野における重要な看護実践について、対象者の個別性を踏まえた看護技術について説明できる。 自己の考えを深め、倫理的感受性を高めることができる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		【総合看護実践論】オリエンテーション。 小児看護学：子どもの成長・発達の特徴と健康増進に影響を与える健康課題(病気や診療・入院など)について、子どもと家族への看護について理解する。 事前学修：既修の知識【心理学】【病態治療学E(小児科学)】【小児看護学】【小児看護学】【小児看護学実習】について確認しておく。 事後学修：担当教員の指示に従う。	小平
2		基礎看護学：看護の対象および看護倫理について理解する。フィジカルアセスメント、感染防止、清潔と衣生活に関する基礎的な知識と基礎看護技術を理解する。 事前学修：既修の知識【基礎看護学(看護学概論)】【基礎看護学(基礎看護技術論)】【基礎看護学(看護過程の理論と展開)】【基礎看護学(ヘルスアセスメント)】【基礎看護学(基礎看護技術論)】【医療と看護の倫理】【基礎看護学実習】【基礎看護学実習】について確認しておく。 事後学修：担当教員の指示に従う。	佐々木
3		精神看護学：こころの健康に関する重要課題(アディクション、自殺予防、トラウマ)について概観し、精神看護師の役割について理解する。 事前学修：既修の知識【病態治療学D(精神科学)】【看護援助的関係論】【コミュニケーション支援論】【精神看護学】【精神看護学】【精神看護学実習】について確認しておく。 事後学修：担当教員の指示に従う。	村岡
4		療養生活支援看護学：慢性の健康課題をもつ看護の対象のセルフマネジメント・スキルの獲得やQOLの向上を支援する看護、及び退院支援・継続看護の役割を理解する。訪問看護における看護マネジメントと訪問看護師による在宅における看護について理解し、保健・医療・福祉システムにおける多職種との連携や協働、社会資源の活用の実際を理解し、地域包括システムにおける在宅看護の位置づけと看護の役割を理解する。 事前学修：既修の知識【病態治療学A(内科学)】【地域看護論】【在宅看護論】【療養生活支援看護学】【療養生活支援看護学】【療養生活支援看護学実習】について確認しておく。 事後学修：担当教員の指示に従う。	馬場

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
5		急性期看護学：急性期・周手術期における疾患や手術・治療による生体反応や回復を促進するための条件および予測される問題のリスクを踏まえ、退院後の生活を見据えた看護の役割を理解する。 事前学修：既修の知識【病態治療学B(外科学)】【病態治療学C(整形外科外科学)】【クリティカルケア論】【急性期看護学】【急性期看護学実習】について確認しておく。 事後学修：担当教員の指示に従う。	岩井
6		母性看護学：周産期を取り巻く課題（人工妊娠中絶・望まない妊娠・産後うつ・DVなど）をあげ、人間の生命と尊厳を尊重する態度を養うとともに、切れ目のない支援について理解する。 事前学修：既修の知識【病態治療学E(産婦人科学)】【母性看護学】【母性看護学実習】について確認しておく。 事後学修：担当教員の指示に従う。	小島
7		高齢者の健康生活支援看護学：高齢者に特有な健康課題（フレイル、摂食嚥下障害、認知症、感染症など）や多様な生活の場で展開する看護について理解する。 事前学修：既修の知識【病態治療学C(脳神経外科学)】【高齢者の健康生活支援看護学】【高齢者の健康生活支援看護学実習】について確認しておく。 事後学修：担当教員の指示に従う。	松山
試験		定期試験	全員
事前・事後学修		事前学修：既習の知識<人体の構造と機能><疾病の成り立ちと回復の促進><健康支援と保健医療システム><看護の統合と発展>の必修科目について履修開始までにまとめておき、各単元については、指定の内容について講義までにまとめておく。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評価方法		定期試験100%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教科書		各領域の担当教員の指示による。	
参考書		各領域の担当教員の指示による。	
履修上の注意点及び取扱い		初回授業時に説明する。	

科目名	周産期医学論		
科目コード	35101	科目ナンバリング	B351013
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	助産師課程に在籍していること。		
教員名	大瀬 恵子・今永 弓子・坂井 啓造・嶋津 光真・西川 有紀子・服部 慎之介・南谷 智之		
実務経験	大瀬：助産師として病院勤務 嶋津：指導医・専門医として病院勤務 坂井：指導医・専門医として病院勤務 西川：専門医として病院勤務 南谷：指導医・専門医・認定医として病院勤務 今永：専門医として病院勤務 服部：専門医として病院勤務		
オフィスアワー	授業終了後10分間(非常勤講師控室)		
科目概要	妊婦初期から中期・末期、産後における代表的な疾患について、疫学的状況、病態、特徴的な症候、治療法、予後等の基本的事項を学修する。授業では、可能な限り症例を提示し、母親及び新生児の正常からの逸脱を早期に発見、予知、さらには予防するために必要な知識や判断について、事例検討を行う。また、公衆衛生的な取り組みや倫理的事項についても、事例を検討することを通して理解を深める。		
到達目標	妊娠、分娩、産褥各期の正常からの逸脱の識別に必要な基礎知識と検査法が理解できる。 習得した知識を活用して、異常の早期発見はもとより、予防的ケアを考えることができる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		妊娠期の異常(妊娠持続期間の異常、着床異常、他) 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」p.26-61 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	嶋津
2		不妊治療 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。「助産学講座2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学」(第6版)p.136-154 「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」p.347 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	服部
3		新生児の異常と救急 事前学修：「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」p.236-324、「病気がみえる」p.400-431 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	嶋津
4		内科的合併症妊娠の管理(心・血管系疾患合併妊娠、血液疾患合併妊娠、腎疾患合併妊娠) 事前学修：「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」p.80-92、「病気がみえる」p.195-198 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	嶋津
5		新生児の異常と救急 事前学修：「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」p.236-324、「病気がみえる」p.400-431 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	嶋津
6		母子感染症の診断と治療 事前学修：「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」p.61-72、「病気がみえる」p.206-226 「助産学講座2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学」(第6版)p.156-195 「助産学講座6[1]妊娠期」(第6版)p.138-143 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	西川

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
7		母子感染症の診断と治療 事前学修：「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」p.61-72、「病気がみえる」p.206-226 「助産学講座2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学」(第6版)p.156-195「助産学講座6[1]妊娠期」(第6版)p.138-143 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	西川
8		胎児異常妊娠と遺伝カウンセリング +出生前診断 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。「助産学講座2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学」(第6版)p.84-133 「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」p.363-384 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	南谷
9		ハイリスク妊娠 婦人科疾患合併妊娠 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」p.2-22 p.74-79 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	坂井
10		分娩期の異常(分娩3要素の異常) 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」p.116-147 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	今永
11		出産に伴う偶発合併症(弛緩出血、子宮内反症、頸管裂傷、DIC、産褥熱など) 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」p.149-161 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	南谷
12		産科手術、無痛分娩 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」p.163-181 p.355-357 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	南谷
13		産科救急、外国人妊産婦へのケア 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」p.183-204 p.351-353 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	南谷
14		産褥期の異常(精神疾患、他) 事前学修：キーワードについて各自テキストを読み、ノートにまとめて授業に臨むこと。「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」p.206-232 p.328-342 (p.106-112) 事後学修：授業内容をノートにまとめ、学修内容を整理すること。	今永
試験		定期試験	大瀬
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評価方法		定期試験：100%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教科書		1. 遠藤俊子編「助産師基礎教育テキスト7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」、日本看護協会出版会、2024年 2. 医療医用法研究会編「病気がみえる Vol.10 産科」(第4版)、メディックメディア、2018年 3. 我部山キヨ子、武谷雄二編、藤井知行：「助産学講座2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学」(第6版)、医学書院、2021年 4. 我部山キヨ子、武谷雄二編：「助産学講座6[1] 妊娠期」(第6版)、医学書院、2021年 5. 松崎政代、白石三恵、藤井知行編：「助産学講座7[2] 分娩期・産褥期」(第7版)、医学書院	
参考書		1. 荒木勤「最新産科学 正常編」(第23版)、文光堂 2. 荒木勤「最新産科学 異常編」(第23版)、文光堂 3. 日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編：「産婦人科診療ガイドライン 産科編2023」、日本産婦人科学会 4. 日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編：「産婦人科診療ガイドライン婦人科外来編2023」、日本産婦人科学会	
履修上の注意点及び取扱い		授業回が前後する可能性があるため担当者・時間割を確認すること その場合は学務課を通じて掲示等で連絡するため、注意すること。	

科目名	助産学総論		
科目コード	35102	科目ナンバリング	B351023
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	15時間
先修条件	「助産管理論」の単位数先修条件となる。		
教員名	大瀬 恵子・小島 徳子		
実務経験	助産師として病院勤務(小島・大瀬)		
オフィスアワー	講義前後の休み時間内		
科目概要	助産の基本概念、変遷過程を理解し、対象の特性及び国際的な視野を含めた幅広い助産活動を行うために必要な基本知識を学修する。助産師の社会的使命と役割・機能を理解するとともに、助産の意義や対象を広くとらえ「助産、助産師とは何か」を絶えず自らに問いかけながら助産師の専門性、助産師に求められる姿勢や態度について考え、学修することをねらいとする。		
到達目標	助産師の実践活動について歴史的変遷を踏まえ、その役割と責務を理解できる。 助産師の専門性と自律した業務活動について理解できる。 助産師の職業倫理について理解できる。 助産活動について、日本と諸外国の活動を比較検討できる。 助産師教育について、日本と諸外国の教育を比較検討できる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		助産師課程オリエンテーション 母性看護学の振り返り	大瀬
2		助産師課程概要・授業の進め方 助産の概念 事前事後「助産学講座1」該当ページと配布資料	小島
3		助産師の定義と業務 助産師と教育 事前事後「助産学講座1」該当ページと配布資料	小島
4		助産師を支える理論と研究 事前事後「助産学講座1」該当ページと配布資料	小島
5		助産師と倫理 事前事後「助産学講座1」該当ページと配布資料	小島
6		母子保健の動向 事前事後「助産学講座1・9」該当ページと配布資料	小島
7		助産の歴史と文化 事前事後「助産学講座1・10」該当ページと配布資料	小島
試験		定期試験	小島
事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分		
評価方法	定期試験100%		
課題に対するフィードバック			

<p>教科書</p>	<p>1. 我部山キヨ子、安達久美子編：「助産学講座1 基礎助産学[1] 助産学概論」(第6版)、医学書院、2022年 2. 我部山キヨ子、武谷雄二編、藤井知行：「助産学講座2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学」(第6版)、医学書院、2021年 3. 我部山キヨ子編：「助産学講座3 基礎助産学[3] 母子の健康科学」(第6版)、医学書院、2023年 4. 吉沢豊予子：「助産師基礎教育テキスト第2巻 ウィメンズヘルスケア」、日本看護協会出版会、2023年 5. 我部山キヨ子編：「助産学講座10 助産管理」(第6版)、医学書院、2022年 6. 我部山キヨ子編：「助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健」(第6版)、医学書院、2023年</p>
<p>参考書</p>	<p>工藤美子編：「助産師基礎教育テキスト第1巻 助産概論・母子保健」、日本看護協会出版会 日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編：「産婦人科診療ガイドライン婦人科外来編2023」、日本産婦人科学会</p>
<p>履修上の注意点 及び取扱い</p>	<p>【履修について】 1 事前事後の学修を怠らないこと。 2 課題やレポートは、提出日時を厳守すること。 【出欠席について】 1 無断欠席は一切認めない。 2 やむを得ず欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 【定期試験の受験資格について】 学修ガイダンスに準ずる。 【定期試験不合格者に対する取扱いについて】 (助産師課程要項参照) 不合格(再試験で評価)の場合、次年度に再履修することはできない。 したがって、助産師課程離脱となる。</p>

科目名	助産管理論		
科目コード	35103	科目ナンバリング	B351033
授業形態	講義	開講時期	3年後期
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	30時間
先修条件	1. 「助産学総論」・「助産診断技術学」の単位を修得していること。2. 「助産学演習」の単位数先修条件となる。		
教員名	大瀬 恵子・小島 徳子・野々山 英里・中村 尚子		
実務経験	助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山) 管理者・助産師として助産院院長勤務(中村)		
オフィスアワー	講義前後の休み時間		
科目概要	助産業務の管理に必要な知識、法的範囲と責任と助産師外来や院内助産を含めた助産所のマネジメントとしての管理運営の基本に関する理解を深め、助産師業務を評価・調整する基礎的な能力を養う。また、周産期医療を取り巻く助産管理の実際と課題(医療安全の確保と医療事故防止とその対応、災害時の看護等)を様々な助産活動の場を通して理解する。		
到達目標	助産業務・管理の基本概念とプロセスについて理解する。 助産活動に関連した法規と責任について理解する。 助産業務管理の理論と実際を理解し、その課題を考えることができる。 助産に関わる事故・災害について理解し、その対応・対策を考えることができる。 自立した助産師活動について考えることができる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			○
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		助産管理の基本と助産業務管理：組織における管理とは 「助産学講座10 助産管理」該当ページ	大瀬
2		助産管理の基本と助産業務管理：組織における管理とは 「助産学講座10 助産管理」該当ページと配布資料	大瀬
3		助産業務管理と医療経済、関連法規と助産師の業務・責任：関連法規、助産師の法的責任と義務 「助産学講座10 助産管理」該当ページと配布資料	小島
4		関連法規と助産師の業務・責任：関連法規、助産師の法的責任と義務 「助産学講座10助産管理」該当ページと配布資料 母子保健行政の体系：母子保健にかかわる法律 「助産学講座9地域母子保健・国際母子保健」該当ページと配布資料	小島
5		周産期医療体制と地域連携 「助産学講座10 助産管理」該当ページ	小島
6		地域母子保健の考え方 「助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健」該当ページ	小島
7		場に応じた助産業務管理：周産期棟・混合病棟の管理 「助産学講座10 助産管理」該当ページと配布資料	小島
8		場に応じた助産業務管理：院内助産・院内助産院の管理 「助産学講座10 助産管理」該当ページと配布資料	小島
9		助産に関する医療安全と危機管理：助産師が行う安全対策と医療事故防止 「助産学講座10 助産管理」該当ページと配布資料	小島
10		国際母子保健：諸外国の母子保健活動、海外在日外国人の母子保健 在留外国人の母子保健 「助産学講座9地域母子保健・国際母子保健」該当ページと配布資料	小島
11		災害対策：災害時の地域母子保健活動 「助産学講座10 助産管理」「助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健」該当ページと配布資料	小島
12		地域母子保健活動の実際：地域母子保健活動 健康教育活動 学校との連携 「助産学講座10 助産管理」「助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健」該当ページと配布資料	野々山/大瀬

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
13		助産所における助産業務管理：助産所の管理・運営、助産所の管理に関する法規 「助産学講座10 助産管理」該当ページと配布資料	中村/大瀬
14		地域母子保健活動の基盤：母子保健活動における連携・協働、地域の様々な場における助産師の役割 地域母子保健活動の実際：産前の地域母子保健活動、産後の地域母子保健活動、特定の状況における地域母子保健活動 「助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健」該当ページと配布資料	中村/大瀬
試験		定期試験	小島
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評価方法		定期試験：100%	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教科書		1. 我部山キヨ子、毛利多恵子編：「助産学講座10 助産管理」(第6版)、医学書院、2022年 2. 我部山キヨ子、武谷雄二編：「助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健」(第6版)、医学書院、2023年 3. 成田伸編：「助産師基礎教育テキスト3 助産サービス管理」、日本看護協会出版会	
参考書		成田伸編：「助産師基礎教育テキスト3 助産サービス管理」、日本看護協会出版会 吉沢豊予子：「助産師基礎教育テキスト第2巻 ウィメンズヘルスケア」、日本看護協会出版会 日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編：「産婦人科診療ガイドライン婦人科外来編2023」、日本産婦人科学会 日本助産師会：「助産所開業マニュアル」(改訂版)、日本助産師会 福井トシ子編：「新版 助産師業務要覧 第4版 I 基礎編」2026年版、日本看護協会出版会 福井トシ子編：「新版 助産師業務要覧 第4版 II 実践編」2026年版、日本看護協会出版会 福井トシ子編：「新版 助産師業務要覧 第4版 III アドバンス編」2026年版、日本看護協会出版会 日本助産師会：助産業務ガイドライン2019、日本助産師会出版	
履修上の注意点及び取扱い		【履修について】 1 事前事後の学修を怠らないこと。 2 課題やレポートは、提出日時を厳守すること。 【出欠席について】 1 無断欠席は一切認めない。 2 やむを得ず欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 【定期試験の受験資格について】学修ガイダンスに準ずる。 【定期試験(課題レポート)の不合格者に対する取扱いについて】(助産師課程要項参照) 不合格(再試験でD評価)の場合、次年度に再履修することはできない。 したがって、助産師課程離脱となる。	

科目名	助産診断技術学		
科目コード	35104	科目ナンバリング	B351043
授業形態	講義	開講時期	3年前期
必修・選択	必修		
単位数	3単位	時間数	45時間
先修条件	「助産診断技術学」の単位数先修条件となる。		
教員名	大瀬 恵子・小島 徳子		
実務経験	助産師として病院勤務(小島・大瀬)		
オフィスアワー	講義前後の休み時間		
科目概要	<p>正常な経過をたどる対象者（妊婦・褥婦・新生児とその家族）の助産診断を臨床推論（Clinical Reasoning: CR）を通じて系統的に学修する。初期情報のアセスメントに基づき、探索的な情報収集を行うことにより診断の精度を高めていくという姿勢を獲得する。その上で、科学的根拠、女性の語り、文化・社会背景といったさまざまな視点から助産ケアの方向性を決定していくプロセスを学ぶ。これより、科学的根拠に基づき、対象者へ安全に助産実践できる基礎的能力を身につける。</p>		
到達目標	<p>助産診断・技術学の概要、マタニティサイクル各期の助産過程の展開について理解する。 正常な経過をたどる助産の対象者（妊婦・褥婦・新生児およびその家族）の経過診断、健康生活診断するために必要な知識を修得する。 ハイリスク妊娠および妊娠期の異常にある妊婦の助産診断と援助を理解する。 ハイリスク・異常状態にある褥婦の援助を理解する。 健康教育を行うための基礎知識を理解する。 健康教育を行うための企画・運営・評価を理解できる。 マタニティサイクル各期で行われる検査や使用される薬剤を理解する。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を果たすことができる			
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		科目ガイダンス 助産診断入門【臨床推論アプローチ】	小島
2		妊娠期の助産診断：妊娠経過の診断、胎児の発達・健康状態の診断 事前事後「助産学講座5・6」該当ページと配布資料	小島
3		妊娠期の助産診断：妊婦の健康生活の診断、妊婦の心理社会的側面の診断 事前事後「助産学講座4・6」該当ページと配布資料	小島
4		妊娠期の助産診断：事例展開と健康課題と健康教育と保健指導 事前事後「助産学講座5・6」該当ページと配布資料	小島
5		ハイリスク管理：妊娠期、産褥・新生児期 事前事後「助産学講座6・7・8」該当ページと配布資料	小島
6		ハイリスク管理：妊娠期、産褥・新生児期 事前事後「助産学講座6・7」該当ページと配布資料	小島
7		産褥期の助産診断：診断産褥経過の診断、褥婦の健康生活の診断 事前事後「助産学講座7」該当ページと配布資料	小島
8		産褥期の助産診断：褥婦の心理社会的側面の診断 事前事後「助産学講座4・7」該当ページと配布資料	小島
9		産褥期の助産診断：育児能力の診断、母乳育児に関する診断 事前事後「助産学講座7・8」該当ページと配布資料	小島
10		産褥期の助産診断：健康課題と教育 事前事後「助産学講座5・7」該当ページと配布資料	小島
11		産褥期の助産診断：事例展開と健康課題と保健指導 事前事後「助産学講座7」該当ページと配布資料	小島
12		産褥期の助産診断：事例展開と健康課題と保健指導 事前事後「助産学講座7」該当ページと配布資料	小島
13		新生児期の助産診断：出生後24時間以内の経過診断 事前事後「助産学講座8」該当ページと配布資料	小島

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
14		新生児期の助産診断：事例展開 事前事後「助産学講座8」該当ページと配布資料	小島
15		妊娠・産褥期〔講義〕：検査（胎児モニタリング・超音波検査）・薬剤・手術 事前事後「助産学講座5・6・7」該当ページと配布資料	小島
16		妊娠・産褥期〔講義〕：検査（胎児モニタリング・超音波検査）・薬剤・手術 事前事後「助産学講座5・6・7」該当ページと配布資料	小島
17		産褥/新生児期の健康課題と保健指導〔講義・演習〕乳房管理とケア技術の演習	小島
18		産褥/新生児期の健康課題と保健指導〔講義・演習〕乳房管理とケア技術の演習	小島
19		産褥/新生児期の健康課題と保健指導〔演習〕メンタルヘルスと支援の演習	小島
20		産褥/新生児期の健康課題と保健指導〔演習〕	大瀬
21		産褥/新生児期の健康課題と保健指導〔演習〕	大瀬
試験		定期試験	小島
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評価方法		定期試験：80%（内訳：妊娠期50% 産褥/新生児期50%） 助産過程・保健指導案：20% 最終評価は総合的に判定する。	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する	
教科書		1．堀内成子、片岡弥恵子編：「助産学講座5 助産診断・技術学」（第6版）、医学書院、2021年 2．我部山キヨ子、武谷雄二編：「助産学講座2〔2〕基礎助産学」（第6版）、医学書院、2021年 3．我部山キヨ子、菅原ますみ編：「助産学講座4〔4〕基礎助産学」（第6版）、医学書院、2023年 4．我部山キヨ子、武谷雄二編：「助産学講座6〔1〕妊娠期」（第6版）、医学書院、2021年 5．松崎政代、白石三恵編：「助産学講座7〔2〕分娩期・産褥期」（第7版）、医学書院、2021年 6．石井邦子、廣間武彦編：「助産学講座8〔3〕新生児期・乳幼児期」（第6版）、医学書院、2021年 7．佐々木くみ子編：「助産師基礎教育テキスト5 分娩期の診断とケア」、日本看護協会出版会、2024年 8．小林康江編：「助産師基礎教育テキスト7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」、日本看護協会出版会、2021年 9．北川真理子：「今日の助産」（第4版）、南江堂、2019年 10．医療医用法研究会編：「病気がみえる Vol.10 産科」（第4版）、メディックメディア、2018年 11．日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編：「産婦人科診療ガイドライン 産科編2023」、日本産婦人科学会	
参考書		森恵美編：「助産師基礎教育テキスト4 妊娠期の診断とケア」、日本看護協会出版会 江藤宏美編：「助産師基礎教育テキスト6 産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア」、日本看護協会出版会 太田操編著：「助産ケア臨床ノート分娩期の母児」、医歯薬出版株式会社 我部山キヨ子、大石時子：「助産師のためのフィジカルイグザミネーション」、医学書院 仁志田博司(原著)：「新生児学入門」（第6版）、医学書院 吉沢豊予子、鈴木幸子編：マタニティアセスメントガイド（新訂第4版）、真興交易（株）医書出版部 日本助産診断実践学会：マタニティ診断ガイドブック第7版、医学書院 日本助産診断実践学会：実践マタニティ診断第6版、医学書院 荒木 勤(著)：最新産科学 正常編第23版、文光堂 荒木 勤(著)：最新産科学 異常編第23版、文光堂 齊藤益子、木村好秀ら：家族計画指導の理論と実際、医学書院	
履修上の注意点及び取扱い		【履修について】 該当する教科書や参考書等の頁を提示するので、事前事後の学習を怠らないこと。 【出欠席について】 無断欠席は一切認めない。やむを得ず欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 【定期試験の受験資格について】 学修ガイダンスに準ずる。 【定期試験の不合格者に対する取扱いについて】 (助産師課程要項参照) 不合格（再試験でD評価）の場合、次年度に再履修することはできない。 したがって、助産師課程離脱となる。	

科目名	助産診断技術学		
科目コード	35105	科目ナンバリング	B351053
授業形態	演習	開講時期	3年後期
必修・選択	必修		
単位数	3単位	時間数	90時間
先修条件	1. 「助産学総論」・「助産診断技術学」の単位を修得していること。2. 「助産学演習」の単位数先修条件となる。		
教員名	大瀬 恵子・小島 徳子・野々山 英里・平野 友美		
実務経験	助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野)		
オフィスアワー	講義前後の休み時間		
科目概要	妊娠・分娩・産褥各期における女性の身体的・心理社会状態について、正常経過とその逸脱を独自に判断でき、対象により良い健康レベルの援助を提供するための必要な基礎実践能力について学修する。助産過程に必要な原理と技法を理解し、事例展開を行って、実際に活用できる能力を修得する。		
到達目標	<p>正常な経過をたどる助産の対象者（妊産婦、新生児およびその家族）の経過診断、健康生活診断するために必要な知識・技術を修得する。</p> <p>正常からの逸脱や異常の有無を判断するために必要な妊娠・分娩・産褥・新生児の異常に関する基礎的な知識を修得する。</p> <p>分娩介助技術の科学的根拠と介助技術を理解する。</p> <p>正常から逸脱した状態にある産婦の助産診断と援助を理解する。</p> <p>習得した知識や技術を活用し、分娩各期における助産計画を立案できる。</p> <p>産科手術および産科的医療処置、産科救急、会陰縫合術などを理解する。</p> <p>マタニティサイクル各期で行われる検査や使用される薬剤を理解する。</p> <p>健康教育・保健指導の企画や方法・運営・評価について修得する。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		助産診断技術学 オリエンテーション	大瀬
2		健康教育・保健指導に必要な方法や運営の実際について{演習} 出産準備教育の企画・運営方法の理解(企画・運営)する。 事前事後「助産学講座5・6・7 助産診断技術学」該当ページと配布資料	大瀬
3		健康教育・保健指導に必要な方法や運営の実際について{演習} 教育の企画・運営方法の理解(対象・ニーズについて)する。	大瀬
4		教育・保健指導に必要な方法や運営の実際：出産準備教育の企画・運営の実施	野々山/大瀬
5		健康教育・保健指導に必要な方法や運営の実際について{演習} 企画・運営の実際を理解する。	大瀬/全員
6		健康教育・保健指導に必要な方法や運営の実際について{演習} 企画・運営の実際を理解する。	大瀬/全員
7		健康教育・保健指導に必要な方法や運営の実際について{演習} 企画・運営の実際を理解する。	大瀬/全員
8		健康教育・保健指導に必要な方法や運営の実際について{演習} 企画・運営の実際を理解する。	大瀬/全員
9		分娩期{講義}：分娩期の生理、分娩経過のアセスメントに必要な知識と技術 事前事後「助産学講座7」の該当ページと配布資料	大瀬
10		分娩期{講義}：分娩期のニーズ・健康課題と看護 事前事後「助産学講座7」の該当ページと配布資料	大瀬
11		分娩期{講義}：分娩期に起こりうる正常からの逸脱 事前事後「助産学講座7」の該当ページと配布資料	大瀬
12		分娩介助方法の原理と原理を踏まえた分娩介助技術{講義} 分娩介助の意義・原理 事前事後「助産学講座7」の該当ページと配布資料 参考「今日の助産」	大瀬

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
13		分娩介助方法の原理と原則を踏まえた分娩介助技術{講義・演習} 正常分娩助法の原理(正常分娩の娩出機転など) 事前事後「助産学講座7」の該当ページと配布資料 参考「今日の助産」	大瀬
14		分娩介助方法の原理と原則を踏まえた分娩介助技術{講義・演習} 分娩介助時の技術(努責方法・会陰保護) 付属物の検査と計測(計測の実際) 事前事後「助産学講座7」の該当ページと配布資料 参考「今日の助産」	大瀬
15		分娩介助方法の原理と原則を踏まえた分娩介助技術{講義・演習} 分娩介助技術の実際(分娩マニュアルの作成) 事前事後「助産学講座7」の該当ページと配布資料 参考「今日の助産」	大瀬
16		分娩期の助産診断{講義}: 分娩時における助産診断とは 事前事後「助産学講座6・7」の該当ページと配布資料 参考「今日の助産」	大瀬
17		分娩期の助産診断{講義}: 電話連絡時・入院時の初期診断と助産計画立案 事前事後「助産学講座6・7」の該当ページと配布資料 参考「今日の助産」	大瀬
18		分娩期の助産診断{演習}: 事例展開(初期診断とパルドグラム) 事前事後「助産学講座7」の該当ページと配布資料 参考「今日の助産」	大瀬
19		分娩期の助産診断{演習}: 事例展開 事前事後「助産学講座6・7」の該当ページと配布資料 参考「今日の助産」	大瀬
20		分娩介助法の原理と原則を踏まえた分娩介助技術の実際について{演習} 正常分娩助助(分娩セットの準備、手洗い、ガウン・グローブ装着)	大瀬
21		分娩介助法の原理と原則を踏まえた分娩介助技術の実際について{演習} 正常分娩助助(清潔野の作成、分娩助助の準備、間接助助)、直接助助の実際	大瀬
22		分娩介助法の原理と原則を踏まえた分娩介助技術の実際について{演習} 正常分娩助助(清潔野の作成、分娩助助の準備、間接助助)、直接助助の実際	大瀬
23		分娩介助法の原理と原則を踏まえた分娩介助技術の実際について{演習} 正常分娩助助(清潔野の作成、分娩助助の準備、間接助助)、直接助助の実際	大瀬
24		分娩期の診断内容とフィジカルアセスメントに必要な助産技術{講義・演習} 分娩期に伴う技術(内診、人工破膜、導尿)	大瀬
25		産科手術および産科的医療処置{講義}: 産科手術(帝王切開・無痛分娩)、産科麻酔、救急処置 事前事後「助産学講座6」「助産学講座7」該当ページと配布資料	小島
26		産科手術および産科的医療処置{講義}: 産科手術(帝王切開・無痛分娩)、産科麻酔、救急処置 事前事後「助産学講座6」「助産学講座7」該当ページと配布資料	小島
27		分娩期の診断内容とフィジカルアセスメントに必要な助産技術{講義・演習} 破水を生じた産婦の看護(破水の種類、診察方法など)、誘発分娩、点滴管理 事前事後「助産学講座6」「助産学講座7」該当ページと配布資料	小島
28		分娩期の診断と援助{講義}: CTG装着と判読、児心音低下時の対応とケア 事前事後「助産学講座6」「助産学講座7」該当ページと配布資料	小島
29		分娩期の助産診断{演習}: 事例展開(助産計画の発表)	大瀬
30		分娩期の助産診断{演習}: 事例展開(助産計画の発表)	大瀬
31		分娩期の助産診断{演習}: 事例展開(助産計画の発表)	大瀬
32		分娩介助法の原理と原則を踏まえた分娩介助技術の実際について{演習} 付属物の検査と測定・出血量測定・分娩第3期のケア・分娩第4期のケア 事前事後「助産学講座7」該当ページと配布資料	大瀬
33		分娩期の診断内容とフィジカルアセスメントに必要な助産技術{講義・演習} 分娩期に伴う技術(会陰縫合)	大瀬
34		分娩期の診断内容とフィジカルアセスメントに必要な助産技術{講義・演習} 分娩期に伴う技術(会陰縫合)	大瀬
35		出生直後の新生児の管理{演習}: 間接助助・新生児係の役割・早期母子接触)	大瀬
36		出生直後の新生児の管理{演習}: 間接助助・新生児係の役割・早期母子接触)	大瀬
37		分娩介助法の原理と原則を踏まえた分娩介助技術の実際について{演習} 新生児の診断と援助、分娩期の助産技術の確認と振り返り	大瀬
38		教育・保健指導に必要な方法や運営の実際: 出産準備教育の企画・運営の実施	野々山/大瀬
39		教育・保健指導に必要な方法や運営の実際: 出産準備教育の企画・運営の実施	野々山/大瀬
40		教育・保健指導に必要な方法や運営の実際: 出産準備教育の企画・運営の実施	野々山/大瀬
41		教育・保健指導に必要な方法や運営の実際: 出産準備教育の企画・運営の実施	野々山/大瀬

授業計画 (回数)	該当する 到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
4 2		教育・保健指導に必要な方法や運営の実際：出産準備教育の企画・運営の実施	野々山/大瀬
試験		定期試験	大瀬
事前・事後学修		事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評価方法		定期試験：40% 分娩介助技術試験：40% 健康教育・保健指導発表、課題レポート等：20% 最終評価は総合的に判定する。	
課題に対する フィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する	
教科書		1．北川眞理子：「今日の助産」（第4版）、南江堂 2．堀内成子編：「助産学講座5 助産診断・技術学」（第7版）、医学書院 3．我部山キヨ子、武谷雄二編：「助産学講座6[1] 妊娠期」（第6版）、医学書院 4．松崎政代、白石三恵編：「助産学講座7[2] 分娩期・産褥期」（第7版）、医学書院 5．石井邦子、廣間武彦編：「助産学講座8[3] 新生児期・乳幼児期」（第6版）、医学書院 6．佐々木くみ子編：「助産師基礎教育テキスト5 分娩期の診断とケア」、日本看護協会出版会 7．小林康江編：「助産師基礎教育テキスト7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」、日本看護協会出版会 5．日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編：「産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023」、日本産婦人科学会 6．細野茂春監修：「新生児蘇生法テキスト」（第4版）、メジカルビュー社	
参考書		森恵美編：「助産師基礎教育テキスト4 妊娠期の診断とケア」、日本看護協会出版会 江藤宏美編：「助産師基礎教育テキスト6 産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア」、日本看護協会出版会 分娩期ケアガイドライン翻訳チーム：「WHO推奨 ポジティブな出産体験のための分娩期ケア」（2021年版）、医学書院 太田操編著：「助産ケア臨床ノート分娩期の母児」、医歯薬出版株式会社 医療医用法研究会編：「病気がみえる Vol.10 産科」（第4版）、メディックメディア 我部山キヨ子、大石時子：「助産師のためのフィジカルイグザミネーション」、医学書院 仁志田博司(原著)：「新生児学入門」（第6版）、医学書院 戸田律子、「マタニティクラスBOOK」、医学書院 吉沢豊予子：「助産師基礎教育テキスト第2巻 ウィメンズヘルスケア」、日本看護協会出版会 日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編：「産婦人科診療ガイドライン婦人科外来編 2023」、日本産婦人科学会 日本助産診断実践学会：マタニティ診断ガイドブック第7版、医学書院 日本助産診断実践学会：実践マタニティ診断	
履修上の注意 点及び取扱い		【履修について】 1 事前事後の学修と技術練習を怠らないこと。 2 課題やレポートは、提出日時を厳守すること。 【定期試験の受験資格について】 学修ガイダンスに準ずる。 【定期試験の不合格者に対する取扱いについて】（助産師課程要項参照） 1 分娩介助技術試験は再試験を実施する。 2 不合格（再試験でD評価）の場合、次年度に再履修することはできない。したがって、助産師課程離脱となる。	

科目名	助産学演習		
科目コード	35106	科目ナンバリング	B351064
授業形態	演習	開講時期	4年前期
必修・選択	必修		
単位数	1単位	時間数	30時間
先修条件	1. 「助産管理論」・「助産診断技術学」の単位を修得していること。2. 助産学実習の科目先修条件となる。		
教員名	大瀬 恵子・小島 徳子・野々山 英里・平野 友美		
実務経験	助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野)		
オフィスアワー	講義前後の休み時間		
科目概要	助産診断・技術学で学んだ知識や技術を活用し、臨床推論に基づいた産婦のケアに必要な能力や技術を修得する。加えて、分娩促進への援助、産科処置、分娩介助に必要な技術を修得する。産褥・新生児期を含むあらゆる対象者に対して健康教育や保健指導の実践をとして、助産実践能力を学修する。		
到達目標	臨床推論に基づいたケアを提供するための能力や技術を修得できる。 分娩促進への援助、産科処置、分娩介助に必要な技術を修得できる。 プレコンセプションケアのための健康教育・保健指導の企画、運営について修得できる。 産褥・新生児期における健康教育・保健指導の企画、運営について修得する。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			○
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1		助産学演習オリエンテーション 分娩介助技術の振り返り 分娩期に必要な技術(分娩促進への援助、産痛緩和、基本的ニーズへの援助等) 事前・事後: 該当テキスト・配布資料参照	大瀬
2		プレコンセプションケアのための健康教育 事前・事後: 該当テキスト・配布資料参照	野々山
3		プレコンセプションケアのための健康教育 事前・事後: 該当テキスト・配布資料参照	野々山
4		プレコンセプションケアのための健康教育(ワーク) 事前・事後: 該当テキスト・配布資料参照	野々山/大瀬
5		産褥・新生児期へ援助と保健指導の実際 退院指導・授乳指導 (集団指導)発表 事前・事後: 該当テキスト・配布資料参照	野々山/全員
6		分娩期に必要な技術(出生直後の新生児の観察) 事前・事後: 該当テキスト・配布資料参照	平野/大瀬
7		分娩期に必要な技術(出生直後の新生児の観察) 事前・事後: 該当テキスト・配布資料参照	平野/大瀬
8		助産診断(援助の実際)初産婦編 事前・事後: 該当テキスト・配布資料参照	大瀬
9		助産診断(援助の実際)初産婦編 事前・事後: 該当テキスト・配布資料参照	大瀬
10		助産診断(援助の実際)誘発分娩編 事前・事後: 該当テキスト・配布資料参照	大瀬
11		助産診断(援助の実際)誘発分娩編 事前・事後: 該当テキスト・配布資料参照	大瀬
12		プレコンセプションケアのための健康教育発表準備 事前・事後: 該当テキスト・配布資料参照	野々山/大瀬
13		産褥・新生児期へ援助と保健指導の実際 退院指導・授乳指導 (集団指導)発表 事前・事後: 該当テキスト・配布資料参照	野々山/全員
14		プレコンセプションケアのための健康教育発表準備 事前・事後: 該当テキスト・配布資料参照	野々山/大瀬

授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
試験		定期試験(分娩介助技術試験) 分娩介助技術技術到達に向けての確認、振り返り、評価	大瀬/全員
事前・事後学修		事前学修:講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修:講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分	
評価方法		保健指導発表:40%、分娩介助技術試験:50%、レポート等課題:10% 最終評価は総合的に判定する。	
課題に対するフィードバック		課題レポート等はコメント等を付して返却する。	
教科書		1.堀内成子編:「助産学講座5 助産診断・技術学」(第6版)、医学書院、2021年 2.我部山キヨ子、武谷雄二編:「助産学講座6[1] 妊娠期」(第6版)、医学書院、2021年 3.松崎政代、白石三恵編:「助産学講座7[2] 分娩期・産褥期」(第7版)、医学書院、2021年 4.石井邦子、廣間武彦編:「助産学講座8[3] 新生児期・乳幼児期」(第6版)、医学書院、2021年 5.北川真理子:「今日の助産」(第4版)、南江堂、2019年 6.細野茂春監修:「新生児蘇生法テキスト」(第4版)、メジカルビュー社、2021年 7.NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会:母乳育児支援スタンダード第3版、医学書院	
参考書		分娩期ケアガイドライン翻訳チーム:「WHO推奨 ポジティブな出産体験のための分娩期ケア」(2021年版)、医学書院 日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編:「産婦人科診療ガイドライン 産科編2023」 日本産婦人科学会 日本産婦人科医会編:「産婦人科診療ガイドライン 産科編2023」 日本産婦人科学会 太田操編著:「助産ケア臨床ノート分娩期の母児」、医歯薬出版株式会社 医療医用法研究会編:「病気がみえる Vol.10 産科」(第4版)、メディックメディア 我部山キヨ子、大石時子:「助産師のためのフィジカルイグザミネーション」、医学書院 戸田律子、「マタニティクラスBOOK」、医学書院 仁志田博司(原著):「新生児学入門」(第6版)、医学書院 横尾京子:「新生児ベーシックケア」、医学書院 荒木 勤(著):最新産科学 正常編第23版、文光堂 荒木 勤(著):最新産科学 異常編第23版、文光堂 吉沢豊予子:「助産師基礎教育テキスト第2巻 ウィメンズヘルスケア」、日本看護協会出版会 川島広江、大石時子:助産師のための性教育実践ガイド、医学書院	
履修上の注意点及び取扱い		【履修について】 1 事例を含めた資料を提示し、参加型授業を行う。 2 分娩介助演習における技術の習得については、積極的な自己学習活動を行うこと。 3 資料は講義ごとに配布するが、事前事後の学習を怠らないこと。 【出欠席について】 無断欠席は一切認めない。やむを得ず欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 【定期試験の受験資格について】 学修ガイダンスに準ずる。 【成績評価について】 健康教育・助産診断等を総合評価する。分娩介助技術試験は再試験を実施する。ただし、分娩介助技術試験が不合格になった場合は、単位を取得することができず助産学実習を履修することができない。 【不合格者に対する取扱いについて】(助産師課程要項参照) 不合格(再試験でD評価)の場合、次年度に再履修することはできない。したがって、助産師課程離脱となる。 7月10日9時~13時(予定)助産学CBT(助産学共用試験)実施(自費)	

科目名	助産学実習		
科目コード	35107	科目ナンバリング	B351074
授業形態	実習	開講時期	4年通年
必修・選択	必修		
単位数	9単位	時間数	405時間
先修条件	1. 「助産学演習」を履修していること。2. 「助産学実習」の単位数先修条件となる。		
教員名	大瀬 恵子・小島 徳子・野々山 英里・平野 友美		
実務経験	助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野)		
オフィスアワー	実習時間内		
科目概要	マタニティサイクル各期の母児とその家族を対象とした助産過程を展開し、助産ケアの実践を通して助産学に必要な理論と原理、原則および知識・技術・態度を修得する。妊娠中期から産後一か月健診までの継続事例への実践を通して、母児の安全・安楽な妊娠や出産、その後の育児支援に必要な看護を提供する能力を養う。また、緊急時及び周産期における異常時の処置やハイリスク母子とその家族への援助の実践を学ぶ。		
到達目標	<p>妊娠・分娩・産褥期・新生児期における助産過程を展開し、助産診断に基づくケアを実践・評価することができる。</p> <p>これまでに修得した知識や技術を用いて、正常分娩の介助を行い、母児の安全な出産のために、ニーズに即した個別的な看護を実践できる。</p> <p>母子および家族の健康生活に必要な継続性のある看護を提供することができる。</p> <p>助産業務の特性と母子保健活動における助産師の役割が体験的に理解でき、助産師の責務・倫理について説明ができる。</p> <p>助産師としての専門職の役割を認識し、アイデンティティの形成を目指すことができる。</p>		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画(回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1週目		病棟オリエンテーション：病棟案内、避難経路、病棟内の物品の場所、分娩1例の見学実習	全員
2週目		病棟実習：未分娩者を受け持ち産婦と胎児を継続的に把握し、助産過程を展開する。出生直後の母児へのケアを行う。継続事例1例を受け持ち、正常な妊婦への助産過程を展開する。	全員
3週目		病棟実習：未分娩者を受け持ち産婦と胎児を継続的に把握し、助産過程を展開する。出生直後の母児へのケアを行う。	全員
4週目		病棟実習：未分娩者を受け持ち産婦と胎児を継続的に把握し、助産過程を展開する。出生直後の母児へのケアを行う。継続事例の妊娠期の助産過程を展開し、保健指導を実施する。	全員
5週目		病棟実習：未分娩者を受け持ち産婦と胎児を継続的に把握し、助産過程を展開する。出生直後の母児へのケアを行う。	全員
6週目		病棟実習：未分娩者を受け持ち産婦と胎児を継続的に把握し、助産過程を展開する。出生直後の母児へのケアを行う。継続事例の妊娠期の助産過程を展開する。	全員
7週目		病棟実習：未分娩者を受け持ち産婦と胎児を継続的に把握し、助産過程を展開する。出生直後の母児へのケアを行う。継続事例の分娩期の助産過程を展開する。	全員
8週目		病棟実習：未分娩者を受け持ち産婦と胎児を継続的に把握し、助産過程を展開する。出生直後の母児へのケアを行う。継続事例の産褥期・新生児期の助産過程を展開する。	全員
9週目		分娩介助事例(継続事例含む)のまとめ、振り返り2週間健診、一か月健診のための保健指導立案	全員

事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分
評価方法	実習評価表（分娩記録及び分娩介助技術評価表を含む） 最終評価は総合的に判定する。
課題に対する フィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する
教科書	特に定めませんが、これまでの教科書に加え、配布された資料等を活用すること。
参考書	特に定めませんが、これまでの参考書に加え、配布された資料等を活用すること。
履修上の注意点 及び取扱い	実習方法、実習内容、実習施設についての詳細は実習のてびき、実習資料を参照すること。実習停止となった場合、助産師課程離脱となる。また、合格点に満たない場合も同様である。

科目名	助産学実習		
科目コード	35108	科目ナンバリング	B351084
授業形態	実習	開講時期	4年通年
必修・選択	必修		
単位数	2単位	時間数	90時間
先修条件	「助産学実習」の単位を修得していること。		
教員名	大瀬 恵子・小島 徳子・野々山 英里・平野 友美		
実務経験	助産師として病院勤務(小島・大瀬・野々山・平野)		
オフィスアワー	実習期間内		
科目概要	助産学実習を踏まえ、助産学の基本的知識とエビデンスに基づいて総合的に対象の状態を判断し、対象に応じた助産と診断に基づくケアができる能力を修得する。また、母子保健活動における助産師の役割を理解し、関係する多(他)職種、多機関と協働・連携ができる能力を養うとともに、助産師の役割や責務について学修を深める。		
到達目標	ハイリスク児の特徴とケアの実際を理解できる。 母子保健活動における助産師の役割と実際を理解できる。 地域で開業する助産師の助産業務管理について理解をできる。 多職種連携と協働の実際を理解をできる。		
学位授与方針			対応
高い倫理観を持ち人間の生命と尊厳及び権利を尊重し行動することができる			○
人々からの信頼を得るための品格を養うため、誠実に、礼節をもって行動することができる			○
根拠に基づく専門的知識・技術、ならびに論理的思考力による臨床推論により、対象の健康の保持増進、疾病予防、健康回復、QOL向上に寄与する看護を提供することができる			○
保健・医療・福祉のチーム一員として、各専門職の役割を理解し、連携・協働して、看護職の役割を考え果たすことができる			○
地域の特性を理解した上で、地域に貢献する活動を志向することができる			○
自己を研ぎ継続的に学ぶ姿勢を身につけることができる			○
人としてまた専門職として、自らの力を伸ばすことができる			○
授業計画 (回数)	該当する到達目標	内容・事前/事後学習	担当者
1日目		臨地：保健センターオリエンテーション(4月第4週目に実施)	全員
2日目		学内：学内オリエンテーション 家庭訪問または健康教育指導案作成	全員
3日目		臨地：NICU実習・学内振り返り	全員
4日目		臨地：NICU実習・学内振り返り	全員
5日目		臨地：保健センター実習 カンファレンス	全員
6日目		臨地：保健センター実習 カンファレンス	全員
7日目		助産所実習	全員
8日目		臨地/学内：高等学校・他実習：プレコンセプションケアにおける健康教育活動	全員
9日目		臨地：高等学校・他実習：プレコンセプションケアにおける健康教育活動	全員
10日目		学内：分娩期における技術(シミュレーション)/実習のまとめ	全員
事前・事後学修	事前学修：講義の前に前回までの内容を検討する。各120分 事後学修：講義の最後に次回の学修内容を指示する。各120分		
評価方法	実習評価表(実習記録及び課題レポートを含む)など最終評価は総合的に判定する。		
課題に対するフィードバック	課題レポート等はコメント等を付して返却する。		

教 科 書	<p>1. 我部山キヨ子編：「助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健」（第5版）、医学書院、2023年</p> <p>2. 我部山キヨ子、毛利多恵子編：「助産学講座10 助産管理」（第5版）、医学書院、2022年</p> <p>3. 吉沢豊予子：「助産師基礎教育テキスト第2巻 ウィメンズヘルスケア」、日本看護協会出版会、2024年</p> <p>4. 日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編：「産婦人科診療ガイドライン婦人科外来編2023」、日本産婦人科学会、2023年</p>
参 考 書	<p>小林康江編：「助産師基礎教育テキスト7 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」、日本看護協会出版会</p> <p>仁志田博司(原著)：「新生児学入門」（第6版）、医学書院</p> <p>田村正徳編：「新生児蘇生法テキスト」（第4版）、メジカルビュー社</p>
履修上の注意点及び取扱い	<p>実習方法、実習内容、実習施設についての詳細は実習のてびき、実習オリエンテーション資料を参照すること。</p>